

空間デザイン学部 2025 年度 開講シラバス

〈教養教育科目〉	1
建学の精神と仏教	1
☆空間デザイン入門Ⅰ	3
☆空間デザイン入門Ⅱ	5
キャリアデザイン	7
☆ICTリテラシー	9
☆ICTリテラシー	11
☆ICTリテラシー	13
空間デザインと ICT	15
空間デザインと ICT	17
言語表現演習Ⅰ	19
言語表現演習Ⅱ	21
☆英語(会話表現)Ⅰ	23
☆英語(会話表現)Ⅱ	25
☆英語(読解)Ⅰ	27
☆英語(読解)Ⅱ	29
英会話Ⅰ	31
英会話Ⅰ	33
英会話Ⅱ	35
英会話Ⅱ	37
フランス語Ⅰ	39
フランス語Ⅰ	41
フランス語Ⅱ	43
フランス語Ⅱ	45
ドイツ語Ⅰ	47
ドイツ語Ⅱ	49
韓国語Ⅰ	51
韓国語Ⅱ	53
中国語Ⅰ	55
中国語Ⅰ	57
中国語Ⅱ	59
中国語Ⅱ	61
日本語Ⅰ	63
日本語Ⅰ	65
日本語Ⅱ	67
日本語Ⅱ	70
日本事情Ⅰ	73
日本事情Ⅱ	75
☆人間と思想	77
生命の科学	79

倫理学	81
☆心理学	83
☆心理学	85
生涯学習論Ⅰ	87
生涯学習論Ⅱ	89
☆日本の文化と歴史	91
☆世界の文化と歴史	93
日本美術史	95
西洋文化史	97
☆地域文化概論	99
法学	101
数学の世界	103
物理の世界	105
生物と生命	107
色彩と科学	109
スポーツⅠ	111
スポーツⅠ	113
スポーツⅡ	115
スポーツⅡ	117
〈専門科目〉	119
平面と立体表現の基礎	119
平面と立体表現の基礎	121
製図の基礎	123
製図の基礎	125
図学と透視画の基礎	127
図学と透視画の基礎	129
建築・インテリアデザイン入門	131
プロダクトデザイン入門	133
CADⅠ	135
CADⅠ	137
家具・陶芸・テキスタイルデザイン入門	139
☆博物館概論	141

〈教養教育科目〉

建学の精神と仏教

科目分類 (2025 年 ～入学者)	SD-L-111 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-110-11 (J)	授業コード	F04010
科目名称	建学の精神と仏教			単位数	2.0 単位
英文名称	Buddhism I			授業区分	講義
科目責任者	山本 元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 元隆			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある仏教の開祖・釈尊と曹洞宗の開祖・道元の教えと人間観について概説する。また、本学園の創立者・山上曹源先生の教育観についても建学の精神と関連付けながら講じる。本学での学びの礎となる建学の精神、および仏教の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教と禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1. 釈尊と道元の教えや人間観、山上曹源先生の教育観を理解することができる。 2. 建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習 : 建学の精神について調べておく 授業 : ガイダンス 建学の精神と仏教 復習 : 建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる			
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習 : 駒澤学園の歴史について調べておく 授業 : 山上曹源先生の教育観 駒澤学園の歴史 復習 : 山上先生の教育観についてまとめる			
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習 : 「花まつり」について調べておく 授業 : 釈尊の誕生 (花まつり) 「中道」の教え 復習 : 「命の尊さ」について考えをまとめる			
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習 : 「成道」「初転法輪」について調べておく 授業 : 成道と「縁起」 初転法輪と「四諦八正道」(課題解決型授業) 復習 : 釈尊の教え (縁起・四諦八正道) の要点をまとめる			
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習 : 「諸行無常」について調べておく 授業 : 釈尊の伝道 「涅槃」と「諸行無常」 釈尊に関する学校行事 復習 : 学校行事 (三仏忌) の意義をまとめる			
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習 : 坐禅の意義と作法について調べておく 授業 : 坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 : 坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる			
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習 : 「菩薩」について調べておく 授業 : 大乘仏教の展開 「菩薩」の教え 復習 : 「菩薩」と利他行について要点をまとめる			
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習 : 道元の生涯について調べておく 授業 : 道元の誕生から出家、入宋 復習 : 駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる			
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習 : 「典座教訓」について調べておく 授業 : 典座の教え (典座教訓) 道元の大悟 (身心脱落) 復習 : 「身心脱落」の教えの要点をまとめる			
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習 : 永平寺について調べておく 授業 : 道元の接化 永平寺の建立 道元の示寂 復習 : 駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる			

11	山本 元隆	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる						
12	山本 元隆	【第 12 回】 予習：身のまわりの仏教（文化）について調べる 授業：仏教と日本文化 仏教の建築美 仏教と芸術 復習：多彩な仏教文化の特色についてまとめる						
13	山本 元隆	【第 13 回】 予習：身のまわりの禅（文化）について調べる 授業：禅と日本文化 禅の空間美 禅と芸術 復習：多彩な禅文化の特色についてまとめる						
14	山本 元隆	【第 14 回】 予習：みずからの学びと仏教・禅の関連について調べておく 授業：仏教・禅の学際的な学び 現代社会と仏教・禅 復習：みずからの学びと仏教・禅の関連について考えをまとめる						
15	山本 元隆	【第 15 回】 予習：建学の精神と仏教Ⅱの要点を振り返る 授業：建学の精神など本科の学びの総括 復習：建学の精神を礎とした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる						
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、ならびに配付資料を読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。						
評価の基準と方法		授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△
関連科目								
その他		照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。						

☆空間デザイン入門Ⅰ

科目分類（2025 年 ～入学者）	SD-L-111	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F00410		
科目名称	☆空間デザイン入門Ⅰ			単位数	2.0 単位		
英文名称	Introduction to Space DesignⅠ			授業区分	講義		
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	李・佐藤(勉)・堀邊・茂木・山崎			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	住宅から店舗、公共施設、まちづくりといった、建物の内観から外観までの空間デザインに関わる基本的な知識を養います。将来の自分が専門性を持って社会とどのように向き合っていくかをイメージしながら、空間を総合的にデザインし提案するための初歩的な技術を学びます。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身に付け、主体的な学習方法を体得します。						
到達目標	自分の考えの表現、伝達、他者への批評を行えるよう、主体的な学習方法を体得すること。またこれらを通じて自己の能力を発見し、高められるようになる。建築、インテリア分野が目指す基礎的なデザイン内容と領域を理解しイメージできるようになる。同時にそれぞれの分野の特徴と差異を理解する事を目標とする。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 1 回】 予習：履修ガイド学科該当ページの熟読 授業：ガイダンス 復習：ガイダンスのふりかえり					
2	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 2 回】 予習：学生生活ガイド該当ページの熟読 授業：学内ツアー、図書館の使い方 復習：学内ツアー、図書館の使い方のふりかえり					
3	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 3 回】 予習：「空間デザイン入門交流会」予備調査 授業：「空間デザイン入門交流会」課題説明（グループワーク） 復習：「空間デザイン入門交流会」企画準備					
4	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 4 回】 予習：「空間デザイン入門交流会」準備 授業：「空間デザイン入門交流会」実施（グループワーク） 復習：「空間デザイン入門交流会」報告レポート作成					
5	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 5 回】 予習：建築デザインについて考える 授業：「空間と建築デザイン（講義）」、「日本のくらし」課題出題 復習：配布資料のふりかえり					
6	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 6 回】 予習：「日本のくらし」事前準備 授業：「日本のくらし」資料作成、レポートの書き方 復習：「日本のくらし」調査資料のまとめ					
7	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 7 回】 予習：「日本のくらし」発表内容の整理 授業：「日本のくらし」見学時調査項目発表（グループ発表）、文献の調査方法と文献の読み方 復習：「日本のくらし」見学時調査項目の整理					
8	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 8 回】 予習：「日本のくらし」見学会事前準備 授業：「日本のくらし」江戸東京たてもの園見学会実施（フィールドワーク） 復習：「日本のくらし」見学会調査結果まとめ					
9	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 9 回】 予習：「日本のくらし」プレゼン資料準備 授業：「日本のくらし」プレゼン制作作業 復習：「日本のくらし」プレゼン資料作成、レポート作成					
10	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 10 回】 予習：「日本のくらし」クラス発表資料作成 授業：「日本のくらし」プレゼンテーション発表会（グループ発表・プレゼンテーション） 復習：「日本のくらし」クラス発表整理、レポート作成					
11	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 11 回】 予習：インテリアデザインについて考える 授業：「空間とインテリアデザイン（講義）」、「店舗のインテリアを考える」課題出題					

		復習：配布資料のふりかえり						
12	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 12 回】 予習：「店舗のインテリアを考える」事前準備 授業：「店舗のインテリアを考える」調査資料作成、「空間と家具デザイン（講義）」 復習：「店舗のインテリアを考える」調査資料のまとめ						
13	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 13 回】 予習：「店舗のインテリアを考える」事前準備 授業：「店舗のインテリアを考える」発表資料作成 復習：「店舗のインテリアを考える」発表資料のまとめ						
14	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 14 回】 予習：「店舗のインテリアを考える」クラス発表資料作成 授業：「店舗のインテリアを考える」プレゼンテーション発表会（プレゼンテーション） 復習：「店舗のインテリアを考える」クラス発表整理、レポート作成						
15	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 15 回】 予習：前期のふりかえり 授業：夏休み課題出題、前期のふりかえり 復習：夏休み課題						
授業開始前学習		大学で学ぶための基本的な姿勢や心構えやについて、履修ガイドの該当する項目を熟読すること。日本人のくらしや住まいについて、書籍やインターネットを通して基本的な知識を得ること。						
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の実施後に講評を行う。						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書		資料等を適宜配布・紹介する。						
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 70%、受講態度など 30%。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎		△			
関連科目								
その他		「日本のくらし」江戸東京たてもの園 見学会は 3 時間程度行われる。 見学会を実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。 見学会の交通費は自己負担となる。見学先での記録道具としてスマートフォンやデジタルカメラなどを用意すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

☆空間デザイン入門Ⅱ

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-L-111	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11	授業コード	F00420	
科目名称		☆空間デザイン入門Ⅱ				単位数	2.0 単位	
英文名称		Introduction to Space Design Ⅱ				授業区分	講義	
科目責任者		佐藤 勉				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		李・佐藤(勉)・堀邊・茂木・山崎				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		住宅から店舗、公共施設、まちづくり、プロダクトデザイン、グラフィックデザインといった、建物の内観から外観までの空間デザインについて、幅広く客観的な視点から学びます。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身に付け、主体的な学習方法を習得するとともに、将来の自分が専門性を持って社会と向き合っていくために必要な調査力や分析力、表現力も体得します。						
到達目標		自分の考えの表現、伝達、他者への批評を行えるよう、主体的な学習方法を体得すること。またこれらを通じて自己の能力を発見し、高められるようになる。 与えられた課題に対して調査を行い、その結果を分析して独自の結論を導き出せるようになる。またその結論をプレゼンテーションして他者に伝えることを目標とする。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 1 回】 予習：夏休み課題の確認 授業：ガイダンス、「看護学科・健康栄養学科との協同学習」課題説明、KJ 法の説明と練習 復習：配布資料のふりかえり						
2	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 2 回】 予習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」事前準備 授業：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」実施（グループワーク） 復習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」調査資料のまとめ						
3	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 3 回】 予習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」事前準備 授業：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」発表資料作成（グループワーク、プレゼンテーション） 復習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」発表資料のまとめ						
4	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 4 回】 予習：「りんどう祭展示」運営の事前準備 授業：「りんどう祭展示」運営 復習：「りんどう祭展示」のふりかえり						
5	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 5 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」予備調査 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」課題出題 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」事前調査レポート						
6	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 6 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」事前調査レポート発表準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」事前調査レポート発表（プレゼンテーション） 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」発表のふりかえり						
7	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 7 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」見学準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」見学会 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」見学会ふりかえり						
8	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 8 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート制作作業 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」レポート作成						
9	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 9 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート制作準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート制作作業 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」レポート作成						
10	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 10 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」発表準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」発表会（グループ発表・プレゼンテーション） 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」発表のふりかえり						

11	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 11 回】 予習：「まち歩き」予備調査 授業：「まち歩き」課題出題 復習：「まち歩き」事前調査レポート							
12	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 12 回】 予習：「フィールドワーク」とは何か調べる 授業：「フィールドワーク」の案内、プレゼンテーションについて（講義） 復習： 講義のふりかえり							
13	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 13 回】 予習：「まち歩き」事前調査レポート発表準備 授業：「まち歩き」事前調査レポート発表（グループ発表）、冬休み課題出題 復習：「まち歩き」事前調査レポート発表のふりかえり、冬休み課題							
14	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 14 回】 予習：「まち歩き」発表準備 授業：「まち歩き」発表会（プレゼンテーション） 復習：「まち歩き」発表会ふりかえり							
15	李、佐藤、堀邊、茂木、山崎	【第 15 回】 予習：これまでの学修内容をふりかえる 授業：「まち歩き」発表会、春休み課題出題、後期授業アンケート実施、後期のふりかえり 復習：春休み課題							
授業開始前学習		前期の住空間デザイン入門Ⅰで出題された夏休み課題を見直しておくこと。 現在居住しているの地域や歴史について、書籍やインターネットを通して基本的な知識を得ること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の実施後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書		資料等を適宜紹介する。							
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 70%、受講態度など 30%。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎		△			
関連科目									
その他		正課学外活動として見学会が土日または祝日のいずれかに実施される。 見学会を実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。 交通費は自己負担、見学先によっては入場料がかかる場合がある。 見学先での記録道具としてスマートフォンやデジタルカメラなどを用意すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-111 SD-L-111	科目分類（～2024 年 入学者）			授業コード	F01675	
科目名称	キャリアデザイン				単位数	2.0 単位	
英文名称	Career Design				授業区分	講義	
科目責任者	西尾 尚子				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	西尾・渡辺(賢)				開講時期	1 年	
オフィスアワー	-				研究室	-	
授業概要	経済のグローバル化にともない、これまでの日本の経済を支えてきた産業構造や人口構造は大きく変化し、就業形態や人生観も多様化している。本講義では、女性の「生き方」について「就業観」「生きがい」「子育て」などを通して議論を進める。この作業を通して、卒業後の就業に際して「企業が求める人物像」と「個人の抱く社会人観」「家族観」をつなぐ価値観を再編し、具体的に語ることのできる素養を身につけることを目指す。						
到達目標	①自己理解を深める：自分の関心が向く分野や得意なこと、そして大切にしたい価値観を明確にする。 ②社会の仕組みを知る：現代社会で求められるスキルや、多様な業界・企業・職業における働き方を理解する。 ③未来への道筋を描く：自己理解と社会理解をもとに、大学生活をどう過ごし、どのようなキャリアを築くかを考え、目標を設定する。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す。 授業：授業全体のガイダンス、キャリアデザインの考え方 復習：授業時間内に明示					
2	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 2 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：キャリアを知る① 復習：授業時間内に明示					
3	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 3 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：マナーを知る①（社会人としてのマナーの基礎） 復習：授業時間内に明示					
4	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 4 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：マナーを知る②（社会人としてのマナーの応用と実践） 復習：授業時間内に明示					
5	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 5 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：キャリアを知る② 復習：授業時間内に明示					
6	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 6 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：キャリアを知る③ 復習：授業時間内に明示					
7	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 7 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：資格について知る/業界・企業・職種について知る① 復習：授業時間内に明示					
8	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 8 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：キャリアを知る④ 復習：授業時間内に明示					
9	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 9 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：キャリアを知る⑤ 復習：授業時間内に明示					
10	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 10 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：キャリアを知る⑥ 復習：授業時間内に明示					

11	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 11 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 業界・企業・職種について知る② 復習 : 授業時間内に明示						
12	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 12 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 自分を知る①（自己分析と目標設定） 復習 : 授業時間内に明示						
13	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 13 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : キャリアを知る⑦ 復習 : 授業時間内に明示						
14	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 14 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 法律を知る（自己分析と目標設定） 復習 : 授業時間内に明示						
15	渡辺 賢 西尾 尚子	【第 15 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 自分を知る②(目標設定の共有) 復習 : 授業時間内に明示						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		各回の授業を通じて得た気づきや感想、疑問点などを振り返り、それらをリアクションペーパーとしてまとめ、提出。 提出された内容には、講師がコメントを添え、次の授業内でフィードバックを行う。						
テキスト・教材		特になし。適宜プリントを配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点（授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価：60％）と提出課題（授業内にて実施も含む）（40％）を基準とし、総合的に判断する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード	F03118		
科目名称	☆ICT リテラー			単位数	1.0 単位		
英文名称	Basics of ICT Literacy			授業区分	演習		
科目責任者	鈴木利彦			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	鈴木 利彦			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509		
授業概要	ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しく、コンピュータ、スマートフォン、タブレット端末を使ってテレワークや遠隔授業などを行うようになりました。こうした中、ICT リテラーでは ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。授業では、社会的に多用しているオフィス系ソフト（ドキュメント、スプレッドシート、スライド）の基礎的な操作技術と、1 年後期以降の授業で生かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行います。						
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書や図表、スライド資料を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	鈴木 利彦	予習：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと／使用するノート PC を各自用意すること 授業：コンピュータの仕組みと起動①／Wi-Fi の接続方法／KOMAJO ポータルの使い方／Google クラスルームの使い方／メールの使い方 復習：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと					
2	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：コンピュータの仕組みと起動②／ワープロ演習：タイピングのホームポジション 復習：PC のキーボード入力とトラック入力の違いを振り返っておくこと					
3	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力 復習：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと					
4	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：文書作成とレイアウト 復習：さまざまな文章のレイアウトを確認すること					
5	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理①「料理レシピ作成（1）」 復習：作成した料理レシピから操作方法を振り返ること					
6	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理②「料理レシピ作成（2）」 復習：作成した料理レシピから画像の取り扱いを振り返ること					
7	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本① セル入力と四則計算 復習：ワープロソフトと表計算ソフトの操作方法の相違を振り返ること					
8	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本② 代表的な関数計算 復習：作成した表から操作方法を振り返ること					
9	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本③ 特殊な関数計算 復習：作成した表から操作方法や関数計算を振り返ること					
10	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本④ 歳入・歳出の概要（1） 復習：それぞれの区分について理解すること					
11	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業：表計算演習：計算とグラフの基本⑤ 歳入・歳出の概要（2） 復習：財政状況と時事問題を理解すること					
12	鈴木 利彦	予習：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること／ドキュメントで作成した料理レシピの内容を確認すること 授業：スライド演習：スライド資料の作成①「料理レシピ紹介」スライド作成のための操作練習 復習：作成した料理レシピの内容をわかりやすく伝えるスライドを検討すること					

13	鈴木 利彦	予習 : 使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること／ 授業 : スライド演習 : スライド資料の作成②「料理レシピ紹介」スライド作成の実行 復習 : 作成した料理レシピの内容をわかりやすく伝えるために、追加の図や画像を収集すること						
14	鈴木 利彦	予習 : 使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 : スライド演習 : スライド資料の作成③「料理レシピ紹介」図や画像の挿入 復習 : 作成した料理レシピから画像の取り扱いを振り返ること						
15	鈴木 利彦	予習 : 使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 : スライド演習 : スライド資料の作成④「料理レシピ紹介」さまざまな出力 復習 : ドキュメント、スプレッドシート、スライドのそれぞれについて、出力操作を振り返ること						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおく全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスをを行う。						
テキスト・教材		GWE（Google クラスルーム）で適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		授業内提出の課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%、授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		空間デザインと ICT CADI						
その他		・授業では毎回ノートパソコンを各自で持参すること。充電は授業前までに十分に行っておくこと。 ・初回授業までにノート PC が用意できなかった場合は、初回授業で申し出ること。 ・GWE(Google Workspace for Education) = Google クラスルームを中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 ・課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F03119
科目名称	☆ICT リテラシー	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Basics of ICT Literacy	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	中澤 美奈	研究室	-		
担当教員	中澤 美奈				
オフィスアワー	-				
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラシーの基礎および応用では、ICT (情報通信技術) を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン (タブレット) を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中澤 美奈	予習 : 履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 : コンピュータの仕組みと起動 / KOMAJO ポータルの使い方 / Google クラウドの使い方 / メールの使い方 復習 : KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと			
2	中澤 美奈	予習 : 教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : タイピング (課題 2-1-1) 復習 : タイピングのホームポジションを振り返っておくこと			
3	中澤 美奈	予習 : 教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 四字熟語・慣用句の入力 (課題 2-1-2・課題 2-1-3) 復習 : 四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと			
4	中澤 美奈	予習 : 教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 文書作成とレイアウト (課題 2-1-4・課題 2-2-1・課題 2-2-5) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな文章のレイアウトを確認すること			
5	中澤 美奈	予習 : 教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (時間割) (課題 2-3-1) (課題解決型課題) 復習 : 作成した時間割から操作方法を振り返ること			
6	中澤 美奈	予習 : 教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (履歴書) (課題 2-3-2) (課題解決型課題) 復習 : 作成した履歴書から操作方法を振り返ること			
7	中澤 美奈	予習 : 教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから操作方法を振り返ること			
8	中澤 美奈	予習 : 教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること			
9	中澤 美奈	予習 : 教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : ビジネス文書の作成 (見積書) (課題 2-3-4) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			
10	中澤 美奈	予習 : 教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (キャラクタ) (課題 2-4-1) (課題解決型課題) 復習 : 図形描画の操作方法を振り返ること			
11	中澤 美奈	予習 : 教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (地図) (課題 2-4-2) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			

12	中澤 美奈	予習：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題 2－4－3）（課題解決型課題） 復習：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること						
13	中澤 美奈	予習：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること						
14	中澤 美奈	予習：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：さまざまなプレゼン資料を確認すること						
15	中澤 美奈	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：全体の流れの振り返りを行うこと						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目		ICT リテラシーの応用						
その他		GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-111-21	授業コード	F03110
科目名称	☆ICT リテラシー			単位数	1.0 単位
英文名称	Basics of ICT Literacy			授業区分	演習
科目責任者	高橋 大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	高橋 大介			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラシーの基礎および応用では、ICT (情報通信技術) を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン (タブレット) を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	高橋 大介	予習 : 履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 : コンピュータの仕組みと起動 / KOMAJO ポータルの使い方 / Google クラウドの使い方 / メールの使い方 復習 : KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと			
2	高橋 大介	予習 : 教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : タイピング (課題 2-1-1) 復習 : タイピングのホームポジションを振り返っておくこと			
3	高橋 大介	予習 : 教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 四字熟語・慣用句の入力 (課題 2-1-2・課題 2-1-3) 復習 : 四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと			
4	高橋 大介	予習 : 教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 文書作成とレイアウト (課題 2-1-4・課題 2-2-1・課題 2-2-5) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな文章のレイアウトを確認すること			
5	高橋 大介	予習 : 教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (時間割) (課題 2-3-1) (課題解決型課題) 復習 : 作成した時間割から操作方法を振り返ること			
6	高橋 大介	予習 : 教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (履歴書) (課題 2-3-2) (課題解決型課題) 復習 : 作成した履歴書から操作方法を振り返ること			
7	高橋 大介	予習 : 教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから操作方法を振り返ること			
8	高橋 大介	予習 : 教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 罫線処理とレイアウト処理 (レシピ) (課題 2-3-3) (課題解決型課題) 復習 : 作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること			
9	高橋 大介	予習 : 教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : ビジネス文書の作成 (見積書) (課題 2-3-4) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			
10	高橋 大介	予習 : 教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (キャラクタ) (課題 2-4-1) (課題解決型課題) 復習 : 図形描画の操作方法を振り返ること			
11	高橋 大介	予習 : 教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 : ワープロ演習 : 図形描画 (地図) (課題 2-4-2) (課題解決型課題) 復習 : さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること			

12	高橋 大介	予習：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題 2－4－3）（課題解決型課題） 復習：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること						
13	高橋 大介	予習：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること						
14	高橋 大介	予習：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：さまざまなプレゼン資料を確認すること						
15	高橋 大介	予習：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習：全体の流れの振り返りを行うこと						
授業開始前学習		高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。						
テキスト・教材		『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版						
参考書								
評価の基準と方法		毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目	ICT リテラシーの応用							
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）			授業コード	F04111	
科目名称	空間デザインと ICT				単位数	1.0 単位	
英文名称	Space Design and ICT				授業区分	演習	
科目責任者	西尾 尚子				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	西尾 尚子				開講時期	1 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10				研究室	2-214	
授業概要	本授業は、大学で授業を受けるために必要な ICT リテラシーおよび、CAD ソフトの基本を身につけることを目的とする。建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピューターによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）の基礎課題を通して、ファイル管理や教場機材の使用手法などを身につける。CAD ソフトは「VectorWorks(エーアンドエー株式会社)」を使用する。						
到達目標	①ICT リテラシーの基礎を習得する ②CAD ソフト「VectorWorks」の基本操作を習得する ③デジタルツールを活用したデザインワークフローを理解する						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	西尾 尚子	【第 1 回】 予習 ： シラバスに目を通す 授業 ： 授業全体のガイダンス 復習 ： 授業時間内に明示					
2	西尾 尚子	【第 2 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： CAD の基礎概念と VectorWorks の概要① 復習 ： 授業時間内に明示					
3	西尾 尚子	【第 3 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： CAD の基礎概念と VectorWorks の概要② 復習 ： 授業時間内に明示					
4	西尾 尚子	【第 4 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 基本図形の作成と編集① 復習 ： 授業時間内に明示					
5	西尾 尚子	【第 5 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 基本図形の作成と編集② 復習 ： 授業時間内に明示					
6	西尾 尚子	【第 6 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 基本図形の作成と編集③ 復習 ： 授業時間内に明示					
7	西尾 尚子	【第 7 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： レイヤーとクラス概念 復習 ： 授業時間内に明示					
8	西尾 尚子	【第 8 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 寸法・注釈・テキストの挿入 復習 ： 授業時間内に明示					
9	西尾 尚子	【第 9 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 図面の基本作成① 復習 ： 授業時間内に明示					
10	西尾 尚子	【第 10 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 図面の基本作成② 復習 ： 授業時間内に明示					
11	西尾 尚子	【第 11 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： ビジュアル表現					

		復習 : 授業時間内に明示						
12	西尾 尚子	【第 12 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : レイアウトと図面の出力 復習 : 授業時間内に明示						
13	西尾 尚子	【第 13 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : CAD データの管理と共有 復習 : 授業時間内に明示						
14	西尾 尚子	【第 14 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : CAD の活用事例 復習 : 授業時間内に明示						
15	西尾 尚子	【第 15 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : まとめと今後の活用 復習 : 授業時間内に明示						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説する。						
テキスト・教材		必要資料を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		出席状況、授業中の演習課題の提出内容および受講態度 3 割、提出作品 7 割の総合的な判断に基づき評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）			授業コード	F04112
科目名称	空間デザインと ICT				単位数	1.0 単位
英文名称	Space Design and ICT				授業区分	演習
科目責任者	西尾 尚子				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾 尚子				開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10				研究室	2-214
授業概要	本授業は、大学で授業を受けるために必要な ICT リテラシーおよび、CAD ソフトの基本を身につけることを目的とする。建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピューターによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）の基礎課題を通して、ファイル管理や教場機材の使用手法などを身につける。CAD ソフトは「VectorWorks(エーアンドエー株式会社)」を使用する。					
到達目標	①ICT リテラシーの基礎を習得する ②CAD ソフト「VectorWorks」の基本操作を習得する ③デジタルツールを活用したデザインワークフローを理解する					
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	西尾 尚子	【第 1 回】 予習 ： シラバスに目を通す 授業 ： 授業全体のガイダンス 復習 ： 授業時間内に明示				
2	西尾 尚子	【第 2 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： CAD の基礎概念と VectorWorks の概要① 復習 ： 授業時間内に明示				
3	西尾 尚子	【第 3 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： CAD の基礎概念と VectorWorks の概要② 復習 ： 授業時間内に明示				
4	西尾 尚子	【第 4 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 基本図形の作成と編集① 復習 ： 授業時間内に明示				
5	西尾 尚子	【第 5 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 基本図形の作成と編集② 復習 ： 授業時間内に明示				
6	西尾 尚子	【第 6 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 基本図形の作成と編集③ 復習 ： 授業時間内に明示				
7	西尾 尚子	【第 7 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： レイヤーとクラス概念 復習 ： 授業時間内に明示				
8	西尾 尚子	【第 8 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 寸法・注釈・テキストの挿入 復習 ： 授業時間内に明示				
9	西尾 尚子	【第 9 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 図面の基本作成① 復習 ： 授業時間内に明示				
10	西尾 尚子	【第 10 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： 図面の基本作成② 復習 ： 授業時間内に明示				
11	西尾 尚子	【第 11 回】 予習 ： 配布資料の事前参照 授業 ： ビジュアル表現				

		復習 : 授業時間内に明示						
12	西尾 尚子	【第 12 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : レイアウトと図面の出力 復習 : 授業時間内に明示						
13	西尾 尚子	【第 13 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : CAD データの管理と共有 復習 : 授業時間内に明示						
14	西尾 尚子	【第 14 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : CAD の活用事例 復習 : 授業時間内に明示						
15	西尾 尚子	【第 15 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : まとめと今後の活用 復習 : 授業時間内に明示						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説する。						
テキスト・教材		必要資料を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		出席状況、授業中の演習課題の提出内容および受講態度 3 割、提出作品 7 割の総合的な判断に基づき評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習 I

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21	授業コード	F02019	
科目名称		言語表現演習 I				単位数	1.0 単位	
英文名称		Seminar on Japanese Representation I				授業区分	演習	
科目責任者		中尾 真樹				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		中尾 真樹				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。						
到達目標		大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。						
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	中尾 真樹	【第 1 回】 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 12～14 頁を復習する。						
2	中尾 真樹	【第 2 回】 予習：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 15～17 頁を復習する。						
3	中尾 真樹	【第 3 回】 予習：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 18～23 頁を復習する						
4	中尾 真樹	【第 4 回】 予習：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。						
5	中尾 真樹	【第 5 回】 予習：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習：手紙文の書き方を復習する。						
6	中尾 真樹	【第 6 回】 予習：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 27～29 頁を復習する。						
7	中尾 真樹	【第 7 回】 予習：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書 a の 32～36 頁を復習する。						
8	中尾 真樹	【第 8 回】 予習：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。						
9	中尾 真樹	【第 9 回】 予習：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。						

		復習 : 「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。						
10	中尾 真樹	【第 10 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業 : 作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(2)「文」から「文章」へ」以降 (13～18 頁) について説明する。 復習 : 教科書 b の 11～18 頁を復習する。						
11	中尾 真樹	【第 11 回】 予習 : 教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁) ・「よい文章を書くために」(11～18 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」(38～40 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。						
12	中尾 真樹	【第 12 回】 予習 : 教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題 (41～43 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」(44～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 41～46 頁を復習する。						
13	中尾 真樹	【第 13 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) を説明してから、作文課題 3 (論理的な文章) の下書き (構成) を考えさせた上で、宿題にする (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	中尾 真樹	【第 14 回】 予習 : 教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題 (47～49 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。						
15	中尾 真樹	【第 15 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業 : 教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 (東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 (翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験 (60%) と作文課題・授業内テスト (40%) で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他		毎回、国語辞典 (電子辞書可) を持ってくること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

言語表現演習Ⅱ

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-21		授業コード		F02069			
科目名称		言語表現演習Ⅱ						単位数		1.0 単位			
英文名称		Seminar on Japanese RepresentationⅡ						授業区分		演習			
科目責任者		中尾 真樹						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		中尾 真樹						開講時期		1 年			
オフィスアワー		-						研究室		-			
授業概要		言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。											
到達目標		日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	中尾 真樹		【第1回】 予習：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの50～52頁を読み、53～54頁の練習問題を予習する。 授業：後期の授業の進め方について説明する。教科書a「接続語・指示語と文章」（50～52頁）について説明し、53～54頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習：教科書aの50～54頁を復習する。										
2	中尾 真樹		【第2回】 予習：教科書aの55頁の応用問題を予習し、58～60頁を読んでおく。 授業：教科書a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60頁）について説明する。 復習：教科書aの55頁、58～60頁を復習する。										
3	中尾 真樹		【第3回】 予習：教科書aの61～63頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの47～52頁を読んでおく。 授業：教科書a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書bの「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）について説明する。作文課題1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習：教科書aの61～63頁、教科書bの47～52頁を復習し、作文課題1を書いて Classroom に提出する。										
4	中尾 真樹		【第4回】 予習：教科書bの23～27頁を読んでおく。 授業：作文課題1について解説する。教科書bの「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）について説明する。 復習：電子メールの書き方と、教科書bの23～27頁を復習する。										
5	中尾 真樹		【第5回】 予習：教科書aの64～66頁を読んでおく。教科書bの23～27頁と47～52頁を読み直す。 授業：教科書b「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。教科書aの「動詞の自他・視点」（64～66頁）について説明する。 復習：教科書aの64～66頁を復習する。										
6	中尾 真樹		【第6回】 予習：教科書aの67～69頁の練習・応用問題を予習し、70～72頁を読んでおく。 授業：教科書a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72頁）について説明する。 復習：教科書aの67～72頁を復習する。										
7	中尾 真樹		【第7回】 予習：教科書aの73～75頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの53～57頁を読んでおく。 授業：教科書a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）について説明する。 復習：教科書aの73～75頁、教科書bの53～57頁を復習する。										
8	中尾 真樹		【第8回】 予習：教科書bの53～57頁を読み直す。 授業：教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）の知識が身に付いているかを小テスト2で確認する。作文課題2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。										

		復習：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。						
9	中尾 真樹	【第9回】 予習：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」(76～78 頁)について説明する。 復習：教科書 a の 76～78 頁を復習する。						
10	中尾 真樹	【第10回】 予習：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題 (79～81 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「部首・音訓・熟語」(84～86 頁)について説明する。 復習：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。						
11	中尾 真樹	【第11回】 予習：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題 (87～89 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」(59～63 頁)について説明する。 復習：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。						
12	中尾 真樹	【第12回】 予習：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」(59～63 頁)の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」(90～92 頁)について説明する。 復習：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。						
13	中尾 真樹	【第13回】 予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題 (93～95 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。作文課題 3 (授業で学んだこと)を宿題にする (課題解決型学習)。 復習：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	中尾 真樹	【第14回】 予習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」(29～31 頁)と「敬語を適切に使う」(33～38 頁)について説明する。 復習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。						
15	中尾 真樹	【第15回】 予習：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業：教科書 b の「敬語を適切に使う」(33～38 頁)の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習：後期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 (東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 (翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験 (60 %) と作文課題・授業内テスト (40%) で評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他	毎回、国語辞典 (電子辞書可) を持ってくる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F02151
科目名称	☆英語(会話表現) I			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Conversational Expressions) I			授業区分	演習
科目責任者	佐々 うらら			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々 うらら			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、必要かつ重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識しながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。				
到達目標	基礎的な英会話能力を習得する。また、TOEIC の得点アップを目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐々 うらら	【第 1 回】 予習： シラバスを読んでおく。テキスト購入。 これまでに学習してきた英語（ボキャブラリー・文法）の見直し。 授業： ガイダンス（今後の授業方針、成績評価基準の説明等） 復習： 今後の学習内容の確認。			
2	佐々 うらら	【第 2 回】 予習： 教科書 p.12-14 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit1 Jobs & Careers p.12-14 ロールプレイなど 復習： 第 2 回の学習内容			
3	佐々 うらら	【第 3 回】 予習： 教科書 p.15-17 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit1 Jobs & Careers p.15-17 ロールプレイなど 復習： 第 3 回の学習内容			
4	佐々 うらら	【第 4 回】 予習： 教科書 p.18-20 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit2 Entertainment p.18-20 ロールプレイなど 復習： 第 4 回の学習内容			
5	佐々 うらら	【第 5 回】 予習： 教科書 p.21-23 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit2 Entertainment p.21-23 ロールプレイなど 復習： 第 5 回の学習内容			
6	佐々 うらら	【第 6 回】 予習： 教科書 p.24-26 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit3 Work Schedule p.24-26 ロールプレイなど 復習： 第 6 回の学習内容			
7	佐々 うらら	【第 7 回】 予習： 教科書 p.27-29 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit3 Work Schedule p.27-29 ロールプレイなど 復習： 第 7 回の学習内容			
8	佐々 うらら	【第 8 回】 予習： 教科書 p.30-32 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit4 Health & Fitness p.30-32 ロールプレイなど 復習： 第 8 回の学習内容			
9	佐々 うらら	【第 9 回】 予習： 教科書 p.33-35 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit4 Health & Fitness p.33-35 ロールプレイなど 復習： 第 9 回の学習内容			
10	佐々 うらら	【第 10 回】 予習： 教科書 p.36-38 (概観。わからない単語を調べる。) 授業： Unit5 Shopping p.36-38 ロールプレイなど 復習： 第 10 回の学習内容			

11	佐々 うらら	【第 11 回】 予習 : 教科書 p.39-41 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit5 Shopping p.39-41 ロールプレイなど 復習 : 第 11 回の学習内容						
12	佐々 うらら	【第 12 回】 予習 : 教科書 p.42-44 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit6 Business Meeting p.42-44 ロールプレイなど 復習 : 第 12 回の学習内容						
13	佐々 うらら	【第 13 回】 予習 : 教科書 p.45-47 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit6 Business Meeting p.45-47 ロールプレイなど 復習 : 第 13 回の学習内容						
14	佐々 うらら	【第 14 回】 予習 : 教科書 p.48-50 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit7 Recruitment p.48-50 ロールプレイなど 復習 : 第 14 回の学習内容						
15	佐々 うらら	【第 15 回】 予習 : 教科書 p.51-53 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit7 Shopping p.51-53 ロールプレイなど 復習 : 第 15 回の学習内容						
授業開始前学習		今までに学んできた英語（特に単語・文法）を復習しておく。 テキストを購入しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題については、翌週の冒頭で小テストを実施する。 各ユニット終了後、内容に関連したレポートの提出や口頭試問を実施（基本的には講義中）。 提出物については、評価基準を明確にした上で採点し返却する。						
テキスト・教材		①Robert Hickling / Misato Usukura 著『English Switch』(金星堂) ②濱崎潤之輔著『中学英語からやり直す TOEIC®L&R テスト超入門』(ask) ※①②の 2 冊を通年使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト 20%、平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%で評価。 定期試験は実施しない。 出席を重視する。 その他、第 1 回の授業で説明する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		講義ではシラバスに沿って、①English Switch を使って会話表現を学びつつ、確かな英語力を身に着けるため、 ②TOEIC®L&R テスト超入門を使って文法の確認も実施する。毎回、①②両方のテキストを持参すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F02201
科目名称	☆英語(会話表現)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Conversational Expressions) Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	佐々 うらら			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々 うらら			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語（会話表現）Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、具体的な情報を聞き取ったり、自分の言いたいことを伝えられるようにする。簡単な単語やフレーズを使い、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。				
到達目標	基礎的な英会話能力を習得する。また、TOEIC の得点アップを目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐々 うらら	【第 1 回】 予習 : 教科書 p.54-56 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit8 Customer Needs p.54-56 ロールプレイなど 復習 : 第 1 回の学習内容			
2	佐々 うらら	【第 2 回】 予習 : 教科書 p.57-59 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit8 Customer Needs p.57-59 ロールプレイなど 復習 : 第 2 回の学習内容			
3	佐々 うらら	【第 3 回】 予習 : 教科書 p.60-62 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit9 Business Trip p.60-62 ロールプレイなど 復習 : 第 3 回の学習内容			
4	佐々 うらら	【第 4 回】 予習 : 教科書 p.63-65 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit9 Business Trip p.63-65 ロールプレイなど 復習 : 第 4 回の学習内容			
5	佐々 うらら	【第 5 回】 予習 : 教科書 p.66-68 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit10 Advertising p.66-68 ロールプレイなど 復習 : 第 5 回の学習内容			
6	佐々 うらら	【第 6 回】 予習 : 教科書 p.69-71 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit10 Advertising p.69-71 ロールプレイなど 復習 : 第 6 回の学習内容			
7	佐々 うらら	【第 7 回】 予習 : 教科書 p.72-74 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit11 Factory Tour p.72-74 ロールプレイなど 復習 : 第 7 回の学習内容			
8	佐々 うらら	【第 8 回】 予習 : 教科書 p.75-77 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit11 Factory Tour p.75-77 ロールプレイなど 復習 : 第 8 回の学習内容			
9	佐々 うらら	【第 9 回】 予習 : 教科書 p.78-80 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit12 Money Matters p.78-80 ロールプレイなど 復習 : 第 9 回の学習内容			
10	佐々 うらら	【第 10 回】 予習 : 教科書 p.81-83 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit12 Money Matters p.81-83 ロールプレイなど 復習 : 第 10 回の学習内容			

11	佐々 うらら	【第 11 回】 予習 : 教科書 p.84-86 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit13 Leisure p.84-86 ロールプレイなど 復習 : 第 11 回の学習内容						
12	佐々 うらら	【第 12 回】 予習 : 教科書 p.87-89 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit13 Leisure p.87-89 ロールプレイなど 復習 : 第 12 回の学習内容						
13	佐々 うらら	【第 13 回】 予習 : 教科書 p.90-92 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit14 Environment p.90-92 ロールプレイなど 復習 : 第 13 回の学習内容						
14	佐々 うらら	【第 14 回】 予習 : 教科書 p.93-95 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit14 Environment p.93-95 ロールプレイなど 復習 : 第 14 回の学習内容						
15	佐々 うらら	【第 15 回】 予習 : 教科書 p.96-98 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 : Unit15 Business Tie-Up p.96-98 ロールプレイなど 復習 : 第 15 回の学習内容						
授業開始前学習		前期の学習内容（特に単語・文法、フレーズ）を復習しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題については、翌週の冒頭で小テストを実施する。 各ユニット終了後、内容に関連したレポートの提出や口頭試問を実施（基本的には講義中）。 提出物については、評価基準を明確にした上で採点し返却する。						
テキスト・教材		※前期と同じテキストを使用。 ①Robert Hickling / Misato Usukura 著『English Switch』(金星堂) ②瀧崎潤之輔著『中学英語からやり直す TOEIC®L&R テスト超入門』(ask)						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト 20%、平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%で評価。 定期試験は実施しない。 その他、第 1 回の授業で説明する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F02351
科目名称	☆英語(読解) I			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Reading Comprehension) I			授業区分	演習
科目責任者	加藤 久子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 久子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	加藤 久子	【第 1 回】 予習：今まで学習した英語（特に単語と文法）を見直しておく 授業：オリエンテーション（授業概要、到達目標、成績評価基準の説明等） 復習：授業中に説明を受けた授業概要、到達目標、成績評価基準の説明等を確認する			
2	加藤 久子	【第 2 回】 予習：Unit1 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 1 前半およびグループワーク 復習：第 2 回で学んだ内容を振り返る。			
3	加藤 久子	【第 3 回】 予習：Unit 1 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 1 後半およびグループワーク、Unit1 小テスト 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。			
4	加藤 久子	【第 4 回】 予習：Unit 2①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 2 前半およびペアワーク 復習：第 4 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
5	加藤 久子	【第 5 回】 予習：Unit 2⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 2 後半およびグループワーク、Unit 2 小テスト 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。			
6	加藤 久子	【第 6 回】 予習：Unit 3 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 3 前半およびグループワーク 復習：第 6 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
7	加藤 久子	【第 7 回】 予習：Unit 3 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 3 後半およびグループワーク、Unit3 小テスト 復習：第 7 回で学んだ内容を振り返る。			
8	加藤 久子	【第 8 回】 予習：Unit 4 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 4 前半およびグループワーク 復習：第 8 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
9	加藤 久子	【第 9 回】 予習：Unit 4 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 4 後半およびグループワーク、Unit4 小テスト 復習：第 9 回で学んだ内容を振り返る。			
10	加藤 久子	【第 10 回】 予習：Unit 5 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 5 前半およびグループワーク			

		復習：第 10 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
11	加藤 久子	【第 11 回】 予習：Unit 5 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 5 後半およびグループワーク、Unit5 小テスト 復習：第 11 回で学んだ内容を振り返る。						
12	加藤 久子	【第 12 回】 予習：Unit 6 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 6 前半およびグループワーク 復習：第 12 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
13	加藤 久子	【第 13 回】 予習：Unit 6 ⑤ Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 6 後半およびグループワーク、Unit6 小テスト 復習：第 13 回で学んだ内容を振り返る。						
14	加藤 久子	【第 14 回】 予習：Unit 7 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 7 前半およびグループワーク 復習：第 14 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
15	加藤 久子	【第 15 回】 予習：Unit 7 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 7 後半およびグループワーク、Unit7 小テスト 復習：第 15 回で学んだ内容を振り返る。						
授業開始前学習		高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味のある文章や単語を辞書で調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		①Charles Browne /Brent Culligan / Joseph Phillips 著『IN FOCUS INTRO』(金星堂) ②Robert Hickling 著『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R テスト』(金星堂) ※①②の 2 冊を通年使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト 20%および平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%を総合して評価する。 定期試験は実施しない。 出席を重視する。 その他、第 1 回の授業で説明する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		①授業前半に『IN FOCUS INTRO』を使用し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行いながら語彙、語法を身につける。 ②授業後半には、『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R TEST』を使って演習問題を実践し、自身の英語力を向上させる。 毎回、①②両方のテキストを持参すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F02401
科目名称	☆英語(読解)Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Reading Comprehension) I			授業区分	演習
科目責任者	加藤 久子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 久子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	加藤 久子	【第 1 回】 予習：Unit 8 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 8 前半およびグループワーク 復習：第 1 回で学んだ内容を振り返る。			
2	加藤 久子	【第 2 回】 予習：Unit 8 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 8 後半およびグループワーク、Unit 8 小テスト 復習：第 2 回で学んだ内容を振り返る。			
3	加藤 久子	【第 3 回】 予習：Unit 9 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 9 前半およびペアワーク 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
4	加藤 久子	【第 4 回】 予習：Unit 9 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 9 後半およびグループワーク、Unit 9 小テスト 復習：第 4 回で学んだ内容を振り返る。			
5	加藤 久子	【第 5 回】 予習：Unit 10 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 10 前半およびペアワーク 復習：第 5 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
6	加藤 久子	【第 6 回】 予習：Unit 10 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 10 後半およびグループワーク、Unit 10 小テスト 復習：第 6 回で学んだ内容を振り返る。			
7	加藤 久子	【第 7 回】 予習：Unit 11 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 11 前半およびペアワーク 復習：第 7 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
8	加藤 久子	【第 8 回】 予習：Unit 11 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 11 後半およびグループワーク、Unit 11 小テスト 復習：第 8 回で学んだ内容を振り返る。			
9	加藤 久子	【第 9 回】 予習：Unit 12 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 12 前半およびペアワーク 復習：第 9 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。			
10	加藤 久子	【第 10 回】 予習：Unit 12 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 12 後半およびグループワーク、Unit 12 小テスト 復習：第 10 回で学んだ内容を振り返る。			

11	加藤 久子	【第 11 回】 予習：配布プリントに従ってプレゼンテーションの準備をする。 授業：各自原稿を考える。小テスト 復習：第 11 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
12	加藤 久子	【第 12 回】 予習：プレゼンテーション原稿を準備をする。 授業：各自原稿を再考し、発表練習を行う。小テスト 復習：第 12 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
13	加藤 久子	【第 13 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション発表。小テスト 復習：第 13 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
14	加藤 久子	【第 14 回】 予習：配布プリントに従ってディスカッションの準備をする。 授業：テーマについて各自意見を準備する。小テスト 復習：第 14 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
15	加藤 久子	【第 15 回】 予習：ディスカッションの準備 授業：ディスカッション 復習：第 15 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。						
授業開始前学習		前期の学習内容（特に語彙、語法）を復習しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。						
テキスト・教材		①Charles Browne /Brent Culligan / Joseph Phillips 著『IN FOCUS INTRO』(金星堂) ②Robert Hickling 著『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R テスト』(金星堂) ※①②の 2 冊を通年使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト 20%、平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%で評価。 定期試験は実施しない。 出席を重視する。 その他、第 1 回の授業で説明する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								
その他		①授業前半に『IN FOCUS INTRO』を使用し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行いながら語彙、語法を身につける。 ②授業後半には、『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R TEST』を使って演習問題を実践し、自身の英語力を向上させる。 毎回、①②両方のテキストを持参すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02611
科目名称	英会話 I			単位数	1.0 単位
英文名称	English Conversation I			授業区分	演習
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Read pp. 9-12 in the textbook/ Listen to CD, tracks 3-7 授業 : Self-Introductions/Course goals 復習 : Review notes/ Do homework			
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Read pp. 13-16/ Listen to tracks 10-14 授業 : Talking about entertainment ? movies and music 復習 : Review notes/ Do homework			
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Read pp. 17-20/ Listen to tracks 17-21 授業 : Talking about art and impressions 復習 : Review notes/ Do homework			
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Read pp. 21-24 /Listen to tracks 24-28 授業 : Talking about family members 復習 : Review notes/ Do homework p. 84			
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Prepare a short talk about your family 授業 : Talking about family customs and traditions 復習 : Review notes/ Do homework			
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.9-24			
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice			
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.9-24			
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Read pp. 25-28/ Listen to tracks 31-35 授業 : Talking about beliefs and fears 復習 : Review notes/ Do homework			
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Read pp. 29-32/ Listen to tracks 38-43 授業 : Talking about experiences 復習 : Review notes/ Do homework			

11	K.バーズ	【第 11 回】 予習 : Read pp. 33-36/ Listen to tracks 46-48 授業 : Telling stories 復習 : Review notes/ Do homework						
12	K.バーズ	【第 12 回】 予習 : Prepare some sentences about your plans for summer vacation 授業 : Talking about future plans 復習 : Review notes/ Do homework						
13	K.バーズ	【第 13 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.25-36						
14	K.バーズ	【第 14 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice						
15	K.バーズ	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.9-36						
授業開始前学習		Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.						
テキスト・教材		Impact Conversation 1 Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目	English Conversation							
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02612		
科目名称	英会話 I			単位数	1.0 単位		
英文名称	English Conversation I			授業区分	演習		
科目責任者	D.パートレイ			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	D.パートレイ			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	This course aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.						
到達目標	The goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about it. So our lessons are designed to be i						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	D.パートレイ	【第 1 回】 予習 : Getting settled in 授業 : Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習 : generally assess the English you have studied from high school unt					
2	D.パートレイ	【第 2 回】 予習 : Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業 : Preparation: What things interest you? 復習 : Take stock of the English you have studied up until now.					
3	D.パートレイ	【第 3 回】 予習 : Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業 : Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習 : Review today's exp					
4	D.パートレイ	【第 4 回】 予習 : Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業 : Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
5	D.パートレイ	【第 5 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
6	D.パートレイ	【第 6 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業 : Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write y					
7	D.パートレイ	【第 7 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業 : Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo					
8	D.パートレイ	【第 8 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.					
9	D.パートレイ	【第 9 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic.					

		復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
10	D.パートレイ	【第 10 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
11	D.パートレイ	【第 11 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業 : Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y						
12	D.パートレイ	【第 12 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
13	D.パートレイ	【第 13 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
14	D.パートレイ	【第 14 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
15	D.パートレイ	【第 15 回】 予習 : Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業 : We will have a general assessment of our progress this semester. 復習 : Students will complete their final reports & submit them to me by email.						
授業開始前学習		Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & wherever possible whether it be watching TV, listening to music, or reading English newspapers.						
授業内課題のフィードバックの方法		Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr						
テキスト・教材		No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.						
参考書		notebook, dictionary, pen & pencil						
評価の基準と方法		continuous assessment based on attendance, participation & post-discussion reports (100%) .						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02621
科目名称	英会話Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	English Conversation II			授業区分	演習
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Read pp. 37-40 in the textbook/ Listen to CD, tracks 51-55 授業 : Self-Introductions/Course goals 復習 : Review notes/ Do homework			
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Read pp. 45-48/ Listen to tracks 58-59 授業 : Talking about health and habits 復習 : Review notes/ Do homework			
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Read pp. 49-52/ Listen to track 62 授業 : Talking about friends and relationships 復習 : Review notes/ Do homework			
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Read pp. 53-56/ Listen to tracks 65-69 授業 : Talking about family members 復習 : Review notes/ Do homework p. 84			
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Prepare a short talk about a travel experience 授業 : Talking about travel and studying abroad 復習 : Review notes/ Do homework			
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.37-40,45-56			
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice			
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp.37-40,45-56			
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Read pp. 57-60/ Listen to tracks 72-73 授業 : Talking about behavior and qualities in people 復習 : Review notes/ Do homework			
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Read pp. 61-64/ Listen to tracks 76-77 授業 : Talking about cultural stereotypes 復習 : Review notes/ Do homework			

11	K.バーズ	【第 11 回】 予習 : Read pp. 65-68/ Listen to tracks 80-84 授業 : Talking about cooking and food 復習 : Review notes/ Do homework						
12	K.バーズ	【第 12 回】 予習 : Prepare some sentences about something interesting you have done recently 授業 : Talking about past experiences 復習 : Review notes/ Do homework						
13	K.バーズ	【第 13 回】 予習 : Prepare any questions you have about class material 授業 : Consolidation and review 復習 : Reread textbook pp.57-68						
14	K.バーズ	【第 14 回】 予習 : Prepare several topics you want to talk about 授業 : Conversation advice and coaching 復習 : Write self-evaluation for your conversation practice						
15	K.バーズ	【第 15 回】 予習 : Review all homework assignments 授業 : General review 復習 : Reread textbook pp. 37-40,45-68						
授業開始前学習		Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics. Look up words in the dictionary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.						
テキスト・教材		Impact Conversation 1 Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)						
参考書								
評価の基準と方法		Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目	English Conversation							
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F02622	
科目名称	英会話Ⅱ			単位数	1.0 単位	
英文名称	English ConversationⅡ			授業区分	演習	
科目責任者	D.パートレイ			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	D.パートレイ			開講時期	1・2 年	
オフィスアワー	-			研究室	-	
授業概要	This course builds upon the foundation of the previous course & also aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.					
到達目標	As in the previous course, this course, the goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	D.パートレイ	【第 1 回】 予習 : Getting settled in 授業 : Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習 : generally assess the English you have studied from high school unt				
2	D.パートレイ	【第 2 回】 予習 : Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業 : Preparation: What things interest you? 復習 : Take stock of the English you have studied up until now.				
3	D.パートレイ	【第 3 回】 予習 : Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業 : Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習 : Review today's exp				
4	D.パートレイ	【第 4 回】 予習 : Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業 : Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.				
5	D.パートレイ	【第 5 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.				
6	D.パートレイ	【第 6 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業 : Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write y				
7	D.パートレイ	【第 7 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業 : Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo				
8	D.パートレイ	【第 8 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.				
9	D.パートレイ	【第 9 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic.				

		復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
10	D.パートレイ	【第 10 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
11	D.パートレイ	【第 11 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業 : Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y						
12	D.パートレイ	【第 12 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
13	D.パートレイ	【第 13 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.						
14	D.パートレイ	【第 14 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業 : Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to						
15	D.パートレイ	【第 15 回】 予習 : Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業 : We will have a general assessment of our progress this semester. 復習 : Students will complete their final reports & submit them to me by email.						
授業開始前学習		Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & where-ever possible whether it be watching TV, listening to music or reading English newspapers.						
授業内課題のフィードバックの方法		Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr						
テキスト・教材		No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.						
参考書		notebook, dictionary, pen & pencil						
評価の基準と方法		continuous assessment based on attendance, participation & module tests (100%) .						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02811
科目名称	フランス語 I			単位数	1.0 単位
英文名称	French I			授業区分	演習
科目責任者	松村 悠子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 悠子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な会話練習を主体にフランス語の学修を行う。会話から出発して、発音、文法、語彙、表現を学ぶ。文法解説・練習問題、発話練習、聞き取り、テキスト読解、作文を通して、文法学習と、話す・聞く・読む・書く、の 4 技能の訓練をバランスよく行う。				
到達目標	基礎的な文法、語彙、表現を習得して、初歩的な会話を理解し遂行できるようになる。これらの文法、語彙、表現を用いた短い文を読み、簡単な文が書けるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松村 悠子	【第 1 回】 予習 : フランス語やフランスについて調べる 授業 : 前期授業ガイダンス、辞書の紹介、自己紹介 復習 : 身の回りにあるフランス語とアルファベについての課題に取り組む			
2	松村 悠子	【第 2 回】 予習 : フランス語の挨拶表現について調べる 授業 : フランス語の挨拶。フランス語が話されている地域、アルファベ、フランス語に特有の音 (教科書 6 から 7 頁) (発見学習) 復習 : 挨拶表現、フランス語に特有の音の練習、アルファベの復習			
3	松村 悠子	【第 3 回】 予習 : 複母音字、鼻母音について調べる レッスン 1 の会話音声聴く 授業 : 綴り字の読み方 (プリント) (発見学習) レッスン 1 : 挨拶、自分の名前を言う。国籍を言う。(教科書 8 から 9 頁) (ペアワーク) 復習 : 綴り字の読み方の復習 挨拶、名前を言う表現の反復練習			
4	松村 悠子	【第 4 回】 予習 : レッスン 1 の会話音声聴く 授業 : レッスン 1 : 挨拶、自分の名前を言う。国籍を言う、聞く、数字 1 から 5、練習問題。(教科書 10 から 11 頁) (ペアワーク) 復習 : 挨拶、名前・国籍を言う表現の反復練習			
5	松村 悠子	【第 5 回】 予習 : レッスン 2 の音声教材を聴く 授業 : 語彙の練習、練習問題、会話練習 (教科書 12 から 13 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
6	松村 悠子	【第 6 回】 予習 : レッスン 2 の音声教材を聴く 授業 : 職業を言う、数字 6 から 10、練習問題 (教科書 14 から 15 頁) 復習 : 読解・作文したテキストの再考、復習			
7	松村 悠子	【第 7 回】 予習 : レッスン 3 の音声教材を聴く 授業 : 第 1 回目から第 6 回目授業内容の復習 名前を言う、聞く (教科書 16 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
8	松村 悠子	【第 8 回】 予習 : 第 1 回目から第 6 回目授業内容の復習 (小テスト 1 の準備) 授業 : 小テスト 1 住んでいるところを言う、聞く (教科書 17 頁) (ペアワーク) 復習 : 小テスト 1 の問題再考			
9	松村 悠子	【第 9 回】 予習 : レッスン 3 の音声教材を聴く 授業 : 国籍、名前、住んでいる場所を言う・聞く、練習問題 (教科書 18 から 19 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			

10	松村 悠子	【第 10 回】 予習 : レッスン 4 の音声教材を聴く 授業 : 第 7 回目から第 9 回目授業内容の復習 だれかについてやりとりする、だれかの職業を言う (教科書 20 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
11	松村 悠子	【第 11 回】 予習 : 第 7 回目から第 9 回目授業内容の復習 (小テスト 2 の準備) 授業 : 小テスト 2 だれかについてやりとりする、だれかの住んでいる所を言う (教科書 21 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習 復習 : 小テスト 2 の問題再考						
12	松村 悠子	【第 12 回】 予習 : レッスン 4 の音声教材を聴く 授業 : 自分が話せる言語について言う、相手の話せる言語についてきく、だれかが話せる言語について言う (教科書 22 頁) (ペアワーク) 数字 11 から 15 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
13	松村 悠子	【第 13 回】 予習 : レッスン 4 の音声教材を聴く 授業 : 第 10 回目から第 12 回目授業内容の復習 レッスン 4 の練習問題 (教科書 23 頁) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習						
14	松村 悠子	【第 14 回】 予習 : 第 10 回目から第 12 回目授業内容の復習 (小テスト 3 の準備) 授業 : 小テスト 3 フランスの街の場所をさく、言う (教科書 24 から 25 頁) (ペアワーク) 復習 : 小テスト 3 の問題再考						
15	松村 悠子	【第 15 回】 予習 : 第 14 回目までの授業内容を振り返る 授業 : 前期授業のまとめ 復習 : 授業で扱った項目の復習						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法								
課題、小テストを返却後、問題を再考させ解説を行う。								
テキスト・教材								
ロイク・ホグス 著『プティットゥ・コンヴェルサسیون』駿河台出版社 (定価 : 2,300 円 + 税) 仏和辞書 (主要なものを第 1 回目授業で紹介)								
参考書								
評価の基準と方法								
小テスト 75 点、平常点 (授業態度・課題提出) 25 点								
ディプロマポリシー								
「カリキュラムマップ」参照								
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A (ヨーロッパ 1) 海外観光資源研究 B (ヨーロッパ 2) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。遅刻 1 回、あるいは早退 1 回を欠席 3 分の 1 回とみなします。つまり遅刻ないし早退 3 回で欠席 1 回と数えます。授業開始時刻より 30 分以上遅れて到着した場合、授業終了時刻より 30 分以上早く早退した場合は欠席扱いです。出席数配慮は原則として証明書類の提出により検討します。 宿題を出すことがあります。 全 15 回の授業計画を上 に示していますが、受講者やクラス の特性、また社会状況など諸々の都合に応じて若干変更になる場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132		科目分類（～2024 年 入学者）		100-130-21		授業コード		F02812			
科目名称		フランス語 I						単位数		1.0 単位			
英文名称		French I						授業区分		演習			
科目責任者		米金 孝雄						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		米金 孝雄						開講時期		1 年			
オフィスアワー		前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40～12:10～13:00 木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00						研究室		10-711			
授業概要		基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す（氏名、職業、国籍、挨拶の仕方、自己紹介、住んでいる場所の表現、tu と vous， 性数の一致、アルファベ、冠詞の縮約形、など）。また、Etre 動詞や ER 動詞（parler, habiter, s'appeler, など）を学習し、基本的な文の構造を理解する。特に、フランス語特有の音に慣れ親しむため、R の発音、重母音、鼻母音などを理解し、練習を重ね、単に文を暗誦するだけでなく、現実的なインタラクション（「ロール・プレイ」、「シミュレーション」など）に即したコミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。											
到達目標		初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。 フランス語特有のアルファベの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。											
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	米金 孝雄		【第 1 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化の紹介 1 授業：自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など 復習：アルファベの復習										
2	米金 孝雄		【第 2 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する 2 授業：特有の音、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ（テキスト 6-7 頁） 復習：基本的なフランス語表現、アルファベの復習										
3	米金 孝雄		【第 3 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、挨拶の仕方、名前を言う、国籍を言う、男性形と女性形（8-9 頁）（ペアワーク） 復習：主語人称代名詞、s'appeler 動詞、Etre 動詞、国籍の表現										
4	米金 孝雄		【第 4 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：国籍、数の数え方、職業、名前、数字、アルファベの練習（10-11 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、形容詞性数に一致										
5	米金 孝雄		【第 5 回】 予習：レッスン 1 ,1+の音声を聴くこと 授業：名前・国籍、数字、アルファベの練習， 基本表現、アクセント記号（11 頁、76-77 頁）（ペアワーク） 復習：名前の言い方、対話練習										
6	米金 孝雄		【第 6 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、国籍、職業（12-13 頁）（ペアワーク） 復習：質問と答え										
7	米金 孝雄		【第 7 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：数の数え方、職業（14-15 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介、職業										
8	米金 孝雄		【第 8 回】 予習：レッスン 2 ,2+の音声を聴くこと 授業：国籍、職業、tu と vous の表現（78 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介										
9	米金 孝雄		【第 9 回】 予習：レッスン 3 の音声を聴くこと 授業：発音の仕方、アポストロフ、名前・職業・国籍を言う、住んでいる場所を尋ねる、国名、都市、 人称代名詞強制形、En + 国籍、冠詞の縮約形（16-17 頁）（ペアワーク） 復習：Etre,Habiter, S'appeler 動詞の活用、対話練習、En + 国籍、冠詞の縮約形										
10	米金 孝雄		【第 10 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：否定文の答え方、名前、職業、国籍、住んでいる場所の質問と答え。（18 頁、79 頁）（ペアワーク）										

		復習：対話練習						
11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：練習問題（19,79,91 頁）（ペアワーク） 復習：練習問題の確認と再考						
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：アンシエヌマン、この人は誰？、場所を示す疑問文、Parler,habiter,etre 動詞活用の確認（20-21 頁）（ペアワーク） 復習：人・場所を示す質問と答え、Parler,habiter,etre 動詞活用						
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：parler 動詞を使った質問と答え、数字、紹介と質問の仕方、練習問題（22-23 頁）（ペアワーク） 復習：「名前、国籍、職業、住んでいる場所、話せる言語」についての質問と答え						
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 4,4+の音声を聴くこと 授業：er 動詞の確認、quel を使った疑問文、練習問題（80 頁）（ペアワーク） 復習：er 動詞(aimer,preferer...),quel の用法、練習問題の確認と再考						
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：フランス語を話す国・フランス語に慣れ親しむ・特有の音の確認と再考 授業：前期授業の復習と確認（Dans la classe1 から lecon4/4+）、場所の表現と都市（C'est ou ?）（6-25 頁,77-80 頁）（ペアワーク） 復習：前期学習事項を再考し、自分の弱点を克服すること						
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題(レポート・練習問題・小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く。						
テキスト・教材		Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサシオン)（駿河台出版社）						
参考書		適宜、授業内で資料を配布する。						
評価の基準と方法		【配点】：小テスト・提出課題・レポート 80 点， 平常点(授業態度)20 点						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02821
科目名称	フランス語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	French II			授業区分	演習
科目責任者	松村 悠子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 悠子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な会話練習を主体にフランス語の学修を行う。会話から出発して、発音、文法、語彙、表現を学ぶ。文法解説・練習問題、発話練習、聞き取り、テキスト読解、作文を通して、文法学習と、話す・聞く・読む・書く、の 4 技能の訓練をバランスよく行う。				
到達目標	基礎的な文法、語彙、表現を習得して、初歩的な会話を理解し遂行できるようになる。これらの文法、語彙、表現を用いた短い文を読み、簡単な文が書けるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松村 悠子	【第 1 回】 予習 : 前期に学習した項目の要点をまとめる 授業 : 後期授業ガイダンス、前期の復習 復習 : 授業で扱った文法、語彙、表現の復習			
2	松村 悠子	【第 2 回】 予習 : レッスン 5 の音声教材を聴く 授業 : レッスン 5、国籍、話せる言語について否定形を用いて表現する (教科書 26 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
3	松村 悠子	【第 3 回】 予習 : レッスン 5 の音声教材を聴く 授業 : レッスン 5、だれかについて聞く、だれかの国籍、話せる言語について否定形を用いて表現する (教科書 27 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
4	松村 悠子	【第 4 回】 予習 : レッスン 5 の音声教材を聴く 授業 : レッスン 5、だれかについて聞く、だれかの国籍、職業について名詞と形容詞を組み合わせで表現する、数字 16 から 20、練習問題 (教科書 28 から 29 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
5	松村 悠子	【第 5 回】 予習 : レッスン 6 の音声教材を聴く 授業 : 第 1 回目から第 4 回目授業内容の復習 レッスン 6、年齢を言う、きく、動詞 avoir (教科書 30 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
6	松村 悠子	【第 6 回】 予習 : 第 1 回目から第 4 回目授業内容の復習 (小テスト 1 の準備) 授業 : 小テスト 1 だれかの年齢を言う、きく、数字 21 から 30 (教科書 31 頁) 復習 : 小テスト 1 の問題再考			
7	松村 悠子	【第 7 回】 予習 : レッスン 6 の音声教材を聴く 授業 : 曜日と 1 週間の時間割を言う、きく、練習問題 (教科書 32 から 33 頁) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
8	松村 悠子	【第 8 回】 予習 : レッスン 7 の音声教材を聴く 授業 : 第 5 回目から第 7 回目授業内容の復習 レッスン 7、動詞 avoir を使った熟語 (お腹が空いた等)、tu (君) と vous (あなた、君たち、あなたたち)、on (私たち) (教科書 36 から 37 頁) (ペアワーク) 復習 : 授業で扱った語彙・表現の復習			
9	松村 悠子	【第 9 回】 予習 : 第 5 回目から第 7 回目授業内容の復習 (小テスト 2 の準備) 授業 : 小テスト 2 レッスン 7、数字 31 から 40、動詞 etre を使った表現 (疲れた等) (教科書 37 から 38 頁) (ペアワーク)			

		復習：授業で扱った語彙・表現の復習 復習：小テスト2の問題再考						
10	松村 悠子	【第10回】 予習：レッスン7の音声教材を聴く 授業：レッスン7、動詞 etre を使った表現（疲れた等）、練習問題（教科書 38 から 39 頁） 復習：授業で扱った語彙・表現の復習						
11	松村 悠子	【第11回】 予習：レッスン8の音声教材を聴く 授業：第8回目から第10回目授業内容の復習 レッスン8、物の名前、名詞の性、不定冠詞（教科書 40 頁）（ペアワーク） 復習：授業で扱った語彙・表現の復習						
12	松村 悠子	【第12回】 予習：第8回目から第10回目授業内容の復習（小テスト3の準備） 授業：小テスト3 物を指し示す、物についてさく（教科書 41 頁）（ペアワーク） 復習：小テスト3の問題再考						
13	松村 悠子	【第13回】 予習：レッスン8の音声教材を聞く 授業：第11回目から第12回目授業内容の復習 レッスン8、数字 41 から 50、物の値段を言う、さく（教科書 42）（ペアワーク） 復習：授業で扱った語彙・表現の復習						
14	松村 悠子	【第14回】 予習：第11回目から第12回目授業内容の復習（小テスト4の準備） 授業：小テスト4 レッスン8の練習問題（教科書 43 頁） 復習：授業で扱った語彙・表現の復習 復習：小テスト4の問題再考						
15	松村 悠子	【第15回】 予習：第14回目までの授業を振り返る。 授業：後期授業のまとめ 復習：授業で扱った項目の復習						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		課題、小テストを返却後、問題を再考させ解説を行う。						
テキスト・教材		ロイク・ホグス 著『プティットゥ・コンヴェルサسیون』駿河台出版社（定価：2,300 円＋税） 仏和辞書						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト 80 点、平常点（授業態度・課題提出）20 点						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A（ヨーロッパ1） 海外観光資源研究 B（ヨーロッパ2） 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	単位取得には3分の2以上の出席が必要です。遅刻1回、あるいは早退1回を欠席3分の1回とみなします。つまり遅刻ないし早退3回で欠席1回と数えます。授業開始時刻より30分以上遅れて到着した場合、授業終了時刻より30分以上早く早退した場合は欠席扱いです。出席数配慮は原則として証明書類の提出により検討します。 宿題を出すことがあります。 全15回の授業計画を上には示していますが、受講者やクラスの実情、また社会状況など諸々の都合に応じて若干変更になる場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）		100-130-21	授業コード	F02822
科目名称		フランス語Ⅱ				単位数	1.0 単位
英文名称		FrenchⅡ				授業区分	演習
科目責任者		米金 孝雄				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		米金 孝雄				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40～12:10～13:00 木曜日 10:00～ 10:40～12:10～13:00				研究室	10-711
授業概要		基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す(否定形、年齢を言う、疑問詞、日時、曜日、科目名の表現、c'est の表現、体調を伝える、不定冠詞の用法、など)。フランス語Ⅰで学んだ基本的な音（R の発音、重母音、鼻母音）や文の構造（Etre 動詞、ER 動詞を使用した構文、新たに、Avoir 動詞や人称代名詞 On を用いた構文）の理解を深める。さらに、「音の連鎖や音の省略」(リエゾン、アンシェンヌマン、エリジョン、など)の練習を重ね、フランス語の音に慣れ親しむ。 特に、現実的なインタラクション（「ロール・プレイ」、「シミュレーション」など）に即した実践的なコミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。					
到達目標		初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。 フランス語特有のアルファベットの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：前期の復習(レッスン 1-4)とレッスン 5 の音声を聴くこと 授業：前期の復習、前期課題の確認、否定形の作り方と答え方、エリズイオン（26-27 頁,80 頁）（ペアワーク） 復習：国籍名詞、habiter の練習					
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習：レッスン 5 の音声を聴くこと 授業：どこに住んでるの、否定形、名前、職業 数字、不定冠詞、男性名詞、女性名詞（27-28 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、いいえの答え方、1-20 の数字、C'est + 名詞の練習					
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 5 ,5+の音声を聴くこと 授業：練習問題（女性形、否定文）、Etre de + 地名、対話練習（29 頁、81 頁）（ペアワーク） 復習：地図、国籍と名前の言い方					
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：発音、年齢を言う、数字、リエゾン（30-31 頁）（ペアワーク） 復習：1-30 の数字、年齢表現					
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：年号、曜日、科目名詞、練習問題（31-33 頁）（ペアワーク） 復習：年号、曜日、科目名を言う					
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 6 ,6+の音声を聴くこと 授業：前回の復習、自己紹介、会話練習（34 頁、82 頁）（ペアワーク） 復習：自己紹介の練習					
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：レッスン 5, 6 の復習と確認 授業：レッスン 5, 6 の課題（27-34 頁、81-82 頁）（ペアワーク） 復習：レッスン 5, 6 の課題再考					
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：中間試験再考、フランス語圏、体調を伝える、On の用法、Avoir 動詞の疑問文と答え（35-36 頁）（ペアワーク） 復習：on の用法、Aoir 動詞の確認、					
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：数字、形容詞の質問と答え、Etre の否定文（37-38 頁）（ペアワーク）					

		復習：1-40 の数字、形容詞を使った表現						
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 7,7+の音声を聴くこと 授業：練習問題（形容詞の用法と avoir/etre 動詞）（39 頁、83 頁）（ペアワーク） 復習：練習問題、レッスン 5-7 の復習						
11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：不定冠詞の種類と用法、「C'est?」表現（40-41 頁）（ペアワーク） 復習：不定冠詞の練習、C'est?の練習						
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：数字 1-50、「C'est combien?」表現，練習問題（42-43 頁）（ペアワーク） 復習：数字表現の練習、C'est?の練習						
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 8,8+の音声を聴くこと 授業：Revisions 会話表現，練習問題（44-45 頁）（ペアワーク） 復習：聞き取り練習、応答練習						
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 8,8+の音声を聴くこと 授業：「Qu'est-ce que c'est ?」の応答練習（84 頁）（ペアワーク） 復習：「Qu'est-ce que c'est ?」の練習、課題						
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：後期授業の復習 授業：1 年次授業内容・重要事項の確認 復習：1 年次授業内容再考						
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・課題・レポート等提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の習得へと導く。						
テキスト・教材		Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサシオン)（駿河台出版社）						
参考書		適宜、授業内で資料を配布する。						
評価の基準と方法		配点：小テスト・提出課題・レポート 80 点，平常点(授業態度)20 点						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1) 言葉と心理 観光のフランス語							
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）	100-130-21	授業コード	F02850		
科目名称	ドイツ語 I			単位数	1.0 単位		
英文名称	German I			授業区分	演習		
科目責任者	岡野 史			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	岡野 史			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	ドイツ語初学者を対象とし、ドイツ語初級文法の修得を目指す。具体的な文法事項としては、ドイツ語の読み方、発音からはじめ、人称代名詞、動詞の現在形活用、名詞の性と格変化、ドイツ語の語順、様々な冠詞類や並列接続詞の習得を目標とする。合わせて基本的な挨拶などの表現や、ドイツ語圏における様々な都市や文化について触れていく。各課において短いドイツ語の文章読解や、ドイツ語作文に取り組み、初級ドイツ語の基礎を確実に身につける。さらに動画資料や文学作品、時事的なニュースなど実際に用いられているドイツ語表現を紹介し、ドイツ語圏文化に対する関心をさらに高めていくことができるよう進めていく。						
到達目標	基本的なドイツ語の読み方、発音ができるようになることをはじめ、ドイツ語学習の基礎となる人称代名詞の変化、動詞の現在形、冠詞の格変化や語順のルールなどを理解し、簡単な文章読解、ドイツ語作文のなかで用いることができるようになることを目標とする。また基本的な挨拶や自己紹介などの会話表現を学び、短くともドイツ語でコミュニケーションをとることができるようになる。同時に、第二外国語としてドイツ語を学ぶ意義や目標を各々が見つけられるよう、ドイツ語圏への文化理解を深めていく。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	岡野 史	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認。 授業：ガイダンス・ドイツ語とは：ヨーロッパにおけるドイツ語圏。アルファベット 復習：授業計画の内容確認。配布資料の確認。					
2	岡野 史	【第 2 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベット」「つづりと発音」の予習。前回の授業での配布資料を確認。 授業：アルファベット、つづりと発音① 復習：テキスト p.1-3 までの範囲で不明点を再チェック。配布資料の確認。					
3	岡野 史	【第 3 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベット」「つづりと発音」の確認。テキスト p.4-5「あいさつ」p.9「数字」の確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：つづりと発音②、簡単な挨拶と数字 復習：テキスト p.1-3, 4-5, 9 までの内容を確認。配布資料の確認。					
4	岡野 史	【第 4 回】 予習：テキスト p.10「主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化」の確認。 授業：Lektion1：主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則変化） 復習：テキスト p.10-11 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。					
5	岡野 史	【第 5 回】 予習：テキスト p.12-15 の確認。 授業：Lektion1：自己紹介 復習：テキスト p.12-15 の表現と単語の確認、確認テストの準備。					
6	岡野 史	【第 6 回】 予習：確認テスト（Lektion1）の準備。p.80: Freut mich!の確認。 授業：確認テスト（Lektion1）、p.80: Freut mich!、Lektion2：名詞の性・冠詞 復習：テキスト p.80 の文法事項と単語の確認をすること。					
7	岡野 史	【第 7 回】 予習：テキスト p.16-17「名詞の性・冠詞、名詞の格変化」の予習。 授業：Lektion2：名詞の性・冠詞、名詞の格変化 復習：テキスト p.16-17 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
8	岡野 史	【第 8 回】 予習：テキスト p.18-19「疑問代名詞の格変化、並列の接続詞」の予習。 授業：Lektion2：疑問代名詞の格変化、並列の接続詞 復習：テキスト p.18-19 の表現と単語の確認、確認テストの準備。					
9	岡野 史	【第 9 回】 予習：確認テスト（Lektion2）の準備。p.80: Werner Adam, Fotografの確認。 授業：確認テスト（Lektion2）、p.20-21：職業、p.80: Werner Adam, Fotograf 復習：テキスト p.20-23, 80 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
10	岡野 史	【第 10 回】 予習：テキスト p.24「動詞の現在人称変化 2、命令形」の予習。 授業：Lektion3：動詞の現在人称変化 2、命令形					

		復習：テキスト p.24-25 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
11	岡野 史	【第 11 回】 予習：テキスト p.26「名詞の複数形、人称代名詞の 3・4 格、語順」の予習。 授業：Lektion3：名詞の複数形、人称代名詞の 3・4 格、語順 復習：テキスト p.26-27 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
12	岡野 史	【第 12 回】 予習：テキスト p.28-29, p.81: Pierre in Köln の確認。 授業：趣味、p.81: Pierre in Köln 復習：テキスト p.28-29, p.81 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：第 12 回までの文法事項確認 授業：Lektion1 復習 復習：テキスト p.15 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。						
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：第 12 回までの文法事項確認 授業：Lektion2 復習 復習：テキスト p.23 まで全体の復習。						
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 I で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：Lektion3 復習、ドイツ語 I で扱った内容の確認 復習：Lektion1-3 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。						
授業開始前学習		ドイツ語がどのような言語であるのかを知るために、教科書などに目を通しておくこと。 ドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。						
テキスト・教材		小野寿美子、中川明博『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(朝日出版社)						
参考書		授業内で適宜紹介。 独和辞典については紙でも電子でも可						
評価の基準と方法		平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B（ヨーロッパ 2）							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）	100-130-21	授業コード	F02860		
科目名称	ドイツ語Ⅱ			単位数	1.0 単位		
英文名称	GermanⅡ			授業区分	演習		
科目責任者	岡野 史			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	岡野 史			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・話法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。						
到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、ドイツ語でさらに幅広い表現ができるようになる。ドイツ語の音に慣れ親しむことで、簡単な会話を聞き取り、さらにそれに答えることができるようになる。またドイツ語圏についての知識を得ることで、言葉だけでなくドイツ文化の理解も深める。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	岡野 史	【第1回】 予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語Ⅰでの既習事項について、復習と確認をすること。 授業：ガイダンス・Lektion 3 までの復習と確認 復習：授業計画の内容確認。Lektion 3 までの範囲で不明点があるか確認。					
2	岡野 史	【第2回】 予習：Lektion 3 までの復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：Lektion 3 までの復習と確認、発音の確認 復習：Lektion 3 までの範囲で不明点の再チェック。					
3	岡野 史	【第3回】 予習：テキスト p.30「冠詞類」の予習。 授業：Lektion 4: 冠詞類 復習：テキスト p.30-31 の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。					
4	岡野 史	【第4回】 予習：テキスト p.32「否定冠詞、否定疑問文、非人称の es」の予習。 授業：Lektion4: 否定冠詞、否定疑問文、非人称の es 復習：テキスト p.32-33 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。					
5	岡野 史	【第5回】 予習：テキスト p.34 単語の意味を調べておく。 授業：Lektion4: 買い物、p.81「Anna und Familie Müller」 復習：テキスト p.34,p.81 の表現と単語の確認、確認テストの準備。					
6	岡野 史	【第6回】 予習：テキスト p.38-39「前置詞」の予習。 授業：確認テスト（Lektion4）、Lektion 5: 前置詞 復習：テキスト p.38-39 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
7	岡野 史	【第7回】 予習：テキスト p.40「前置詞と定冠詞の融合形、時を表す表現」の予習。 授業：Lektion5: 前置詞と定冠詞の融合形、時を表す表現 復習：テキスト p.40-41 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
8	岡野 史	【第8回】 予習：テキスト p.42 単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion5:どう行けばいいですか？、p.82「Mozartstadt」 復習：テキスト p.42, p.82 の表現と単語の確認、確認テストの準備。					
9	岡野 史	【第9回】 予習：テキスト p.44「話法の助動詞、未来形」の予習。 授業：確認テスト（Lektion5）、Lektion6: 話法の助動詞、未来形 復習：テキスト p.44-45 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					
10	岡野 史	【第10回】 予習：テキスト p.46「従属の接続詞と副文」の予習。 授業：Lektion6: 従属の接続詞と副文 復習：テキスト p.46-47 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。					

11	岡野 史	【第 11 回】 予習：テキスト p.48 の単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion6:誕生日おめでとう、p.83「Geburtstagsbräuche in Deutschland」 復習：テキスト p.48, p.83 の表現と単語の確認、確認テストの準備。						
12	岡野 史	【第 12 回】 予習：確認テストの準備。 授業：確認テスト（Lektion6）、冠詞類まとめ 復習：配布資料の確認。						
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：動詞（現在形）についてこれまでの内容を復習 授業：動詞（現在形）まとめ 復習：配布資料の確認。						
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：前置詞についてこれまでの内容を復習 授業：前置詞まとめ 復習：配布資料の確認。Lektion6 まで全体の復習。						
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 II で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：理解度の確認、ドイツ語 II で扱った内容、理解度の確認 復習：Lektion4-6 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。						
授業開始前学習		ドイツ語 I で学習した内容を確認しておくこと。 またドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内にて確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。						
テキスト・教材		小野寿美子、中川明博ほか『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語 改訂版』（朝日出版社）						
参考書		授業内で適宜紹介 独和辞典を持参すること（紙、電子など媒体は問わず）						
評価の基準と方法		平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト） 50%、期末試験 50%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B(ヨーロッパ 2)							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04070
科目名称	韓国語 I	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Korean I	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	宋 美玲	研究室	-		
担当教員	宋 美玲				
オフィスアワー	-				
授業概要	本授業では、主に韓国語未習者を対象に、韓国語文法の基礎内容を学習し、韓国の歴史や文物などを通じて韓国語に対する初歩的な理解を身につけることを目指す。具体的には文法理解に加え、読み・書き・会話の基礎力を育成することが目標となり、表記と発音の関係を学び、特徴的な発音法を理解し、韓国語学習の基本的習得を目指す。日本と韓国の文化比較や社会事情などに関するテーマを扱い、学生の関心をより高めることを重視していく。				
到達目標	1. 韓国語の文字と発音を習得し、ハングルの読み書きができるようになる。 2. 基礎的な語彙と文法を学び、コミュニケーションの基礎能力を身につける。 3. 韓国の文化や社会事情等を学び、異文化に対する理解力と対応力を高めることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	宋 美玲	【第 1 回】 予習：シラバスと授業スケジュールを確認しておくこと 授業：ガイダンス 復習：韓国語のハングル文字について振り返る			
2	宋 美玲	【第 2 回】 予習：第 1 課 韓国語について(教科書 pp.2-3)を講読 授業：韓国語の特徴とハングルについて 復習：韓国語の特徴とハングルの仕組みについて振り返る			
3	宋 美玲	【第 3 回】 予習：第 2 課 文字と発音-母音を講読 授業：母音の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの基本母音を読み書きする			
4	宋 美玲	【第 4 回】 予習：第 3 課 文字と発音-子音(1) を講読 授業：子音(1)の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの子音(1)の単語を覚える			
5	宋 美玲	【第 5 回】 予習：第 4 課 文字と発音-子音(2)を講読 授業：子音(2)の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの子音(2)の文字と発音を覚える			
6	宋 美玲	【第 6 回】 予習：第 5 課 文字と発音-合成母音を講読 授業：合成母音の文字と発音を学ぶ 復習：ハングルの合成母音の単語を覚える			
7	宋 美玲	【第 7 回】 予習：韓国語のあいさつことば(1)(2)(3)(4) p.6,8,13,15 の音読練習 授業：韓国語のあいさつことばを学ぶ<出会いと別れ、感謝と謝罪> 復習：韓国語のあいさつことばを覚える			
8	宋 美玲	【第 8 回】 予習：第 6 課 文字と発音-パッチムを講読 授業：パッチムの文字と発音を学ぶ 復習：ハングルのパッチムを覚えて単語を読み書きする			
9	宋 美玲	【第 9 回】 予習：第 7 課 発音規則について p.23-25 を講読 授業：ハングルの発音規則について学ぶ 復習：発音規則について振り返り、発音練習をする			
10	宋 美玲	【第 10 回】 予習：第 7 課 日本語のハングル表記について p.26-27 を講読 授業：日本語のハングル表記について学ぶ 復習：練習問題を参照し、日本語のハングル表記を振り返り、自分の名前と大学名、住まいをハングルで表記する			

11	宋 美玲	【第 11 回】 予習：第 8 課「文法と表現」(p.30-31)を講読 授業：名詞文「～は～です」の文法と表現を学び、自己紹介(1)をする 復習：会話文 A の音読練習							
12	宋 美玲	【第 12 回】 予習：第 9 課「文法と表現」を講読 授業：名詞文「～ではありません」の表現を学び、専攻名を話す 復習：名詞文の否定表現を振り返る							
13	宋 美玲	【第 13 回】 予習：第 10 課 漢字語数詞と助詞 授業：漢字語数詞と助詞を学ぶ 復習：漢字語数詞を振り返り、自分の学年、誕生日などを話す							
14	宋 美玲	【第 14 回】 予習：表現演習の資料に出る単語を読み書きする 授業：名詞文の文法と語彙をもって自己紹介(2)の表現を学ぶ 復習：表現演習 1 資料を振り返る							
15	宋 美玲	【第 15 回】 予習：表現演習の自己紹介(2)を暗唱 授業：グループワークで自己紹介をし、韓国語でコミュニケーションする 復習：表現演習の資料を振り返る							
授業開始前学習		最初の約 1 か月間に行われる「文字と発音」の授業は大変重要なので、積極的な取り組みが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		・隔週で小テストを行い、授業内でフィードバックする。 ・教科書の練習(問題)は自主課題とするので、学習内容を復習したうえで行うこと。答え合わせは授業内で提示し、フィードバックする。 ・会話文の音読課題は授業内で確認し、個別でフィードバックを行う。							
テキスト・教材		宋美玲・印省熙・白寅英 著『踏みだそう! 韓国語への第一歩』白帝社 (2,400 円 + 税) ISBN 978-4863981553							
参考書		必要に応じて適宜提示・紹介する。							
評価の基準と方法		・授業内での小テスト(30%)、試験(50%)、課題(20%)により評価する。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎	○			△	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04080
科目名称	韓国語Ⅱ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	KoreanⅡ	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	宋 美玲	研究室	-		
担当教員	宋 美玲				
オフィスアワー	-				
授業概要	韓国語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進め、既習の語彙・文法を復習しながら語彙力・表現力を高める。会話表現については、韓国語の自然なリズムとイントネーションを身に付け、基礎的な「受信・発信」ができる力を身につける。自分のことについて話ことができ、かつ相手についての簡単な質問ができることをめざし、韓国語による会話能力の向上を図る。				
到達目標	1. 韓国語の基礎的な文法と語彙を学び、読み書きができるようになる。 2. 基礎文法と語彙力を強化し、コミュニケーション能力を高める。 3. 韓国の文化や社会事情等を知り、異文化への理解を深める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	宋 美玲	【第 1 回】 予習：シラバスと授業スケジュールを確認しておく 授業：ガイダンスと自己紹介 復習：自己紹介で用いられた既習文法と表現を振り返る			
2	宋 美玲	【第 2 回】 予習：第 11 課 指示代名詞と位置を表す名詞を読み書きする 授業：位置を表す名詞と助詞をもって存在表現を学ぶ(1) 復習：「文法と表現」と会話文 A の音読			
3	宋 美玲	【第 3 回】 予習：第 11 課 まめ情報(p49)「親族名称」を講読 授業：親族名称(p.49)を用いた家族紹介と言語文化について学ぶ 復習：韓国語で家族紹介が出来るようにする			
4	宋 美玲	【第 4 回】 予習：第 12 課「用言の活用について」を講読 授業：韓国語の用言活用について学ぶ(1) 復習：用言の活用についての概説を振り返る			
5	宋 美玲	【第 5 回】 予習：第 12 課 練習に出る単語を読み書きする 授業：用言の活用について学ぶ(2) 復習：練習の単語をもって丁寧形を作る			
6	宋 美玲	【第 6 回】 予習：第 13 課「文法と表現」の単語を読み書きする 授業：自分の日課を書いて話すことを学ぶ(1) 復習：会話文 A の音読で日課の表現を振り返る			
7	宋 美玲	【第 7 回】 予習：第 13 課の会話文 B を参考に自分の日課について考える 授業：時間を表す名詞を用いた日課を作文する 復習：会話文 B の音読で日課の表現を振り返る			
8	宋 美玲	【第 8 回】 予習：表現演習 1 の資料で自分の 1 日で用いる単語を覚える 授業：「自分の 1 日の日課」を作文する 復習：作文内容を暗記し、発表できるようにする			
9	宋 美玲	【第 9 回】 予習：第 14 課「文法と表現」を講読 授業：過去を表す表現を学ぶ 復習：会話文 A を正確に音読する			
10	宋 美玲	【第 10 回】 予習：第 14 課 練習問題を解く 授業：過去を表す表現を理解し、先週末にあったことを作文する 復習：先週末の作文を暗記する。			

11	宋 美玲	【第 11 回】 予習：第 15 課「文法と表現」を講読 授業：好き嫌いの表現を学ぶ 復習：会話文 A を正確に音読する						
12	宋 美玲	【第 12 回】 予習：第 15 課 練習問題を解く 授業：好みや趣味などの語彙を学び、好みの表現を学ぶ 復習：表現演習 2 の資料の単語を覚える						
13	宋 美玲	【第 13 回】 予習：第 16 課「文法と表現」を講読 授業：理由や原因、願望等の表現を学ぶ 復習：会話文 A を正確に音読する						
14	宋 美玲	【第 14 回】 予習：第 16 課 練習問題を解く 授業：不可能の表現などを学び、作文演習をする 復習：完成した表現演習 2 の資料を Q & A で練習する						
15	宋 美玲	【第 15 回】 予習：表現演習 1 と 2 の暗誦 授業：資料にある質問を中心に Q & A 形式でコミュニケーションを行う 復習：コミュニケーション練習における様々な表現を振り返る						
授業開始前学習		1. 語彙力を伸ばすために、各課の単語を読み書きする。 2. 用言の活用を理解するために、会話文の音読練習をする。 3. 表現力を高めるために、ペアワークを積極的に取り組む。						
授業内課題のフィードバックの方法		1. 各課の練習問題は自主課題とし、授業内で答え合わせをする。 2. 会話文の音読課題は、授業内でペアワークで確認し、フィードバックする。 3. 作文演習と表現演習の資料は、授業内で個別指導し、フィードバックする。						
テキスト・教材		宋美玲・印省熙・白寅英 著『踏みだそう! 韓国語への第一歩』白帝社 (2,400 円 + 税) ISBN 978-4863981553						
参考書		必要に応じて授業内で提示・紹介する。						
評価の基準と方法		授業内の小テストと試験(60%)、発表(20%)と課題(20%)により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02931
科目名称	中国語 I	単位数	1.0 単位		
英文名称	Chinese I	授業区分	演習		
科目責任者	保坂 律子	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	保坂 律子	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00	研究室	10-709		
授業概要	隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心がますます高まっている。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語のピンイン表記の規則を理解し、4つの声調と母音、子音が正しく発音できる。中国語で基本的な挨拶ができる。基本的な文法ルールを身につけ、中国語で簡単な意思疎通ができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合 の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習 : テキスト 8 頁～9 頁の講読 授業 : 中国語入門オリエンテーション、中国語の発音表記 復習 : テキスト 8～9 頁の音読			
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習 : テキスト 10 頁～12 頁の講読 授業 : 4つの声調、単母音(テキスト 10 頁～12 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 4つの声調、単母音の発音練習			
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習 : テキスト 13 頁～15 頁の講読 授業 : 複母音 3 タイプ(テキスト 13 頁～15 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 複母音 3 タイプの発音練習			
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習 : テキスト 16 頁～19 頁の講読 授業 : 子音、無気音と有気音、そり舌音(テキスト 16 頁～19 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 子音、無気音と有気音、そり舌音の発音練習			
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習 : テキスト 20 頁～22 頁の講読 授業 : 鼻音を伴う母音、声調変化の規則(テキスト 20 頁～22 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 鼻音を伴う母音、声調変化の発音練習			
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習 : テキスト 23 頁～25 頁の講読 授業 : ピンイン表記の規則、数字の読み方(テキスト 23 頁～25 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数字の読み方の発音練習			
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習 : テキスト 26 頁～29 頁の講読 授業 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉(テキスト 26 頁～29 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉の発音練習			
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習 : テキスト 29 頁までの復習 授業 : 中間テストと問題解説 復習 : 中間テストの解き直し			
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習 : テキスト 30 頁～32 頁の講読、単語の復習 授業 : 人称代名詞、動詞述語文 (テキスト 30 頁～32 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 人称代名詞、動詞述語文のドリル			
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習 : テキスト 33 頁～35 頁の講読 授業 : 諾否疑問文、名前の聞き方(テキスト 33 頁～35 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 諾否疑問文、名前の聞き方のドリル			

11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 : テキスト 36 頁～38 頁の講読 授業 : 指示代詞、連体修飾語(テキスト 36 頁～38 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 指示代詞、連体修飾語のドリル						
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習 : テキスト 39 頁～41 頁の講読 授業 : 経験の表し方(テキスト 39 頁～41 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 疑問詞疑問文のドリル						
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習 : テキスト 42 頁～44 頁の講読 授業 : モノの数え方、所有の表し方(テキスト 42 頁～44 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : モノの数え方、所有の表し方のドリル						
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習 : テキスト 45 頁～47 頁の講読 授業 : 数、数量のたずね方(テキスト 45 頁～47 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数、数量のたずね方のドリル						
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗唱、単語のまとめ 授業 : 前期ポイントのまとめ 復習 : 前期ポイント構文の音読						
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や街中で耳にする中国語、中国に関するニュースに関心を持つように心がける。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テストについても都度解説する。						
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』(朝日出版社)						
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点(授業態度・課題提出等) 30 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02932
科目名称	中国語 I	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Chinese I	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	盧 尤	研究室	-		
担当教員	盧 尤				
オフィスアワー	-				
授業概要	隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心が高まっています。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語のピンイン表記の規則を理解し、4つの声調と母音、子音が正しく発音できる。中国語で基本的な挨拶ができる。基本的な文法ルールを身につけ、中国語で簡単な意思疎通ができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	盧 尤	【第 1 回】 予習 : テキスト 8 頁～9 頁の講読 授業 : 中国語入門オリエンテーション、中国語の発音表記 復習 : テキスト 8～9 頁の音読			
2	盧 尤	【第 2 回】 予習 : テキスト 10 頁～12 頁の講読 授業 : 4つの声調、単母音(テキスト 10 頁～12 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 4つの声調、単母音の発音練習			
3	盧 尤	【第 3 回】 予習 : テキスト 13 頁～15 頁の講読 授業 : 複母音 3 タイプ(テキスト 13 頁～15 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 複母音 3 タイプの発音練習			
4	盧 尤	【第 4 回】 予習 : テキスト 16 頁～19 頁の講読 授業 : 子音、無気音と有気音、そり舌音(テキスト 16 頁～19 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 子音、無気音と有気音、そり舌音の発音練習			
5	盧 尤	【第 5 回】 予習 : テキスト 20 頁～22 頁の講読 授業 : 鼻音を伴う母音、声調変化の規則(テキスト 20 頁～22 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 鼻音を伴う母音、声調変化の発音練習			
6	盧 尤	【第 6 回】 予習 : テキスト 23 頁～25 頁の講読 授業 : ピンイン表記の規則、数字の読み方(テキスト 23 頁～25 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数字の読み方の発音練習			
7	盧 尤	【第 7 回】 予習 : テキスト 26 頁～29 頁の講読 授業 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉(テキスト 26 頁～29 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 声調の組み合わせ、挨拶言葉の発音練習			
8	盧 尤	【第 8 回】 予習 : テキスト 29 頁までの復習 授業 : 中間テストと問題解説 復習 : 中間テストの解き直し			
9	盧 尤	【第 9 回】 予習 : テキスト 30 頁～32 頁の講読、単語の復習 授業 : 人称代名詞、動詞述語文 (テキスト 30 頁～32 頁) 復習 : 人称代名詞、動詞述語文のドリル			
10	盧 尤	【第 10 回】 予習 : テキスト 33 頁～35 頁の講読 授業 : 諾否疑問文、名前の聞き方(テキスト 33 頁～35 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 諾否疑問文、名前の聞き方のドリル			

11	盧 尤	【第 11 回】 予習 : テキスト 36 頁～38 頁の講読 授業 : 指示代詞、連体修飾語(テキスト 36 頁?38 頁) 復習 : 指示代詞、連体修飾語のドリル						
12	盧 尤	【第 12 回】 予習 : テキスト 39 頁～41 頁の講読 授業 : 経験の表し方 (テキスト 39 頁～41 頁) 復習 : 疑問詞疑問文のドリル						
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 : テキスト 42 頁～44 頁の講読 授業 : モノの数え方、所有の表し方(テキスト 42 頁～44 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : モノの数え方、所有の表し方のドリル						
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 : テキスト 45 頁～47 頁の講読 授業 : 数、数量のたずね方(テキスト 45 頁～47 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 数、数量のたずね方のドリル						
15	盧 尤	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗唱、単語のまとめ 授業 : 前期ポイントのまとめ 復習 : 前期ポイント構文の音読						
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つように心がける。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テスト(クイズ)についても都度解説する。						
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』(朝日出版社)						
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点(授業態度・課題提出等) 30 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）		100-130-21	授業コード	F02941
科目名称		中国語Ⅱ				単位数	1.0 単位
英文名称		ChineseⅡ				授業区分	演習
科目責任者		保坂 律子				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		保坂 律子				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00				研究室	10-709
授業概要		隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心はますます高まっている。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。					
到達目標		中国語の基本文法を理解し、正しく簡体字を書くことができる。中国語の語彙を増やし、単文の基本文型が理解できる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習：テキスト 48 頁～49 頁の講読 授業：形容詞述語文、程度を表す副詞（テキスト 48 頁～49 頁） 復習：形容詞述語文、程度を表す副詞のドリル					
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習：テキスト 50 頁～52 頁の講読 授業：反復疑問文、名詞＋“？”疑問文(テキスト 50 頁～52 頁)（ペア・グループワーク） 復習：反復疑問文、名詞＋“？”疑問文のドリル					
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習：テキスト 53 頁～55 頁の講読 授業：場所を表す指示代詞、存在の表し方（テキスト 53 頁～55 頁）（ペア・グループワーク） 復習：場所を表す指示代詞、存在の表し方のドリル					
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習：テキスト 56 頁～58 頁の講読 授業：願望を表す助動詞(テキスト 56 頁～58 頁)（ペア・グループワーク） 復習：願望を表す助動詞のドリル					
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習：テキスト 59 頁～60 頁の講読 授業：日付・時を表す言葉（テキスト 59 頁～60 頁）（ペア・グループワーク） 復習：日付・時を表す言葉のドリル					
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習：テキスト 61 頁～62 頁の講読 授業：名詞述語文(テキスト 61 頁～62 頁)（ペア・グループワーク） 復習：名詞述語文のドリル					
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習：テキスト 63 頁～64 頁の講読 授業：提案、推量の表し方(テキスト 63 頁～64 頁)（ペア・グループワーク） 復習：提案、推量の表し方のドリル					
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習：テキスト 64 頁までの復習 授業：中間テストと問題解説 復習：中間テストの解き直し					
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習：テキスト 65 頁～66 頁の講読 授業：連動文（テキスト 65 頁～66 頁）（ペア・グループワーク） 復習：連動文のドリル					
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習：テキスト 67 頁～68 頁の講読 授業：時間量、介詞（テキスト 67 頁～68 頁）（ペア・グループワーク） 復習：時間量、介詞のドリル					

11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 : テキスト 69 頁～70 頁の講読 授業 : どれくらい～？のたずね方(テキスト 69 頁～70 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : どれくらい～？のドリル						
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習 : テキスト 71 頁～72 頁の講読 授業 : 経験の表し方 (テキスト 71 頁～72 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 経験の表し方のドリル						
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習 : テキスト 73～74 頁の講読 授業 : 動詞の繰り返し型 (テキスト 73 頁～74 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 動詞の繰り返し型のドリル						
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習 : テキスト 75 頁～77 頁の講読 授業 : 選択疑問文(テキスト 75 頁～77 頁) (ペア・グループワーク) 復習 : 選択疑問文のドリル						
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗誦、単語のまとめ 授業 : 後期ポイントのまとめ 復習 : 後期ポイント構文の音読						
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に実施する中間テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テスト（クイズ）についても都度解説する。						
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）						
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）+ 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-130-21	授業コード	F02942
科目名称	中国語Ⅱ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	ChineseⅡ	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	盧 尤	研究室	-	授業概要	隣国中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心が高まっている。中国語は日本語と同様に、漢字で表記されることもあり、親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。
担当教員	盧 尤	到達目標	中国語の基本文法を理解し、正しく簡体字を書くことができる。中国語の語彙を増やし、単文の基本文型が理解できる。	アクティブ・ラーニング 型授業	有
オフィスアワー	-	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	盧 尤	【第 1 回】 予習 : テキスト 48 頁～49 頁の講読 授業 : 形容詞述語文、程度を表す副詞 (テキスト 48 頁～49 頁) 復習 : 形容詞述語文、程度を表す副詞のドリル			
2	盧 尤	【第 2 回】 予習 : テキスト 50 頁～52 頁の講読 授業 : 反復疑問文、名詞 + “?” 疑問文 (テキスト 50 頁～52 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 反復疑問文、名詞 + “?” 疑問文のドリル			
3	盧 尤	【第 3 回】 予習 : テキスト 53 頁～55 頁の講読 授業 : 場所を表す指示代詞、存在の表し方 (テキスト 53 頁～55 頁) 復習 : 場所を表す指示代詞、存在の表し方のドリル			
4	盧 尤	【第 4 回】 予習 : テキスト 56 頁～58 頁の講読 授業 : 願望を表す助動詞 (テキスト 56 頁～58 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 願望を表す助動詞のドリル			
5	盧 尤	【第 5 回】 予習 : テキスト 59 頁～60 頁の講読 授業 : 日付・時を表す言葉 (テキスト 59 頁～60 頁)			
6	盧 尤	【第 6 回】 予習 : テキスト 61 頁～62 頁の講読 授業 : 名詞述語文 (テキスト 61 頁～62 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 名詞述語文のドリル			
7	盧 尤	【第 7 回】 予習 : テキスト 63 頁～64 頁の講読 授業 : 提案、推量の表し方 (テキスト 63 頁～64 頁) 復習 : 提案、推量の表し方			
8	盧 尤	【第 8 回】 予習 : テキスト 64 頁までの復習 授業 : 小テストと問題解説 復習 : 小テストの直し			
9	盧 尤	【第 9 回】 予習 : テキスト 65 頁～66 頁の講読 授業 : 連動文 (テキスト 65 頁～66 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 連動文のドリル			
10	盧 尤	【第 10 回】 予習 : テキスト 67 頁～68 頁の講読 授業 : 時間量、介詞 (テキスト 67 頁～68 頁) 復習 : 時間量、介詞のドリル			
11	盧 尤	【第 11 回】 予習 : テキスト 69 頁～70 頁の講読 授業 : どれくらい? ? のたずね方 (テキスト 69 頁～70 頁) (ペア・ワーク)			

		復習 : どれくらい? ? のドリル						
12	盧 尤	【第 12 回】 予習 : テキスト 71 頁～72 頁の講読 授業 : 経験の表し方 (テキスト 71 頁～72 頁) 復習 : 経験の表し方のドリル						
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 : テキスト 73 頁～74 頁の講読 授業 : 動詞の繰り返し型 (テキスト 73 頁～74 頁) (ペア・ワーク) 復習 : 動詞の繰り返し型のドリル						
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 : テキスト 75 頁～77 頁の講読 授業 : 選択疑問文 (テキスト 75 頁～77 頁) 復習 : 選択疑問文のドリル						
15	盧 尤	【第 15 回】 予習 : 挨拶言葉の暗誦、単語のまとめ 授業 : 後期ポイントのまとめ 復習 : 後期ポイント構文の音読						
授業開始前学習		身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に適宜実施する小テストおよび中間テストは採点の上翌週返却し、弱点の補強とステップアップのポイントについてアドバイスする。						
テキスト・教材		『ケンタくんの中国語』(朝日出版社)						
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点 (授業態度・課題提出) 30 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112		科目分類（～2024 年 入学者）		授業コード		F04120							
科目名称		日本語 I				単位数		1.0 単位							
英文名称		Japanese I				授業区分		演習							
科目責任者		何 芸凡				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		何 芸凡				開講時期		1 年							
オフィスアワー		前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10				研究室		16-307							
授業概要		大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という 4 技能の習得を目指す。 特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。													
到達目標		1 日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように話せるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		何 芸凡		【第 1 回】 予習：印象に残る自己紹介を考えておく。 授業：自己紹介（1）：スピーチをするときの段取りを身につける。（発表） 「時間・時期に関する文型」の学習。 復習：授業で学習した文型を使って文を作る。											
2		何 芸凡		【第 2 回】 予習：前回配布したプリントの内容を見直す。 授業：自己紹介（2）：聞き手が聞きとりやすい発声やスピードを身につける。（発表） 「立場・状況・場合に関する文型」の学習。 復習：立場・状況・場合に関する文型を使って文を作る。											
3		何 芸凡		【第 3 回】 予習：前回配布したプリントの内容を見直す。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「限定に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。限定の文型を使って文を作る。											
4		何 芸凡		【第 4 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「例示・比喩に関する文型」の学習。 復習：例示・比喩に関する文型を使って文を作る。											
5		何 芸凡		【第 5 回】 予習：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「対比に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 対比に関する文型を使って文を作る。											
6		何 芸凡		【第 6 回】 予習：これまでに学習した文型について復習する。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 復習：小テストで出題された文型を使って文を作る。											
7		何 芸凡		【第 7 回】 予習：自分の出身地について、情報をまとめる。 授業：出身地紹介（1）：聞き手が興味をもつようなテーマ選びを考える。（発表） 「同時・2 つの事柄を述べる文型」の学習。 復習：同時・2 つの事柄を述べる文型を使って文を作る。											

8	何 芸 芑	【第 8 回】 予習：前回学んだ発表の仕方について復習する。 授業：出身地紹介（2）：発表に際してはポイントを絞り、分かりやすく伝える工夫をする。（発表） 「不変・無関係に関する文型」の学習。 復習：不変・無関係に関する文型を使って文を作る						
9	何 芸 芑	【第 9 回】 予習：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「強調・繰り返しに関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 強調・繰り返しに関する文型を使って文を作る。						
10	何 芸 芑	【第 10 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「逆接・意外な気持ちに関する文型」の学習。 復習：逆接・意外な気持ちに関する文型を使って文を作る。						
11	何 芸 芑	【第 11 回】 予習：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「結果に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 結果に関する文型を使って文を作る。						
12	何 芸 芑	【第 12 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「条件に関する文型」の学習。 復習：条件に関する文型を使って文を作る。						
13	何 芸 芑	【第 13 回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題を調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「基準に関する文型」の学習 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 基準に関する文型を使って文を作る。						
14	何 芸 芑	【第 14 回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学習した文型を見直す。 授業：文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 復習：小テストで取り上げた文型を使って、文を作る。						
15	何 芸 芑	【第 15 回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題について、問題点を明確にしながらかディスカッションする。（ディスカッション） 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 これまでに学んだ発表の仕方を復習する。						
授業開始前学習		N2,N3 の語彙・文法などを復習しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。						
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。						
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房,2006 年 12 月 その他、随時指示する。						
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04121
科目名称	日本語 I	単位数	1.0 単位		
英文名称	Japanese I	授業区分	演習		
科目責任者	中尾 真樹	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	中尾 真樹	開講時期	1 年		
オフィスアワー	-	研究室	-		
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という 4 技能の習得を目指す。 特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。				
到達目標	1 日本語能力試験 N 1 レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように話せるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中尾 真樹	【第 1 回】 予習 : 印象に残る自己紹介を考えておく。 授業 : 自己紹介 (1) : スピーチをするときの段取りを身につける。(発表) 「時間・時期に関する文型」の学習。 復習 : 授業で学習した文型を使って文を作る。			
2	中尾 真樹	【第 2 回】 予習 : 前回配布したプリントの内容を見直す。 授業 : 自己紹介 (2) : 聞き手が聞きとりやすい発声やスピードを身につける。(発表) 「立場・状況・場合に関する文型」の学習。 復習 : 立場・状況・場合に関する文型を使って文を作る。			
3	中尾 真樹	【第 3 回】 予習 : 前回配布したプリントの内容を見直す。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「限定に関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。限定の文型を使って文を作る。			
4	中尾 真樹	【第 4 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 「例示・比喩に関する文型」の学習。 復習 : 例示・比喩に関する文型を使って文を作る。			
5	中尾 真樹	【第 5 回】 予習 : ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「対比に関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 対比に関する文型を使って文を作る。			
6	中尾 真樹	【第 6 回】 予習 : これまでに学習した文型について復習する。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 復習 : 小テストで出題された文型を使って文を作る。			
7	中尾 真樹	【第 7 回】 予習 : 自分の出身地について、情報をまとめる。 授業 : 出身地紹介 (1) : 聞き手が興味をもつようなテーマ選びを考える。(発表) 「同時・2 つの事柄を述べる文型」の学習。 復習 : 同時・2 つの事柄を述べる文型を使って文を作る。			

8	中尾 真樹	【第 8 回】 予習 : 前回学んだ発表の仕方について復習する。 授業 : 出身地紹介 (2) : 発表に際してはポイントを絞り、分かりやすく伝える工夫をする。(発表) 「不変・無関係に関する文型」の学習。 復習 : 不変・無関係に関する文型を使って文を作る						
9	中尾 真樹	【第 9 回】 予習 : ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「強調・繰り返しに関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 強調・繰り返しに関する文型を使って文を作る。						
10	中尾 真樹	【第 10 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 「逆接・意外な気持ちに関する文型」の学習。 復習 : 逆接・意外な気持ちに関する文型を使って文を作る。						
11	中尾 真樹	【第 11 回】 予習 : ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「結果に関する文型」の学習。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 結果に関する文型を使って文を作る。						
12	中尾 真樹	【第 12 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 「条件に関する文型」の学習。 復習 : 条件に関する文型を使って文を作る。						
13	中尾 真樹	【第 13 回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題を調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「基準に関する文型」の学習 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 基準に関する文型を使って文を作る。						
14	中尾 真樹	【第 14 回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学習した文型を見直す。 授業 : 文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 復習 : 小テストで取り上げた文型を使って、文を作る。						
15	中尾 真樹	【第 15 回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題について、問題点を明確にしながらかディスカッションする。(ディスカッション) 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 これまでに学んだ発表の仕方を復習する。						
授業開始前学習		N2,N3 の語彙・文法などを復習しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。						
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。						
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房,2006 年 12 月 その他、随時指示する。						
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04130
科目名称	日本語Ⅱ	単位数	1.0 単位		
英文名称	JapaneseⅡ	授業区分	演習		
科目責任者	何 芸凡	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	何 芸凡	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10	研究室	16-307		
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聴くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。				
到達目標	1 日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えを論理的な文章にまとめることができるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	何 芸凡	【第1回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「方法に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 方法に関する文型を使って文を作る。			
2	中尾 真樹	【第2回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチの導入について、言葉遣いや決まり文句を確認する。 「様子に関する文型」を学習する。 復習：様子に関する文型を使って文を作る。			
3	中尾 真樹	【第3回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチをする際に、声の大きさや姿勢などが重要であることを確認する。 「傾向に関する文型(1)」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 傾向に関する文型を使って文を作る。			
4	中尾 真樹	【第4回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 予期せぬ質問などへの対応方法を考える。 「傾向に関する文型(2)」を学習する。 復習：傾向に関する文型を使って文を作る。			
5	中尾 真樹	【第5回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) パワーポイントなどの資料は、情報の読み取りやすさが重要であることを確認する。 「話題・対象に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 話題・対象に関する文型を使って文を作る。			
6	中尾 真樹	【第6回】 予習：これまでに学習した文型を見直す。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：小テスト(これまでに学習した文型について) 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチはテーマを絞り、問題点を明確にする必要があることを確認する。 復習：小テストで扱った文型を使って文を作る。			

7	中尾 真樹	【第7回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチの内容を考える際には、聞き手が何を求めているかを考える必要があることを確認する。 「意思・意向に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 意思・意向に関する文型を使って文を作る。
8	中尾 真樹	【第8回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 日頃から時事問題に接しておくことの必要性を考える。 「理由・根拠に関する文型」を学習する。 復習 : 理由・根拠に関する文型を使って文を作る。
9	中尾 真樹	【第9回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) SNS 以外の情報に目配りすることの重要性を考える。 「目的に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 目的に関する文型を使って文を作る。
10	何 芸芄	【第10回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 時事問題の情報源には信頼性に差があることを確認する。 「可能・不可能に関する文型」を学習する。 復習 : 可能・不可能に関する文型を使って文を作る。
11	中尾 真樹	【第11回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 情報源の信頼性をどのように見分けるかを考える。 「評価に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 評価に関する文型を使って文を作る。
12	中尾 真樹	【第12回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業 : 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、いくつかの視点を設定して論じる練習をする。 「感想に関する文型」を学習する。 復習 : 感想に関する文型を使って文を作る。
13	中尾 真樹	【第13回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 意見を述べる際には、まず問題点を明確にする必要があることを確認する。 「見方・考え方に関する文型」を学習する。 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 見方・考え方に関する文型を使って文を作る。
14	中尾 真樹	【第14回】 予習 : 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学んだ文型を見直す。 授業 : 小テスト : これまでに学習した文型について 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、各自が設定した視点を比較する。 「禁止に関する文型」を学習する。 復習 : 禁止に関する文型を使って文を作る。
15	中尾 真樹	【第15回】 予習 : ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業 : 時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 復習 : 授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 授業で行ったディスカッションで、他者が設定した視点からあらためて問題を見直す。
授業開始前学習		N2、N3 の学習内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房, 2006 年 12 月 その他、随時指示する。
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード	F04131
科目名称	日本語Ⅱ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	JapaneseⅡ	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	中尾 真樹	研究室	-		
担当教員	中尾 真樹				
オフィスアワー	-				
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の習得を目指す。特に講義を聴くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。				
到達目標	1 日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えを論理的な文章にまとめることができるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中尾 真樹	【第1回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 「方法に関する文型」の学習。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 方法に関する文型を使って文を作る。			
2	中尾 真樹	【第2回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチの導入について、言葉遣いや決まり文句を確認する。 「様子に関する文型」を学習する。 復習：様子に関する文型を使って文を作る。			
3	中尾 真樹	【第3回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチをする際に、声の大きさや姿勢などが重要であることを確認する。 「傾向に関する文型(1)」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 傾向に関する文型を使って文を作る。			
4	中尾 真樹	【第4回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 予期せぬ質問などへの対応方法を考える。 「傾向に関する文型(2)」を学習する。 復習：傾向に関する文型を使って文を作る。			
5	中尾 真樹	【第5回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) パワーポイントなどの資料は、情報の読み取りやすさが重要であることを確認する。 「話題・対象に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 話題・対象に関する文型を使って文を作る。			
6	中尾 真樹	【第6回】 予習：これまでに学習した文型を見直す。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：小テスト(これまでに学習した文型について) 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) スピーチはテーマを絞り、問題点を明確にする必要があることを確認する。 復習：小テストで扱った文型を使って文を作る。			

7	中尾 真樹	【第7回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) スピーチの内容を考える際には、聞き手が何を求めているかを考える必要があることを確認する。 「意思・意向に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 意思・意向に関する文型を使って文を作る。
8	中尾 真樹	【第8回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 日頃から時事問題に接しておくことの必要性を考える。 「理由・根拠に関する文型」を学習する。 復習：理由・根拠に関する文型を使って文を作る。
9	中尾 真樹	【第9回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) SNS 以外の情報に目配りすることの重要性を考える。 「目的に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 目的に関する文型を使って文を作る。
10	中尾 真樹	【第10回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 時事問題の情報源には信頼性に差があることを確認する。 「可能・不可能に関する文型」を学習する。 復習：可能・不可能に関する文型を使って文を作る。
11	中尾 真樹	【第11回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 情報源の信頼性をどのように見分けるかを考える。 「評価に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 評価に関する文型を使って文を作る。
12	中尾 真樹	【第12回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、いくつかの視点を設定して論じる練習をする。 「感想に関する文型」を学習する。 復習：感想に関する文型を使って文を作る。
13	中尾 真樹	【第13回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 意見を述べる際には、まず問題点を明確にする必要があることを確認する。 「見方・考え方に関する文型」を学習する。 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 見方・考え方に関する文型を使って文を作る。
14	中尾 真樹	【第14回】 予習：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学んだ文型を見直す。 授業：小テスト：これまでに学習した文型について 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。(発表) 特定の時事問題について、各自が設定した視点を比較する。 「禁止に関する文型」を学習する。 復習：禁止に関する文型を使って文を作る。
15	中尾 真樹	【第15回】 予習：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。(ディスカッション) 復習：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 授業で行ったディスカッションで、他者が設定した視点からあらためて問題を見直す。
授業開始前学習		N2、N3 の学習内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法		受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。
テキスト・教材		テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書		三浦香苗ほか『最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房、2006 年 12 月 その他、随時指示する。
評価の基準と方法		課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 CT-L-111 SD-L-111		科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-11		授業コード		F03690					
科目名称		日本事情Ⅰ						単位数		2.0 単位					
英文名称		Studies of Japanese SocietyⅠ						授業区分		講義					
科目責任者		安井 裕司						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		安井 裕司						開講時期		1 年					
オフィスアワー		前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30						研究室		16-306					
授業概要		日本の伝統行事や日本文化を学術文献を押さえながら、学問的フレームワークを確認し、その上で、アニメ、映画、ドラマ、漫画、小説作品を用いて、日常的な視点から「日本文化」を相対化していく。また、毎回、冒頭においてできるだけ日本社会の時事問題を取り上げ、解説し、アクティブラーニングの一環として履修した皆さんと議論していきたい。													
到達目標		日本の社会や文化、習慣、伝統行事を、学術書、小説、漫画、映画、ドラマなどを通じて、「日本学」として捉え直し、履修者のそれぞれの専門に役立てることを目標とする。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態			
授業 回数		担当者		授業の内容											
1		安井 裕司		【第 1 回】 予習：お花見に関して書籍、学術論文を調べる。白幡三郎『花見と桜』（2000 年）等もできれば読んでおく。 授業：日本の伝統行事(1)：お花見（桜） 復習：映画『秒速 5 センチメートル』（2007 年）等、桜がテーマの映画や小説を読む。											
2		安井 裕司		【第 2 回】 予習：日本の暦を再確認する。時ネットや図書館で時間と文化についても調べる。 授業：日本の暦 復習：映画『天地明察』（2012 年）等の暦に関する映画、ドラマを観る。漫画、小説などを読む。											
3		安井 裕司		【第 3 回】 予習：桃の節句、ひな祭りについてネットや図書館で記事、学術文献、学術書を読んでおく。 授業：日本の伝統行事(2)：桃の節句・ひな祭り 復習：映画『夢』（1990 年）、映画『時をかける少女』（1983 年）等、ひな祭りがテーマや重要シーンとなっている映画、ドラマ、アニメ作品を観る。小説、漫画を読む。											
4		安井 裕司		【第 4 回】 予習：端午の節句、子どもの日、鯉のぼりについてネットや図書館で調べる。柳田國男『年中行事覚書』（1977 年）、是澤博昭『子供を祝う端午の節句と雛祭』（2015 年）等の学術書も読む。 授業：日本の伝統行事(3)：端午の節句 復習：映画『二十四の瞳』（1954 年）と「二十四の瞳映画村」のニュース。鯉のぼりや端午の節句がテーマやイメージになっている映画、アニメを観る。小説、漫画を読む。											
5		安井 裕司		【第 5 回】 予習：三重大学国際忍者研究センターの「忍者学」の研究業績を調べておく。 授業：忍者 復習：アニメ『NARUTO』（2002 年）、アニメ『忍者ハットリくん』（1981 年）を忍者学の観点から考察する。											
6		安井 裕司		【第 6 回】 予習：将棋のルールを確認し、その歴史を調べ、今日の日本人と将棋の関係を考えておく。 授業：日本の伝統遊戯(1)：将棋 復習：アニメ『3 月のライオン』（2016 年）等の将棋がテーマのアニメ、映画作品などを観る。											
7		安井 裕司		【第 7 回】 予習：碁のルールを確認し、その歴史を調べ、今日の日本人と碁の関係を考えておく。 授業：日本の伝統遊戯(2)：碁 復習：映画『碁盤斬り』（2024 年）等の碁がテーマの映画作品を観る。											
8		安井 裕司		【第 8 回】 予習：かるた/競技かるたについてネットや書籍を調べる。できれば、楠木早紀『瞬間の記憶力』（2012 年）も読んでおく。 授業：日本の伝統遊戯(3)：かるた 復習：アニメ『ちはやふる』（2011 年）等の競技かるたがテーマのアニメ、漫画作品を観てかるたを考える。											
9		安井 裕司		【第 9 回】 予習：日本人と俳句についてネット、図書館、調べる。 授業：俳句 復習：映画『サイダーのように言葉が湧き上がる』（2021 年）等、映画、漫画、小説で俳句がテーマとなっている作品を観る、読む。											

10	安井 裕司	【第 10 回】 予習：三味線についてネット、図書館で調べる。大條和雄『津軽三味線の誕生 新装版－民俗芸能の生成と隆盛』（2024 年）等の三味線研究を読んでおく。 授業：日本の伝統音楽；三味線 復習：映画『ましろのおと』（2021 年）等の三味線がテーマの映像作品を観る。小説、漫画などを読む。						
11	安井 裕司	【第 11 回】 予習：梅雨あるいは日本人と雨の関係、日本文化と雨についてネットや書籍、論文を読んで調べる。 授業：日本人と梅雨 復習：映画『天気の子』（2019 年）、映画『言の葉の庭』（2013 年）等、雨や梅雨がテーマの映画、アニメ、ドラマを観る。						
12	安井 裕司	【第 12 回】 予習：ネットや書籍、学術論文で日本の妖怪について調べる。井上円了『妖怪学とは何か』（2023 年）、小松和彦『妖怪学新考 妖怪からみる日本人の心』（2013 年）柳田 国男『新訂 妖怪談義』（2013 年）などを読む。 授業：日本人と妖怪 復習：アニメ『妖怪ウォッチ』（2014 年）、アニメ『夏目友人帳』（2008 年）、アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』（1968 年、1971 年）、を妖怪学の視点から観る。						
13	安井 裕司	【第 13 回】 予習：七夕に関してネットや図書館で調べておく。七夕に関する学術論文を読む。 授業：日本の伝統行事（4）七夕 復習：七夕がテーマとなっている映画、アニメ、ドラマ作品を観る。小説、漫画を読む。						
14	安井 裕司	【第 14 回】 予習：花火と日本人の関係する情報をネットや図書館を使って調べる。吉田 忠雄/丁 大玉『花火学入門』（2006 年）等の書籍に目を通す。 授業 日本の伝統行事（5）夏祭りと花火 復習：映画『君の名は。』（2016 年）等、夏祭り、花火がテーマや重要シーンとなっている映画、アニメ作品を観る。小説、漫画を読む。						
15	安井 裕司	【第 15 回】 予習：ネットや書籍、学術論文でお盆について調べる。お盆に関する学術書を読む。 授業：日本の伝統行事（6）お盆 復習：お盆がテーマの映画、アニメ作品。小説、漫画を読む。						
授業開始前学習		シラバスに記載されている映画、ドラマ、小説、学術論文などに可能な限りに目を通す。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題を出した場合は、次の回の授業時にフィードバックを行う。課題や授業に関する質問は、G.Classroom 内で随時受け付ける。						
テキスト・教材								
参考書		毎回、講義前にリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介していく。						
評価の基準と方法		平常点（授業態度・課題）30%、レポートを 70%とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				△
関連科目	日本事情Ⅱ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ							
その他	受講者数や受講者の日本滞在年数によって、授業内容は変更になる場合がある。PPT を用いてのプレゼンテーションを課すケースがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-111 CT-L-111 SD-L-111	科目分類（～2024 年 入学者）		100-110-11	授業コード	F03700
科目名称		日本事情Ⅱ				単位数	2.0 単位
英文名称		Studies of Japanese Society Ⅱ				授業区分	講義
科目責任者		安井 裕司				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		安井 裕司				開講時期	1 年
オフィスアワー		前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30				研究室	16-306
授業概要		日本の季節の伝統行事や日本文化を学術文献を押さえながら、学問的フレームワークを確認し、その上で、アニメ、映画、ドラマ、漫画、小説作品を用いて、日常的な視点から「日本文化」を相対化していく。また、毎回、冒頭においてできるだけ日本社会の時事問題を取り上げ、解説し、アクティブラーニングの一環として履修した皆さんと議論していきたい。					
到達目標		日本の社会や文化、習慣、伝統行事を、学術書、小説、漫画、映画、ドラマなどを通じて、「日本学」として捉え直し、履修者のそれぞれの専門に役立てることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合 の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習：日本の月見についてネット、図書館にて新聞記事や学術書を調べる。『新版 竹取物語 』（2001 年）を読んでおく。 授業：日本の文化的行事（1）： 月見 復習：映画『かぐや姫』等の月見や竹取物語がテーマとなっている映像作品を観る。あるいは小説、漫画等を読む。					
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習：寿司についてネットや図書館で新聞記事を調べる。大川智彦『現代すし学：すしの歴史と、すしの今がわかる』（2007 年）、王昊凡『グローバル化する寿司の社会学』（2023 年）、学術論文、学術書を読む。 授業：日本の飲食文化(1)：寿司 復習：ドラマ「エピソード 5,第 5 話」『孤独のグルメ』（2017 年）、映画『二郎は鮭の夢を見る』（2011 年）、アニメ「寿司の心」『美味しんぼ』（1988 年）等の映像作品をすし学の観点から観る。漫画『江戸前の旬』（2000 年）を同様の観点から読む。					
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習：日本のラーメンについてネットや図書館で新聞記事を調べる。バラク・クシュナー『ラーメンの歴史学——ホットな国民食からクールな世界食へ』（2018 年）等のラーメンに関する学術書、学術論文を読む。 授業：日本の飲食文化(2):ラーメン 復習：ラーメンがテーマの映画、ドラマ、アニメ、漫画などを鑑賞する。					
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習：日本酒についてネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。新潟大学日本酒学センターの研究蓄積を調べる。 授業：日本の飲食文化（3）：日本酒 復習：漫画『夏子の酒』（1988 年）等、日本酒がテーマである映画、漫画、ドラマを学術的観点から見る。					
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習：茶道に関してネットや図書館で調べる。学術論文、研究書を探して読む。 授業：茶道 復習：映画『日日是好日』（2018 年）等の茶道がテーマの映画、ドラマを観る。小説、漫画等を読む。					
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習：舞妓・芸妓についてネットや書籍、論文を読んで調べる。可能ならば西尾久美子『舞妓の言葉』（2012 年）等の書籍を読んでおく。 授業：舞妓・芸妓 復習：映画『舞妓はレディ』（2014 年）等の舞妓が主役の映画、小説を観る。					
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習：落語についてネット、図書館で調べる。野村雅昭『落語のレトリック』（1996 年）等、落語に関する学術書も読む。 授業：落語 復習：アニメ『昭和元禄落語心中』（2016 年）、ドラマ『タイガー＆ドラゴン』（2005 年）等の落語がテーマの映画、ドラマを観る。小説、漫画を読む					
8	安井 裕司	【第 8 回】 予習：弓道についてネット、図書館で調べる。小笠原清信・白石暁 著『弓道 増補版』（1971 年）等弓道に関する専門書を読む。 授業：弓道 復習：アニメ『ツルネ -風舞高校弓道部-』（2018 年）等、弓道に関する映画、アニメを観る。小説、漫画を読む。					

9	安井 裕司	【第9回】 予習：日本人と紅葉の関係をネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。紅葉の研究書を読む。 授業：日本の文化的な行事（2）：紅葉 復習：紅葉がテーマとなっている映画、ドラマ、小説を観る、読む。							
10	安井 裕司	【第10回】 予習：日本人とお風呂の関係についてネット、図書館で新聞記事や学術書、学術文献を調べる。別府大学の温泉学の研究蓄積を調べる。 授業：温泉・銭湯 復習：映画『テルマエ・ロマエ』（2012 年）を温泉学の観点から見る。							
11	安井 裕司	【第11回】 予習：富士山に関してネットや図書館で、新聞記事、学術書を調べる。富士学会の学会誌『富士学研究』、静岡県富士山世界遺産センター発行の『富士山学』等に掲載された学術論文も読む。 授業：日本人と富士山 復習：富士山がテーマである映画、ドラマを観る。富士山がテーマや背景にある小説、漫画などを読む。							
12	安井 裕司	【第12回】 予習：日本のクリスマスをネット、図書館で新聞記事や学術書を調べる。日本のクリスマスに関する学術文献を読む。 授業：日本の文化的な行事（3）：日本のクリスマス 復習：クリスマスがテーマとなっている映画、ドラマなどの映像作品を観る、同じく楽曲を聴き、小説、漫画を読む。							
13	安井 裕司	【第13回】 予習：『NHK 紅白歌合戦』についてネットや図書館で新聞記事、学術論文を探す。太田省一『紅白歌合戦と日本人』（2013 年） 授業：NHK 紅白歌合戦 復習：過去の『NHK 紅白歌合戦』を可能な限り、観る。							
14	安井 裕司	【第14回】 予習：日本のお正月に関して、ネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。お正月に関する学術書を読む。 授業：日本の文化的な行事を考える（4）：お正月 復習：お正月がテーマである映画、ドラマを観て、小説、漫画などを読む。							
15	安井 裕司	【第15回】 予習：節分や日本の鬼についてネットや図書館で日本の暦について調べる。 授業：日本の文化的な行事を考える（5）：節分 復習：節分や鬼に関する映画、ドラマを観る。漫画、小説などを読む。							
授業開始前学習		紹介する学術書、一般書、漫画を読み、映像作品（映画、ドラマ）を鑑賞することを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題を出した場合は、次の回の授業時にフィードバックを行う。課題や授業に関する質問は、Google Classroom 内で随時受け付ける。							
テキスト・教材		1 冊の教科書ではなく、毎回、講義前に Google Classroom を通じてリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介する形式となる。							
参考書		講義前に Google Classroom を通じてリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介する。							
評価の基準と方法		平常点（授業態度・課題）30%、最終回のレポートを 70%とする。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○	◎				△
関連科目		日本事情Ⅰ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ							
その他		講義内容を踏まえ、日本の文化、社会をテーマに独自に調べ、講義中に短時間のプレゼンテーションを課す場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00620
科目名称	☆人間と思想	単位数	2.0 単位	授業区分	講義
英文名称	Humans and Thought	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	鈴木 由加里	研究室	-	授業概要	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考える。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する予定である。
担当教員	鈴木 由加里	到達目標	哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになること。	アクティブ・ラーニング 型授業	無
オフィスアワー	-	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：現代的視点で人間について考えることについて及び授業説明 授業の進め方評価基準などについて資料を配付 授業内で論述課題を行う 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる			
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：近代という言葉からイメージするものを考えてくる 授業：近代とは何か 復習：日本語で西洋のことについて学ぶことの意味について考える			
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：自分が考える「科学的」ということの意味を考えること 授業：科学革命と人間 復習：現代の科学は人間の何を明らかにしているのかを考える			
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：人権とは何か、箇条書きにしてくる 授業：近代市民社会の成立 歴史的経緯と「市民」「社会」の意味 復習：現代社会における人権侵害の事例を調べる			
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：人間にとって許されないことは何かを考えてくる 授業：人間と悪についての小論文作成 復習：自分が言葉にできなかったことをもう一度考えてみよう			
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：17 世紀のヨーロッパ史について調べてくる 授業：デカルトと理性的存在としての人間について 復習：理性とは何かを考えてみよう			
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：30 年戦争の原因と結果を説明できるようにしておく 授業：17 世紀ヨーロッパの哲学について パスカールについて 復習：人間の弱さと強さについて考える			
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：17 世紀のイギリスのことを調べておく 授業：イギリスの経験論 思考の方法 復習：授業内で学んだ概念を原語と日本語訳を覚え、活用できるようにしておくこと			
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：「啓蒙」という漢字の意味を調べておくこと 授業：啓蒙主義 ①「百科全書派」とヴォルテール 復習：「リスボン大地震」について調べてみよう			
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：権力と啓蒙について考えておく 授業：啓蒙主義 ② 啓蒙専制君主について 復習：ルソーの思想についてまとめる			
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：人間の定義と自分の違いについて考えてみる 授業：18 世紀から 19 世紀の思想 自由と平等を中心に			

		復習：ジェンダーという概念を正しく理解しておこう						
12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：「女性」の権利について調べておこう 授業：「人間と女性」について 復習：「人間」＝女性なのか、ということを考えてみる						
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：日本の社会について考えておこう 授業：現代の人間観 ①ジェンダー概念について 復習：自分と全く異なった人間観を持つ人たちがどうやって向き合うかを考える						
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：マイノリティという言葉について調べておく 授業：現代の人間観 ②「性的マイノリティ」について 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく						
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：これまでのノート及び資料の味読をしておく 授業：授業内容確認レポートもしくはテスト形式での質問（授業内でレポート作成）返却 動画視聴あるいは資料の読解とミニレポート作成 復習：授業内容について不十分なところを補っておく * 学生の知識レベル興味関心理解度に応じて内容と講義の日程を変更する可能性がある。						
授業開始前学習		ルネサンス以降の西洋の歴史について概略を学んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。						
テキスト・教材		GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。						
参考書		授業概要のレジメやスライドで指示						
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×4＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポート						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		
関連科目	哲学／人間と思想 I							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00650
科目名称	生命の科学			単位数	2.0 単位
英文名称	Life Science			授業区分	講義
科目責任者	鞠子 典子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鞠子 典子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	生命は環境の中から偶然に生まれ、今日まで生物は環境と深く関りながら進化を繰り返してきました。その結果、DNA による巧妙な遺伝のしくみ、バクテリアから人間までの多様な生物世界、人間の複雑極まりない脳神経系がつけられてきました。ところが、人間の脳は DNA やゲノムを編集する技術を開発するまで高度に発達し、その結果、遺伝子改変や生殖医療などの問題を引き起こすようになりました。私たちはそうした時代に生きており、皆さん一人ひとりが生命倫理に関わる様々な選択が求められているのです。こうした認識のもとに、この授業では、様々な視点から生物や生命について取り上げ、最新的话题を紹介していきます。後半の授業では、女性に特有な問題を切り抜いて、様々なテーマで講義していきます。授業は、PwP を使用し、画像や動画を取り入れながら、分かり易い言葉で進めていきます。				
到達目標	生命とは何かを生物学的に学び、生命の科学に関する科学リテラシーの向上を目指し、生命の操作に関する諸問題について自分の意見をもてるようになること。またヒトや女性について生物学的に理解し、自分の生き方に自信と責任をもてるようになること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鞠子 典子	【第 1 回】 授業：なぜ今、生命科学なのか（ガイダンス） 予習：「生命」に関する話題についてネットで検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
2	鞠子 典子	【第 2 回】 授業：生物と無生物の違いは何か 予習：「生命の条件」について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
3	鞠子 典子	【第 3 回】 授業：DNA の遺伝情報が生命現象を支配するたんぱく質に置き換えられる流れ 予習：今回のキーワードである「セントラルドグマ」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
4	鞠子 典子	【第 4 回】 授業：同じ遺伝子をもつはずの双子の指紋が違うのはなぜ？ 予習：今回のキーワードである「エピジェネティクス」について調べおこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
5	鞠子 典子	【第 5 回】 授業：ウイルスがもたらした生物の根源的進化とは何か 予習：今回のキーワードである「レトロウイルス」について調べおこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
6	鞠子 典子	【第 6 回】 授業：遺伝子組み換え大豆を使った納豆をあなたは食べますか？ 予習：「GM 作物・食品」の利用の是非について家族や身近な人に尋ねてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
7	鞠子 典子	【第 7 回】 授業：童話『人魚姫』は現実のものになるのか！？ 予習：「ゲノム編集技術」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
8	鞠子 典子	【第 8 回】 授業：科学と倫理の狭間で ～いのちを操作する技術の利用～ 予習：「生命倫理」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
9	鞠子 典子	【第 9 回】 授業：ヒトの誕生から死まで ～誕生・成長・生殖・老化・死～ 予習：生物学的なヒトの一生について、受精から死までまとめてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			

10	鞠子 典子	【第 10 回】 授業：女性のための生命科学 ～知ってほしい子宮頸がんワクチンの話～ 予習：「子宮頸がんワクチン」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
11	鞠子 典子	【第 11 回】 授業：女性のための生命科学 ～知ってほしいピルのはなし～ 予習：「低用量ピル」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
12	鞠子 典子	【第 12 回】 授業：女性のための生命科学 ～知ってほしいダイエットの話～ 予習：厚生労働省の HP に掲載されている「低出生体重児保健指導マニュアル」に目を通しておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
13	鞠子 典子	【第 13 回】 授業：女性のための生命科学 ～染色体が教えてくれる子どもの未来～ 予習：「出生前診断」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
14	鞠子 典子	【第 14 回】 授業：あなたの一番関心のある「生命の科学」に関する疑問にお答えします！ 予習：「生命の科学」に関する話題にアンテナを張ろう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
15	鞠子 典子	【第 15 回】 授業：生命の科学 総括と試験範囲の説明 予習：「生命の科学」で学んだことを復習し、生命の科学リテラシーの必要性について自分の意見をまとめる 復習：試験に向けた勉強をする						
授業開始前学習		常日頃から、授業と関連する話題に強い関心をもってニュースや新聞記事と接すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		ワンポイントで復習できる課題の講評及び解答は講義内で行います。						
テキスト・教材		教科書は指定せず、資料を配布します。						
参考書		「生命科学の静かなる革命」福岡伸一著(インターナショナル新書) 「好きになる人間生物学」吉田邦久著（講談社サイエンティフィク） この他、講義の中で適宜書籍を紹介します。						
評価の基準と方法		試験 7 0 %, 平常点（授業に臨む姿勢・提出物） 3 0 %						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他		授業の理解度などを勘案し、授業テーマの順序や内容を多少変更することがあります。 講義で分からないことがある場合は、そのままにせず、いつでも質問してください。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00660
科目名称	倫理学	単位数	2.0 単位	授業区分	講義
英文名称	Ethics	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1 年
科目責任者	鈴木 由加里	研究室	-		
担当教員	鈴木 由加里				
オフィスアワー	-				
授業概要	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。現代社会に生きる個々人が直面する倫理的な判断をしなければならぬ具体的な諸問題を紹介し、それぞれに対して論議できるようになることを目的としたい。				
到達目標	平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、現実的な問題について議論できるようになることが到達目標。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：倫理学を学ぶにあたって。レポートの書き方や単位取得条件及び勉強の仕方について説明する。 論述課題を実施 復習：配布したレジメを読む			
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：配布した資料を読む 授業：倫理学の課題 復習：問題群を確認			
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：配付資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史 ①古代ギリシア 復習：倫理学の歴史について知識を確認する			
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：配布資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史 ②近代 復習：倫理学の歴史についての知識を確認する			
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：自由の価値について自分の考えをまとめる 授業：自由について① J・S・ミルの『自由論』を読む 復習：ミルとハリエット・テイラーについて確認する			
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：ミル自由主義の問題点を確認する 授業：自由について② 復習：自由が批判されるケースの確認			
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：功利主義という言葉の意味を調べる 授業：功利主義について 復習：功利主義と倫理の関係について確認			
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：19 世紀以降の歴史を確認してくる 授業：倫理学の現代的展開 科学と倫理 復習：科学の中立性について考える			
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：技術なしの生活を考える 授業：科学技術と倫理 復習：科学技術の問題点を確認			
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：医療に対する不満を考えてくる 授業：医療と倫理① 医療の課題 復習：医療における課題の具体像を確認			
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：終末期に何をしたいか考える 授業：医療と倫理② 人間の尊厳について			

		復習：尊厳ある死について確認						
12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：日本における法的な自由の定義を調べる 授業：再び自由の問題について 復習：自由の価値について確認する						
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：意見の対立についての具体的なケースを考えてくる 授業：相対主義という問題 復習：倫理的に生きることについて考察する						
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業 補足 授業内容確認小テスト（授業内答案作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく						
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業：授業内容確認小テスト（ノート レジメ 持ち込み可）返却予定 動画資料の視聴とミニレポート作成 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく						
授業開始前学習		この授業では、課題の提出などで GWE(Google Workspace for Education)を使用する可能性がある。使用法を各自学習しておくこと。基本的なパソコンの操作を学んでおくこと。Web の閲覧、ファイルの種類の違いや、ワープロソフトの使用法、メールの送受信など基本的な操作ができるようにしておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。「クラスプロフィール」の使い方を確認しておくこと。 生成 AI による文章作成は認めない。自分の考察を論述したものをレポートとして						
テキスト・教材		授業概要についてのレジメと資料を授業項目ごとに配布。参考文献や必要な資料は授業時に配布もしくはデジタル版へのリンクを指示する。						
参考書		各テーマごとにレジメで指示。ブックリスト配布を配布するので、図書館などを利用し、より多くの参考文献に目を通して欲しい。						
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×4＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポート						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		
関連科目	特になし							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11 （J）	授業コード	F00691
科目名称		☆心理学				単位数	2.0 単位
英文名称		Psychology				授業区分	講義
科目責任者		田口 香代子				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		田口 香代子				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。「心理学」では主に認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。はじめに人は外界からどのように情報を得ているのか（第 2 回）、情報はどのように整理されるのか（第 3 回）、人の行動の成り立ちについて学ぶ（第 4 回、5 回）。次に乳幼児から高齢期までの心身の成長や変化の特徴（第 6 回、9-10 回）及び発達障害（第 7 回、8 回）について学ぶ。その後、人の個性や特徴の捉え方について学び（第 11-13 回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。その他、第 14 回では心理療法の 1 つである「認知行動療法」について学ぶ。					
到達目標		心理学の基本的な知識を習得することを目標とする。また、人の心や行動について心理学的観点から理解し、説明することができるようになる。					
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	田口 香代子	【第 1 回】 予習： 授業スケジュールを確認しておく 授業： ガイダンス、心理学とは（第 1 章）※pp.8-20「心理学の歴史」を除く 復習： ガイダンスの振り返り、キーワードの確認					
2	田口 香代子	【第 2 回】 予習： テキスト pp.169-170 及び pp.187-188 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 感覚と知覚 －人は外界からどのように情報を得ているのか－（第 10 章、第 11 章） 復習： キーワードの確認					
3	田口 香代子	【第 3 回】 予習： テキスト pp.205-206 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 記憶のメカニズム －過去の経験を保持する仕組み－（第 12 章） 復習： キーワードの確認					
4	田口 香代子	【第 4 回】 予習： テキスト p.221 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 学習と言語 －新しい行動の学習と言語の獲得－（第 13 章） 復習： キーワードの確認					
5	田口 香代子	【第 5 回】 予習： テキスト p.87 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 動機づけと情動 －何が人を動かすのか－（第 5 章） 復習： キーワードの確認					
6	田口 香代子	【第 6 回】 予習： テキスト p.51 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 心の発達 －乳幼児期の心理－（第 3 章）※pp.67-68「発達障害とその支援」を除く 復習： キーワードの確認					
7	田口 香代子	【第 7 回】 予習： 注意欠如・多動症、限局性学習症について調べておく 授業： 発達障害の理解と支援 1：注意欠如・多動症、限局性学習症（第 3 章の pp.67-68） 復習： キーワードの確認					
8	田口 香代子	【第 8 回】 予習： 自閉スペクトラム症について調べておく 授業： 発達障害の理解と支援 2：自閉スペクトラム症（第 3 章の pp.67-68） 復習： キーワードの確認					
9	田口 香代子	【第 9 回】 予習： テキスト p.72「人間は一生発達する」、p.80「ケース 2」を読んでおく 授業： 児童期・青年期の心理（第 4 章の pp.71-81） 復習： キーワードの確認					
10	田口 香代子	【第 10 回】 予習： テキスト p.84「本章のサマリー」を読んでおく 授業： 成人期・高齢期の心理（第 4 章の pp.81-84）					

		復習： キーワードの確認						
11	田口 香代子	【第 11 回】 予習： テキスト p.120「本章のサマリー」を読んでおく 授業： パーソナリティの理解と測定 1： 質問紙法（第 6 章の pp.106-107、 pp.112-113） 復習： キーワードの確認						
12	田口 香代子	【第 12 回】 予習： テキスト p.105 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： パーソナリティの理解と測定 2： 投射法（第 6 章の p.111-112「投射法で性格をはかる」） 復習： キーワードの確認						
13	田口 香代子	【第 13 回】 予習： テキスト p.119「健康な性格とは何だろうか」を読んでおく 授業： パーソナリティの理論（第 6 章の pp.106-107、 pp.113-120） 復習： キーワードの確認						
14	田口 香代子	【第 14 回】 予習： テキスト pp.156-159「ベックと認知療法」を読んでおく 授業： 認知行動療法（資料配付） 復習： キーワードの確認						
15	田口 香代子	【第 15 回】 予習： これまで学んだ内容を復習しておく 授業： キーワードの確認 復習： 配付資料の振り返り						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業の最後にリアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、次の授業で数名分を紹介し、全体に向けてコメントを返します。						
テキスト・教材		・テキスト： 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 著『はじめて出会う心理学 第 3 版』2020 年発行（有斐閣） ・テキストの他に適宜資料を配布します						
参考書								
評価の基準と方法		レポート 70%、授業態度及びリアクションペーパーの提出 30%を基準とし、総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他		・人の心や行動に関心を持ち、積極的な姿勢で受講することを期待します。 ・必要に応じて授業計画の一部を変更して講義を行うことがあります。 ・【2024 年度以前入学者】心理学 I -a（前期）と心理学 II（後期）を履修することにより、心理学について、より広く学ぶ構成となっている。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		心理臨床に関わる講義内容については、教育機関、医療機関における実務経験を活かし、講義を行う。						

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11	授業コード	F00692
科目名称		☆心理学				単位数	2.0 単位
英文名称		Psychology				授業区分	講義
科目責任者		朴 建映				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		朴 建映				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		心理学は、さまざまな科学的方法を駆使して、心についての研究を行う学問である。この授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。主に、認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。					
到達目標		この授業では、主に人間の発達について学び、赤ちゃんがさまざまな経験を通して心身ともに発達し大人になっていく過程を理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。受講者は子どもの発達において大切なことは何であるか、自分の意見を述べるができるようになることが求められる。また、心の働きを知ることを通して、自分自身のストレスやメンタルヘルスについて考える。					
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	朴 建映	【第 1 回】 予習：シラバス及び Classroom の資料 1 を確認する 授業：心理学とは（ガイダンス） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、心理学について自分の考えや意見を整理する					
2	朴 建映	【第 2 回】 予習：Classroom の資料 2 を確認する 授業：感覚 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、様々な感覚の働きについて整理する					
3	朴 建映	【第 3 回】 予習：Classroom の資料 3 を確認する 授業：知覚 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、知覚とその恒常性について理解する					
4	朴 建映	【第 4 回】 予習：Classroom の資料 4 を確認する 授業：学習 1（古典的条件づけを中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、古典的条件づけについて整理する					
5	朴 建映	【第 5 回】 予習：Classroom の資料 5 を確認する 授業：学習 2（オペラント条件づけを中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、オペラント条件づけについて整理する					
6	朴 建映	【第 6 回】 予習：Classroom の資料 6 を確認する 授業：心の発達 1（新生児期の特徴を中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、人間の赤ちゃんの特徴について考える					
7	朴 建映	【第 7 回】 予習：Classroom の資料 7 を確認する 授業：心の発達 2（乳幼児期の特徴を中心に） 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、乳幼児期の発達について確認し、身近な子どもを観察する					
8	朴 建映	【第 8 回】 予習：Classroom の資料 8 を確認する 授業：愛着 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、愛着の重要性について確認する					
9	朴 建映	【第 9 回】 予習：Classroom の資料 9 を確認する 授業：発達障害とその支援 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、発達障害にはどのような種類があるのか整理する					
10	朴 建映	【第 10 回】 予習：Classroom の資料 10 を確認する 授業：ライフサイクル 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、ライフサイクルについて理解する					

11	朴 建映	【第 11 回】 予習：Classroom の資料 11 を確認する 授業：性格とその測定 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、それぞれの性格の違いについて考える						
12	朴 建映	【第 12 回】 予習：Classroom の資料 12 を確認する 授業：知能 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、知能についての疑問点を整理する						
13	朴 建映	【第 13 回】 予習：Classroom の資料 13 を確認する 授業：ストレスとメンタルヘルス 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、日常生活におけるストレスについて考える						
14	朴 建映	【第 14 回】 予習：Classroom の資料 14 を確認する 授業：カウンセリングと心理療法 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、認知行動療法やクライエント中心療法について調べてみる						
15	朴 建映	【第 15 回】 予習：1 回～14 回の授業で扱った内容について、教科書と Classroom の資料で復習する 授業：前期の授業を通してどんなことを学んできたのかふりかえる 復習：理解が十分でない部分について確認し、興味がある内容についてはさらに調べてみる						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関してはフィードバック課題を提出してもらい、次の授業の最初に質問への回答や興味深い意見の紹介を行う。						
テキスト・教材		長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著『はじめて出会う心理学 第 3 版』有斐閣アルマ この他に、Classroom の資料を参照						
参考書								
評価の基準と方法		フィードバック課題（45 点）、学期末レポート(55 点)をもとに総合的に評価する						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）		100-121-11	授業コード	F00710
科目名称		生涯学習論 I				単位数	2.0 単位
英文名称		Life-Long Education Studies I				授業区分	講義
科目責任者		氏家 祥美				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		氏家 祥美				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		この授業では、すべての発達段階の人を対象とする、すそ野の広い学び「生涯学習」について学習する。生涯学習の基礎理論、現在に至るまでの歴史的背景、関連する法律、多様な学びのスタイルや学びのリソース、講座設計の基本について学んでいく。					
到達目標		本授業では、生涯学習の意義や目的を学ぶとともに、歴史的背景、目的に合わせた生涯学習スタイルや講座設計の仕方などを幅広く学習する。授業は、学んだことや気づいたことを記録する時間、生涯学習社会の実現についてディスカッションする時間を多く持ち、知識のインプットと学び合いの時間としていく。生涯学習について学びながら、生涯にわたって主体的に「学修」する力を身につけていく。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	氏家 祥美	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通し、授業に対する疑問点をまとめておく 授業：ガイダンス 大学での学びと生涯学習 復習：自身にとって生涯学習の学びがどう役立てるか、目的や課題を考察する					
2	氏家 祥美	【第 2 回】 予習：生涯学習と社会教育の違いについて、自分なりに調べてくる 授業：生涯学習と社会教育 復習：生涯学習と社会教育の意味、共通点、違いについて整理する					
3	氏家 祥美	【第 3 回】 予習：戦前の社会教育について自分なりに調べる 授業：生涯学習と社会教育の歴史 復習：生涯学習の発達過程や歴史的反省を振り返る					
4	氏家 祥美	【第 4 回】 予習：ユネスコ、OECD について調べる 授業：生涯教育論 復習：リカレント教育、リスキリングについて最近の動向を調べる					
5	氏家 祥美	【第 5 回】 予習：生涯学習と学校教育の違いについて調べる 授業：生涯学習と学校教育 復習：生涯学習と学校教育の領域の違いや傾向を身近なケースで考察する					
6	氏家 祥美	【第 6 回】 予習：生涯学習施設の講座情報を対象者、学習スタイルに注目して調べる 授業：生涯学習の方法と内容①（討論、パネルディスカッション、ワークショップ、独習、通信教育など） 復習：それぞれの学習方法の違いや使い分けについて整理する					
7	氏家 祥美	【第 7 回】 予習：ファシリテーションについて調べる 授業：生涯学習の方法と内容②ファシリテーション 復習：ファシリテーションのコツを振り返り、日常に活用する					
8	氏家 祥美	【第 8 回】 予習：生涯学習施設の講座の年間計画を調べる 授業：生涯学習と社会教育の計画。計画、実施、評価、改善 復習：生涯学習推進計画の流れを理解する					
9	氏家 祥美	【第 9 回】 予習：講座チラシを探して複数比較する 授業：学習プログラムの編成 復習：学習プログラム作成の流れと型を知る					
10	氏家 祥美	【第 10 回】 予習：大学の公開講座を複数調べて比較する 授業：生涯学習関連行政の仕組み 復習：国、都道府県、市区町村の役割、社会教育関連団体について整理する					

11	氏家 祥美	【第 11 回】 予習 : 生涯学習と社会教育について整理する 授業 : 生涯学習と社会教育職員 復習 : 社会教育主事制度、社会教育士について整理する						
12	氏家 祥美	【第 12 回】 予習 : 図書館や博物館に足を運んで新たな気づきを探す 授業 : 生涯学習と社会教育施設 復習 : 生涯学習における公民館、図書館、博物館の役割や課題を知る						
13	氏家 祥美	【第 13 回】 予習 : 青少年教育と成人教育の違いを考察する 授業 : 青少年教育と成人教育 (ベタゴジー、アンドラゴジー) 復習 : 青少年教育と成人教育の特徴や課題を整理する						
14	氏家 祥美	【第 14 回】 予習 : 女性教育に必要な要素や課題を考える 授業 : 高齢者教育と女性教育 復習 : 少子高齢化社会における高齢者教育、女性教育の意義と課題を考察する						
15	氏家 祥美	【第 15 回】 予習 : 生涯学習についての学習を振り返り、疑問点や感動をまとめておく 授業 : 生涯学習と社会教育をめぐる課題 復習 : 生涯学習についての学びを振り返る						
授業開始前学習		・生涯学習とは何か。社会教育、リカレント教育、リスクリングとの違いなどに注目して、自分なりに調べておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて、適宜、講評する）。						
テキスト・教材		佐藤晴雄著『生涯学習概論』第 3 次改訂版 学陽書房						
参考書								
評価の基準と方法		講義毎の小レポート（60%），最終レポート（40%）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	学芸員養成課程と教職課程に位置づく本科目は、他の博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習の意義・目的、生涯学習社会の理念を踏まえた学びが展開される科目との有機的関連性は高い。							
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること 学習ツールの活用や対話を通じて、日常生活の中から湧き出た疑問を解決するクセをつけること							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	お金やキャリア教育の専門家として大学のエクステンションセンターや、東京都や市区町村などが主催する講座で豊富な講師経験がある。講座の企画者、受講生とのコミュニケーション経験から、近年の実情に即した話題を提供できる。							

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）	100-121-11	授業コード	F00720		
科目名称	生涯学習論Ⅱ			単位数	2.0 単位		
英文名称	Life-Long Education StudiesⅡ			授業区分	講義		
科目責任者	山本 双葉			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	山本 双葉			開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 曜日～ 曜日～ 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00			研究室	16-305		
授業概要	本授業では、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、グループで課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発し実践する（グループによる課題解決型学習とプレゼンテーション）。 特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした講義では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学び、学習成果の評価や振り返り方法についても学ぶ。						
到達目標	本授業では、生涯学習に関する法制度や行政の振興政策を学びながら、生涯学習支援者としての役割を自覚することを目指す。具体的な到達目標として、以下の 4 点を挙げる。 1. 生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）に関する知識を修得することができる 2. 生涯学習を支える施設や職員の役割に関する知識を修得することができる 3. 生涯学習における青少年教育の重要性を理解することができる 4. 生涯学習プログラムの開発を通して、生涯学習支援者としての役割を自覚することができる						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	山本 双葉	【第 1 回】 予習：「生涯学習論Ⅰ」を振り返り、疑問点をノートにまとめる 授業：人生 100 年時代における生涯学習の意義や目的とは（ライフサイクル、生涯設計） 復習：生涯学習が今の時代になぜ必要なのか自分の言葉でまとめる					
2	山本 双葉	【第 2 回】 予習：生涯学習、リカレント教育、リスキリングの違いを調べておく 授業：生涯学習における学習の特性と方法を俯瞰する 復習：生涯学習の学びの種類、学習方法を整理する					
3	山本 双葉	【第 3 回】 予習：興味を持ってそうな講演会やワークショップの情報を探してみる 授業：生涯学習における多様な学習方法を学ぶ①（講演会、討論、ワークショップ） 復習：講演会やワークショップの告知情報を参加者目線、主催者目線で分析する					
4	山本 双葉	【第 4 回】 予習：オンライン講座と対面講座のメリット・デメリットを考える 授業：生涯学習における多様な学習方法を学ぶ②（オンライン、メディア活用など、学びの多様化） 復習：時間や場所を選ばずに学習できるオンライン講座、通信講座の情報を集めてみる					
5	山本 双葉	【第 5 回】 予習：社会教育主事について調べる 授業：日本の法律と社会教育行政（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、生涯学習振興法） 復習：生涯学習にかかわる法律について整理する					
6	山本 双葉	【第 6 回】 予習：公民館の活動情報を調べる 授業：生涯学習施設の種類と詳細①公民館、生涯学習センター 復習：公民館や生涯学習センター主催の講座情報を主催者目線で読み解く					
7	山本 双葉	【第 7 回】 予習：興味のある博物館について調べる 授業：生涯学習施設の種類と詳細②図書館、博物館 復習：図書館や博物館について調べ、足を運んでみる					
8	山本 双葉	【第 8 回】 予習：女性教育施設（女性センター）での講座や活動を調べて、気づいたことや疑問点をまとめる 授業：生涯学習施設の種類と詳細③青少年教育施設、女性教育施設、体育施設 復習：地域にどのような施設があるのか調べる					
9	山本 双葉	【第 9 回】 予習：職業訓練について調べ、疑問点をまとめておく 授業：公的な職業能力開発（雇用保険、ハローワークの役割、職業訓練など） 復習：最寄りのハローワークや、ハローワークのウェブサイトでの職業訓練について調べる					

10	山本 双葉	【第 10 回】 予習：大学の公開講座を調べて、気づいたことや疑問点をまとめる 授業：大学、大学院と生涯学習（公開講座、大学院、放送大学など） 復習：大学の公開講座を複数比較して、その特徴や気づきをまとめる						
11	山本 双葉	【第 11 回】 予習：生涯学習と社会教育について整理する 授業：生涯学習に関わる人的資源（社会教育主事、社会教育士、司書、学芸員、専門職員、ボランティア） 復習：生涯学習に関わる資格や仕事の中で、興味を持ったものについて調べてまとめる						
12	山本 双葉	【第 12 回】 予習：教育訓練給付金の概要を調べて、疑問点をまとめる 授業：生涯学習に関わる経済的支援（教育訓練給付金、助成金、企業の制度ほか） 復習：生涯学習を始めたい人、生涯学習の場づくりをしたい人目線で、利用できる制度をまとめる						
13	山本 双葉	【第 13 回】 予習：生涯学習プログラムの構想を練っておく 授業：生涯学習プログラムを開発する①プログラムの構成、制度（グループワーク） 復習：生涯学習プログラムの詳細を考える						
14	山本 双葉	【第 14 回】 予習：生涯学習講座の募集チラシなどから、集客のヒントを集める 授業：生涯学習プログラムを開発する②プログラムの告知、宣伝、集客（グループワーク） 復習：生涯学習プログラムの告知文を考える						
15	山本 双葉	【第 15 回】 予習：生涯学習についての学習を振り返り、疑問点や感動をまとめる 授業：作成した生涯学習プログラムを発表する（グループワーク） 復習：発表を振り返り、生涯学習プログラムをブラッシュアップする						
授業開始前学習		前期に「生涯学習論Ⅰ」を履修した者は、「生涯学習論Ⅰ」の学習内容を振り返る 自身の興味・関心の高い事柄について調べる						
授業内課題のフィードバックの方法		・生涯学習プログラム（事業計画）作成を課す（講義内にて適宜講評する）。 ・講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて適宜講評する）。						
テキスト・教材		授業内で適宜資料を配布する。						
参考書		関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫著『新しい時代の生涯学習』（有斐閣アルマ） 香川正弘・鈴木真理・佐々木英和編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房）						
評価の基準と方法		講義毎の小レポート（50%），生涯学習プログラム（50%）						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		
関連科目	本科目は、博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習を支える制度や生涯学習プログラム作成による学びは、「教育制度」や「生徒指導（進路指導）」等の科目との有機的関連性が高い。							
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること。 日常生活の中から湧き出た疑問に着目するクセをつけること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）		100-120-11		授業コード		F00750			
科目名称		☆日本の文化と歴史							単位数		2.0 単位		
英文名称		Japanese Culture and History							授業区分		講義		
科目責任者		市川 理恵							必修・選択		履修ガイド参照		
担当教員		市川 理恵							開講時期		1 年		
オフィスアワー		-							研究室		-		
授業概要		日本の古代から近世までの各時代の政治・社会・経済が、文化の形成にどのような影響を与えたのかを探る。歴史書や日記、絵画、彫刻、建築など具体的な文化遺産を提示し、日本文化そのものへの理解を深める。											
到達目標		歴史的なものの見方を身に着け、現代社会における諸問題を考察できるようになる。日本の文化がどのような歴史的背景のもとに成立したかを理解できるようになる。多様な視角・視点から「文化」を捉えられるようになる。											
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容										
1	市川 理恵		【第 1 回】 予習：大森貝塚について調べる 授業：縄文時代の文化と歴史 復習：教科書の「縄文時代の文化と歴史」を復習する										
2	市川 理恵		【第 2 回】 予習：板付遺跡について調べる 授業：弥生時代の文化と歴史 復習：教科書の「弥生時代の文化と歴史」を復習する										
3	市川 理恵		【第 3 回】 予習：大仙陵古墳について調べる 授業：古墳時代の文化と歴史 復習：教科書の「古墳時代の文化と歴史」を復習する										
4	市川 理恵		【第 4 回】 予習：法隆寺について調べる 授業：飛鳥時代の文化と歴史 復習：教科書の「飛鳥時代の文化と歴史」を復習する										
5	市川 理恵		【第 5 回】 予習：東大寺について調べる 授業：奈良時代の文化と歴史 復習：教科書の「奈良時代の文化と歴史」を復習する										
6	市川 理恵		【第 6 回】 予習：平等院について調べる 授業：平安時代の文化と歴史 復習：教科書の「平安時代の文化と歴史」を復習する										
7	市川 理恵		【第 7 回】 予習：鶴岡八幡宮について調べる 授業：鎌倉時代の文化と歴史 復習：教科書の「鎌倉時代の文化と歴史」を復習する										
8	市川 理恵		【第 8 回】 予習：金閣寺について調べる 授業：南北朝時代の文化と歴史 復習：教科書の「南北朝時代の文化と歴史」を復習する										
9	市川 理恵		【第 9 回】 予習：天龍寺について調べる 授業：室町時代の文化と歴史 復習：教科書の「室町時代の文化と歴史」を復習する										
10	市川 理恵		【第 10 回】 予習：安土城について調べる 授業：戦国時代の文化と歴史 復習：教科書の「戦国時代の文化と歴史」を復習する										
11	市川 理恵		【第 11 回】 予習：大阪城について調べる 授業：安土桃山時代の文化と歴史										

		復習：教科書の「安土桃山時代の文化と歴史」を調べる						
12	市川 理恵	【第12回】 予習：日光東照宮について調べる 授業：江戸時代初期の文化と歴史 復習：教科書の「江戸時代初期の文化と歴史」を復習する						
13	市川 理恵	【第13回】 予習：桂離宮について調べる 授業：江戸時代中期の文化と歴史 復習：教科書の「江戸時代中期の文化と歴史」を復習する						
14	市川 理恵	【第14回】 予習：浅草寺について調べる 授業：江戸時代後期の文化と歴史 復習：教科書の「江戸時代後期の文化と歴史」について調べる						
15	市川 理恵	【第15回】 予習：教科書を一通り復習する 授業：日本の文化と歴史の総括 復習：日本の文化について時代ごとにまとめる						
授業開始前学習		縄文時代から江戸時代までの歴史を学習しておくとう理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121		科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F00760
科目名称		☆世界の文化と歴史				単位数	2.0 単位
英文名称		World Culture and History				授業区分	講義
科目責任者		山本 興一郎				必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		山本 興一郎				開講時期	1 年
オフィスアワー		-				研究室	-
授業概要		本講義のテーマは、古代地中海世界からフランス革命前夜までのヨーロッパにおける、人々の政治参加に関わる文化や概念・諸制度について学ぶことです。（近代以降の日本を含む）近現代の人々が参照し、更には影響を受けることとなる概念・諸制度揺籃の地であるヨーロッパにおいて、当時の人々がどのようにそれらを獲得し或いはある者を対象から排除したのか、またどのように認識し、運用していたのか。これらの疑問を考えることにより、本講義は受講生自身が持っている或いは利用している、権利概念や諸制度について、改めて考える機会を提供していきます。					
到達目標		人々の政治参加や諸制度をめぐる世界の歴史を正確に理解し、それらに関して自分の考えを述べるができるようになる。また、同じ名称の概念・用語・制度であっても、時代・場所・状況により相違点があることに気づき、その意味を理解することで、歴史的事実・認識に対する自身の考えを、多角的視点を踏まえたうえで表明できるようにすることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	山本 興一郎	【第 1 回】 予習：高等学校で使用した世界史・世界史探求の教科書を熟読しておくこと 授業：【地中海世界・ヨーロッパ世界とは】この授業の前提になる知識を学びます。また、次回以降の授業実施方法および評価方法を説明します。 復習：課題を中心に復習を行うことで、「前近代の歴史」に関して大枠の理解を深める					
2	山本 興一郎	【第 2 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 1】古代ギリシアのポリス社会と古代西アジア諸文明の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、古代のギリシアと西アジア諸文明の関係性に関して理解を深める					
3	山本 興一郎	【第 3 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 2】：共和政ローマの成立と国制について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、政治参加とローマ市民権に関して理解を深めること					
4	山本 興一郎	【第 4 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 3】：古代地中海世界の代表的勢力の特徴とローマの地中海世界への拡大について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、諸勢力とローマ支配のあり方に関して理解を深めること					
5	山本 興一郎	【第 5 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 4】：ローマの内乱と帝政の成立について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、帝政の成立に関して理解を深めること					
6	山本 興一郎	【第 6 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 5】：帝政ローマの展開と「市民」の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、帝政と市民権の位置づけに関して理解を深めること					
7	山本 興一郎	【第 7 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代末期の展開】：古代と中世の断絶ではない、「古代末期」世界について概要を学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、後期帝政と市民権の位置づけ、そして一神教の発展に関して理解を深めること					
8	山本 興一郎	【第 8 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 1】：中世前期の概要について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、ポスト・ローマ世界に関して理解を深めること					
9	山本 興一郎	【第 9 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 2】：中世ヨーロッパ世界の前提となる聖俗の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、古代とは異なる中世の政治参加に関して理解を深めること					

10	山本 興一郎	【第 10 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 3】：中世を特徴づける封建社会と貴族・騎士について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、封建社会とそこに生きる貴族・騎士という存在に関して理解を深めること							
11	山本 興一郎	【第 11 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 4】：封建社会における都市の重要性について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、王権と都市の関係に関して理解を深めること							
12	山本 興一郎	【第 12 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 1】：近世初期の貴族の変容と教会大分裂の影響について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、近世の政治参加に関して理解を深めること							
13	山本 興一郎	【第 13 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 2】：危機の時代における三部会（身分制議会）の活動について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、百年戦争や宗教戦争等の危機の時代における王権・三部会の関係に関して理解を深めること							
14	山本 興一郎	【第 14 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 3】：近世社会の王権と社団の関係と「主権論」について学びます。また【レポート課題】を提示します 復習：課題を中心に復習を行うことで、主権論に基づく絶対王政と社団の関係性に関して理解を深めること							
15	山本 興一郎	【第 15 回】 予習：【第 1 回】から【第 14 回】までの授業を復習しておくこと 授業：【ヨーロッパ世界の特徴と近現代の胎動】 復習：配布資料を熟読しておくこと							
授業開始前学習		高等学校で使用した世界史・世界史探求の教科書や便覧・用語集等で、本シラバスの「授業の内容」で示した範囲を熟読しておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法		小課題については、提出締切日の 1,2 週間後を目途に採点結果と適宜総評を Google Classroom 登録メールアドレスへ送信します。 課題・総評提示日等は、授業形態・学習状況により日程を変更する可能性があります。変更する場合は事前に受講者に伝達いたします。							
テキスト・教材		適宜資料を事前配布します。							
参考書		服部良久・南川高志・山辺規子（編著）（2007）『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房。 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦（編著）（2011）『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房。 池上俊一著（2021）『ヨーロッパ史入門―原型から近代への胎動』岩波ジュニア文庫。 池上俊一著（2022）『ヨーロッパ史入門―市民革命から現代へ』岩波ジュニア文庫。							
評価の基準と方法		レポート課題の成績 50%と平常点 50%（平常点は、適宜実施する小課題の点数で評価する）							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				
関連科目									
その他		受講者数により授業の予定を変更することもあります。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）	100-121-11 （J）	授業コード	F00800		
科目名称	日本美術史			単位数	2.0 単位		
英文名称	Japanese Art History			授業区分	講義		
科目責任者	遠山 元浩			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	遠山 元浩			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	日本に於ける美術の流れを追えば、日本という文化の独自性が見えてくる。信仰や各種儀式から生まれた美、装飾性の多様さ、建築や工芸に見るデザインなど、日本人としての意識を、代表的な日本美術の作品を用いて解説しつつ、日本美術を紐解いていく。						
到達目標	まず、日本美術の変遷を時代ごとに理解する。そして、時代ごとに取り上げた美術品の分野、形態、その特徴や技法などを己の知識として身につける。併せて解説に使用した作品の意味や本質を理解する。日本美術の基礎を理解した上で、自分の中にある「日本の美」とは何なのか？を、導き出す事ができるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	遠山 元浩	【第 1 回】 予習：関心がある日本美術とは何か考察する。 授業：ガイダンス 日本美術とは 復習：日本美術にどのような特徴が顕著かまとめる。					
2	遠山 元浩	【第 2 回】 予習：美術の種類にはどんなものがあるのか確認する。 授業：美術品の分類と文化財 復習：美術の分類特徴をまとめる。					
3	遠山 元浩	【第 3 回】 予習：古代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：古代の美術（縄文・弥生・古墳） 復習：古代の美術の特徴をまとめる。					
4	遠山 元浩	【第 4 回】 予習：飛鳥の宗教美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：飛鳥の宗教美術（信仰と美術） 復習：飛鳥の宗教美術の特徴をまとめる。					
5	遠山 元浩	【第 5 回】 予習：仏像についてどんなものがあるのか確認する。 授業：仏像の伝来（宗教美術） 復習：宗教美術としての仏像の特徴をまとめる。					
6	遠山 元浩	【第 6 回】 予習：飛鳥から奈良の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：飛鳥から奈良時代の美術 復習：飛鳥から奈良の美術の特徴をまとめる。					
7	遠山 元浩	【第 7 回】 予習：奈良から平安の歴史についてどんなものがあるのか確認する。 授業：奈良から平安時代の美術（浄土美術） 復習：奈良から平安の美術の特徴をまとめる					
8	遠山 元浩	【第 8 回】 予習：平安から鎌倉についてどんなものがあるのか確認する。 授業：平安から鎌倉時代の美術（やまと絵） 復習：平安から鎌倉のやまと絵の特徴をまとめる					
9	遠山 元浩	【第 9 回】 予習：平安から鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：平安から鎌倉時代の美術（絵巻） 復習：平安から鎌倉時代の絵巻の特徴をまとめる。					
10	遠山 元浩	【第 10 回】 予習：鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業：鎌倉から室町時代の美術（垂迹絵画） 復習：鎌倉から室町時代の美術の特徴をまとめる。					
11	遠山 元浩	【第 11 回】 予習：中近世移行期についての歴史を確認する。 授業：中近世移行期の美術					

		復習：中近世移行期の美術の特徴を整理する。						
12	遠山 元浩	【第12回】 予習：江戸時代の歴史を確認する。 授業：技法から見る江戸時代の美術（截金・蒔絵など） 復習：江戸時代の美術技法の特徴をまとめる。						
13	遠山 元浩	【第13回】 予習：美本美術の技法についてどんなものがあるのか確認する。 授業：彫刻・工芸からみる日本美術の技術（仏像・刀・刀装具など） 復習：江戸の彫刻や工芸の特徴をまとめる。						
14	遠山 元浩	【第14回】 予習：近世から近代の歴史について確認する。 授業：江戸から明治時代の美術（浮世絵など） 復習：江戸から明治の美術の特徴をまとめる						
15	遠山 元浩	【第15回】 予習：各時代の美術の特徴についてどんなものがあるのか確認する。 授業：学びの総括 復習：日本の美術の特徴をまとめる。						
授業開始前学習		授業テキストや美術全集などとなるべく多くの日本美術作品を見ておくこと						
授業内課題のフィードバックの方法		授業中必要と思われるタイミングに質疑応答時間を設ける 随時その内容に対して研究意欲を掘り下げられるよう、参考文献や実際の史料画像などを提示する						
テキスト・教材		『日本美術史 JAPANESE ART HISTORY』(美術出版ライブラリー 歴史編) 山下裕二・高岸輝（監修）美術出版社発行 これ以外に適宜プリント資料等を配付する事もある。						
参考書		講義中に参考資料等を紹介、配付資料には参考文献等を掲載する。						
評価の基準と方法		授業の平常点（30%）、課題レポート（70%）で総合的に評価する。 課題レポートは、指定された方法のみで受け付ける。 提出方法などの詳細は、授業終盤に授業の中で提示する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	美術に関する講義、または日本史に関する講義は、日本美術史を理解する為に参考となる。							
その他	各回パワーポイントを使用しての授業となるが、授業中に用いた美術作品や史料等は、図版集などを見て毎回確認をすること。 また専門用語はその都度解説する。余裕のある時に、博物館・美術館・寺社仏閣などを訪れ、美術に接する機会を増やす努力をして欲しい。授業内容によっては必要と思われる最新史料の紹介、DVDや動画などを用いた視覚授業を実施することがあるので、予定がずれることも想定される。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	遊行寺宝物館の現役館長である。収蔵品は国宝『一遍聖絵』重要文化財『後醍醐天皇御像』など多数。専門は日本美術。特に日本仏教美術中の時宗美術と得意とする。保存担当学芸員の資格を有して文化財保護活動にも従事する。これらの経験を活かして日本美術史を紐解いて行く。							

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11 (2022 年～入学者) 100-121-11 (～ 2021 年入学者)	授業コード	F00790
科目名称	西洋文化史			単位数	2.0 単位
英文名称	History of the Occidental Culture			授業区分	講義
科目責任者	河合 恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 恵美			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ルネサンス以降の西洋文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、大國でありその発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から 20 世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究し、現代の生活文化への影響やルーツを学ぶ。				
到達目標	西洋工芸品・西洋装飾美術品の様式や特徴に関し、その歴史と背景、代表的な建築・美術・工芸について理解できるようになる。7 月に実施される西洋アンティーク鑑定検定試験協会主催「アンティーク検定試験」3 級の合格を目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	河合 恵美	【第 1 回】 予習 : シラバス全体を読み、装飾美術工芸とは何かを調べる 授業 : 美術（純粋美術）と装飾美術（応用美術）の定義、共通点と相違点について理解する 復習 : 西洋装飾美術工芸の世界を理解する			
2	河合 恵美	【第 2 回】 予習 : 教科書 P12-21 を読み、「様式とは何か」について調べておく 授業 : バロックからモダニズムまでの装飾様式の特徴を俯瞰する 復習 : 各様式の特徴について時代背景と共に理解する			
3	河合 恵美	【第 3 回】 予習 : 教科書 P24-37 を読み、西洋の家具（椅子）について調べておく 授業 : 西洋家具の成り立ち、変遷と歴史について学ぶ 復習 : 西洋家具の歴史と各時代の特徴について理解する			
4	河合 恵美	【第 4 回】 予習 : 教科書 P66-71 を読み、陶磁器について調べておく 授業 : 西洋陶磁について、陶器・磁器それぞれの誕生の歴史と特徴を学ぶ 復習 : 陶磁器の歴史や種類について理解する			
5	河合 恵美	【第 5 回】 予習 : 教科書 P110-115 を読み、ガラスについて調べておく 授業 : ヴェネツィアガラス、ボヘミアガラス、クリスタルガラスについて学ぶ 復習 : ガラスの歴史と種類、製法について理解する			
6	河合 恵美	【第 6 回】 予習 : 教科書 P140-143 および P218-219 を読み、銀器について調べておく 授業 : イギリスとフランスの銀器の刻印の読み方について学ぶ 復習 : 西洋における銀器の歴史、刻印について理解する			
7	河合 恵美	【第 7 回】 予習 : 教科書 P180-183 を読み、また宝飾品（ジュエリー）について調べておく 授業 : 貴石の種類とジュエリーの歴史について学ぶ 復習 : ジュエリーの歴史、ダイヤモンドの世界を理解する			
8	河合 恵美	【第 8 回】 予習 : モード（服飾）とジェンダーについて調べておく 授業 : 西洋モードの歴史と変遷について学ぶ 第 1 回レポート課題 復習 : 生活様式の中でのモードの歴史を理解する			
9	河合 恵美	【第 9 回】 予習 : 教科書 P19 を読みアール・ヌーヴォーについて調べておく 授業 : アール・ヌーヴォー芸術と、その工芸品について学ぶ 復習 : アール・ヌーヴォーの芸術様式を理解する			
10	河合 恵美	【第 10 回】 予習 : 教科書 P20 を読みアール・デコについて調べておく 授業 : アール・デコ様式と、その工芸品について学ぶ 第 1 回のレポート講評			

		復習 : アール・デコの芸術様式を理解する						
11	河合 恵美	【第 11 回】 予習 : 教科書 P21 を読み北欧デザインについて調べておく 授業 : ミッド・センチュリーの家具工芸品について学ぶ 第 2 回レポート 復習 : ミッド・センチュリーの家具工芸品を理解する						
12	河合 恵美	【第 12 回】 予習 : 19 世紀後半の万博について調べておく 授業 : 1851 年のロンドン博から 1900 年のパリ万博までを俯瞰する 復習 : 19 世紀後半の万博について、その意義と役割を理解する						
13	河合 恵美	【第 13 回】 予習 : 第 12 回までの授業につき復習をする 授業 : アンティーク検定対策 復習 : アンティーク検定試験に向けての総復習をする						
14	河合 恵美	【第 14 回】 予習 : テーブルウェアの歴史について調べておく 授業 : テーブルコーディネートの変遷について学ぶ 復習 : テーブルウェアの種類、テーブルコーディネートの歴史を理解する						
15	河合 恵美	【第 15 回】 予習 : 「アンティーク」とは何か、について調べておく 授業 : アンティーク、ヴィンテージ、コレクタブルなどの定義、その価値基準について学ぶ 第 2 回レポート講評 復習 : アートマーケットにおける実情を理解する						
授業開始前学習		本授業にて触れる時代・地域は 17 世紀～20 世紀のヨーロッパの生活文化史であるため、ルネサンス以降の世界史、西洋美術史の通史を読み、基本的知識を学んでおくと、授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 8 回目、11 回目に提出するレポートについては、それぞれ授業 10 回目、15 回目に講評を行う。						
テキスト・教材		「西洋骨董鑑定の教科書」 ジュディス・ミラー著 (パイ インターナショナル)						
参考書		「ヨーロッパの装飾と文様」海野弘著 (パイ インターナショナル) 「アール・ヌーヴォーの美術」岡部昌幸著 (東京美術) 「世界服飾史」深井晃子監修 (美術出版社) 「ヨーロッパの宝飾芸術」山口遼著 (東京美術) 「フランステーブルウェアの教科書」イネス・ウージェル著 (パイ インターナショナル)						
評価の基準と方法		試験期間内の定期試験は実施せず、授業内に行うアクションペーパー、授業態度に加え 2 回の課題レポート (60%) および外部検定試験「アンティーク検定試験 3 級」(40%)とする。成績は絶対評価で加点方式となる。 出席 (授業中終始寝ている場合は出席としない) が 3 分の 2 以下の場合、また出席の改ざんが発覚した場合は成績にかかわらず単位取得不可となるので注意すること。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		「西洋骨董鑑定の教科書」 : 3600 円 + 税 アンティーク検定試験 3 級 : 受験料未定 (学生割引あり) 7 月 6 日 (日) に実施予定、本受験 (任意) は、成績評価の対象となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）		GJ-M-121 SD-L-121（J）		科目分類（～2024 年入学者）		111-331-11（2022 年～入学者）（J） 111-331-12（～2021 年入学者）（J）		授業コード		FA0410			
科目名称		☆地域文化概論						単位数		2.0 単位			
英文名称		Survey of Regional Culture						授業区分		講義			
科目責任者		下川 雅弘						必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		下川 雅弘						開講時期		1・2 年			
オフィスアワー		前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30						研究室		10-706			
授業概要		この授業では、おもに稲城市を事例として、地域文化の調べ方や史料の読み方について概説し、その調査、読解を行うための基礎知識を修得する。また、各自の地元を事例として、隠れた地域文化を発見し、その魅力を発表する。授業では課題解決型学習・発表・フィールドワークを行う。											
到達目標		1. 地域文化の調べ方や史料の読み方を身に付けることができる。 2. 地域に伝わる民俗資料について、その調査・整理方法を理解できる。 3. 史料に基づいて各地の地域文化の魅力を発見し、そこから日本文化の特徴を考察できる。											
アクティブ・ラーニング型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容											
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：地域文化から考える日本文化（登戸浅間神社の富士塚から考える日本人の富士信仰）（教科書 6～8 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「地域文化レジュメによる発表について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表について（教科書 9～10 頁）／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（原始・古代～近現代） 復習：図書館で『日本歴史地名大系』をコピーする											
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「地域文化レジュメの参考文献について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメの参考文献について（教科書 11～13 頁）／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（矢野口村）／『稲城市の歴史と文化財』にみる穴澤天神社 復習：図書館で『新編武蔵風土記稿』『新編相模国風土記稿』をコピーする											
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『菅村』（小沢城址）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『菅村』（小沢城址）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢城をめぐる伝承と城の構造・特徴（教科書 14～21 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『金程村』（旧跡小沢原古戦場）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『金程村』（旧跡小沢原古戦場）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢原合戦の伝承と古戦場の故地（教科書 22～29 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『矢野口村』（妙覚寺）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『矢野口村』（妙覚寺）の読解と考察（課題解決型学習）／妙覚寺の宝物と小沢蔵屋敷の伝承（教科書 30～34 頁）／訪問する史跡の解説（教科書 43～46 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「民俗資料の調査・整理方法」の部分について教科書を読んでおく 授業：民俗資料の調査・整理方法（教科書 35～39 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物）（教科書 40～43 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）											

9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）（教科書 47～53 頁）／学内の六地藏による石造物調査の練習 復習：石造物調査の練習用の方眼紙を提出する						
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：「ありがた山の石造物調査」の部分について教科書を読んでおく 授業：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「ありがた山の石造物調査」（フィールドワーク） 復習：正課学外活動の感想をフォームで提出する（5 点）／調査報告書と方眼紙を提出する（5 点）						
11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：地域文化レジュメを提出する（30 点）／地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
12	下川 雅弘	【第 12 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
13	下川 雅弘	【第 13 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
14	下川 雅弘	【第 14 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
15	下川 雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（10 点） 授業：地域文化から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習）（教科書 54 頁） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する（5 点）						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。発表に対しては、授業内で補足解説・コメントを行う。						
テキスト・教材		駒沢女子大学講義ノートシリーズ『地域文化概論』 必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。 また、予習課題や発表の準備に際しては、以下の辞書を必ず参照すること。 『日本歴史地名大系』（平凡社）、『国史大辞典』（吉川弘文館）						
評価の基準と方法		予習課題 15%、復習課題 40%、発表（レジュメ）30%、調査報告書 5%、ミニレポート 10%により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○		○	◎	◎		
関連科目								
その他		授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、11～12 月中の土曜日に正課学外活動（ありがた山の石造物調査）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		自治体史編纂の実務経験あり。地域文化の調べ方や魅力などを講義する。						

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F00940
科目名称	法学	単位数	2.0 単位		
英文名称	Law	授業区分	講義		
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	福王 守	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-614		
授業概要	私たちの生活は、法によって規律されています。法は社会をよりよく営んでいくための手段です。その一方で、時にこれは私たちの生活を厳しく制限します。ゆえに、「秩序」と「正義」という相矛盾しがちな 2 つの目的について、いかに妥協点を模索するかが法の責務であるといわれます。前期の授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえて、「法とは何か」ということをいかに伝えたいと思います。できるだけ、身近な裁判例なども紹介します。様々な報道から伝えられる社会問題について、結論を急がずに考えるためのきっかけとなれば幸いです。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本科目シラバスおよびテキスト iii - X 頁の講読 授業 : 法学とは : この授業の目的・内容・学習方法について 【テキスト iii - X 頁】 復習 : テキスト iii - X 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : テキスト 7-21 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 法の特性と日本の法体系【テキスト 7-21 頁】 復習 : テキスト 7-21 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : テキスト 210-219 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 近代市民社会の特徴と法的要請 【テキスト 210-219 頁】 復習 : テキスト 210-219 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : テキスト 21-32 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 法目的としての「秩序と正義」【テキスト 21-32 頁】 復習 : テキスト 21-32 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : テキスト 49-59 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法のあり方 : 実定法の意義と問題点 【テキスト 49-59 頁】 復習 : テキスト 49-59 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : テキスト 59、130-132 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法のあり方 : 判例法と裁判 【テキスト 59、130-132 頁】 復習 : テキスト 59、130-132 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : テキスト 64-65 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法のあり方 : 条理と裁判 【テキスト 64-65 頁】 復習 : テキスト 64-65 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : テキスト 66-69 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の適用 : 事実認定 【テキスト 66-69 頁】 復習 : テキスト 66-69 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : テキスト 69-75 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の適用 : 法解釈における学説の対立 【テキスト 69-75 頁】 復習 : テキスト 69-75 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理			

10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 : これまでの授業の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 83-85 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 公法と私法の区分 【テキスト 83-85 頁】 復習 : テキスト 83-85 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 85-88、219-221 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 公法と私法の分離と融合 【テキスト 85-88、219-221 頁】 復習 : テキスト 85-88、219-221 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : テキスト 157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 社会法の特徴と種類 【テキスト 157-179 頁】 復習 : テキスト 157-179 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : テキスト 7157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 法の体系 : 社会法をめぐる今日の問題 【テキスト 157-179 頁】 復習 : テキスト 157-179 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : テキスト iii - X 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「法学」の総括と発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて（問題解決型学習）【テキスト 全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。						
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。						
テキスト・教材		伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門（第 4 版）』（有斐閣、2005 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）						
参考書		授業を通じて適宜紹介します。						
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				
関連科目	法律学を学ぶ上で、最も基礎となる入門科目です。この授業に基づいて、発展科目としての「法と社会」が組み立てられています。また、日本国憲法Ⅰ・Ⅱも関連性をもって構成されています。なお、2 年次以降に受講できる科目として「国際法」があります。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F01001		
科目名称	数学の世界			単位数	2.0 単位		
英文名称	World of Mathematics			授業区分	講義		
科目責任者	川村 翔			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	川村 翔			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	本講義は共創文化学部・観光文化学部（人間総合学群）の授業の一環として、後の専門分野の修得に不可欠な数学的な基礎知識、また社会生活における数学的知識を活用する応用力を身につける講義である。						
到達目標	高校までに学習した数学の内容について、他の専門授業や社会生活に求められる数学的知識を円滑に使用できるようになる。電卓の使用に慣れ、日常的に計算できるようになる。						
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	川村 翔	【第 1 回】 予習：シラバスを確認し、中学・高校の授業での未修・既修について各自把握しておく。 授業：ガイダンス 復習：ガイダンスで示された履修、課題提出方法等を確認しておく。					
2	川村 翔	【第 2 回】 予習：数と式について、一般参考書等で予習しておく。 授業：数と式（整式・因数分解） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
3	川村 翔	【第 3 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：数と式（一次方程式・連立方程式） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
4	川村 翔	【第 4 回】 予習：関数について、一般参考書等で予習しておく。 授業：関数（一次関数、二次関数） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
5	川村 翔	【第 5 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：関数（二次方程式） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
6	川村 翔	【第 6 回】 予習：図形の性質について、一般参考書等で予習しておく。 授業：図形の性質（合同・相似・三平方の定理） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
7	川村 翔	【第 7 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：図形の性質（円の性質） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
8	川村 翔	【第 8 回】 予習：三角比の性質について、一般参考書等で予習しておく。 授業：図形と計量（三角比、三角関数） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
9	川村 翔	【第 9 回】 予習：とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業：図形と計量（三角形への応用） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
10	川村 翔	【第 10 回】 予習：場合の数について、一般の参考書等で予習する。 授業：場合の数（順列・組合せ） 復習：講義内容について確実な理解ができるようにしておく。					
11	川村 翔	【第 11 回】 予習：確率について、一般の参考書等で予習する。 授業：確率					

		復習 : 講義内容について確実な理解ができるようにしておく。						
12	川村 翔	【第 12 回】 予習 : 整数の性質について、一般の参考書等で予習する。 授業 : 整数の性質 (約数と倍数) 復習 : 講義内容について確実な理解ができるようにしておく。						
13	川村 翔	【第 13 回】 予習 : 第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業 : 設計活動における計算演習 復習 : 講義内容について身近な環境から理解・計算をできるようにする。						
14	川村 翔	【第 14 回】 予習 : 第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業 : 社会活動における計算演習 1 復習 : 講義内容について身近な環境から理解・計算をできるようにする。						
15	川村 翔	【第 15 回】 予習 : 第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業 : 社会活動における計算演習 2 復習 : 講義全体を通して疑問点が残らないように、学習内容を確認しておく。						
授業開始前学習		毎週の講義内容について予め予習資料を各自視聴・通読し予習する。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義内の内容を復習や課題を通して確実に習得できるようにしておく。 課題提出の際に質疑事項を記載する項目を用意するので疑問点があれば記載すること。						
テキスト・教材		講義内で PDF 資料等、適宜資料を配布する。						
参考書		『サンダイヤル 基本チェックノート 高校数学の基本』啓林館						
評価の基準と方法		各講義の出席状況、講義後の課題提出、定期試験にて評価を行う。 配点比率は「出席【2】：課題【3】：定期試験【5】」とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		テキスト、方眼ノート、電卓（千円以下でよい）を用意すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-120-11	授業コード	F01010
科目名称	物理の世界			単位数	2.0 単位
英文名称	World of Physics			授業区分	講義
科目責任者	手塚 貴史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	手塚 貴史			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は共創文化学部・観光文化学部（人間総合学群）の授業の一環として、日常生活や身近な環境における物理現象を理解し、物理学を身近に感じる視点を身に着ける、また後の専門分野の修得に必要な物理学の基礎知識を学習する講義である。				
到達目標	物理学を身近な現象として捉えられるようになる。 電卓の使用に慣れ、日常的に計算できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	手塚 貴史	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認し、中学・高校の授業での未修・既修について各自把握しておく。 授業 : ガイダンス 復習 : ガイダンスで示された履修、課題提出方法等を確認しておく。			
2	手塚 貴史	【第 2 回】 予習 : 思いつく単位記号を書き出す 授業 : 物理学で扱う単位と数学的知識 復習 : 物理学における数学的知識をテキストなどで復習し不明点を解決しておく。			
3	手塚 貴史	【第 3 回】 予習 : 日常的な移動、時間について考察しておく。 授業 : 物体の運動（速さ・速度・変位・合成・相対） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			
4	手塚 貴史	【第 4 回】 予習 : とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業 : 物体の運動（加速度・重力加速度） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			
5	手塚 貴史	【第 5 回】 予習 : 身の回りの物に対する重さや移動について考察しておく。 授業 : 力学（力と運動） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			
6	手塚 貴史	【第 6 回】 予習 : とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業 : 力学（運動方程式・摩擦） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			
7	手塚 貴史	【第 7 回】 予習 : 日常的に物を動かす際の力について考察しておく。 授業 : 仕事とエネルギー（仕事の正負・仕事率） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			
8	手塚 貴史	【第 8 回】 予習 : とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業 : 仕事とエネルギー（運動エネルギー・保存） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			
9	手塚 貴史	【第 9 回】 予習 : 身の回りの環境で熱を感じる、与えることについて考察しておく。 授業 : 熱とエネルギー（熱量・比熱・保存） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			
10	手塚 貴史	【第 10 回】 予習 : とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業 : 熱とエネルギー（物質の三態・熱膨張・仕事） 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。			

11	手塚 貴史	【第 11 回】 予習 : 日常生活における音の高さ低さ、大きさについて考察しておく。 授業 : 音とは何か(波・音) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
12	手塚 貴史	【第 12 回】 予習 : 身の回りの電気や電磁波を活用している物について考察しておく。 授業 : 電気とは何か(電気・電磁波) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
13	手塚 貴史	【第 13 回】 予習 : これまでに講義で学習したエネルギーに関わる事について考察しておく。 授業 : 身の回りの物理学 (エネルギーの利用と生活) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
14	手塚 貴史	【第 14 回】 予習 : 日常生活の中で目にする建物の構造について考察しておく。 授業 : 身の回りの物理学 (構造物や防災技術) 復習 : 講義を基に、テキストを通読して復習する。						
15	手塚 貴史	【第 15 回】 予習 : 第 1 回から第 14 回の講義内容を各自復習しておく。 授業 : まとめ 復習 : テキスト、参考書の再読。とくに講義内で強調した点などを後の専門分野の講義に照らし合わせ独習する。						
授業開始前学習		毎週に講義内容について予めテキストで各自通読し予習する。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義内の内容を復習や課題を通して確実に習得できるようにしておく。 課題提出の際に質疑事項を記載する項目を用意するので疑問点があれば記載すること。						
テキスト・教材		三浦登・前田京剛共著 シグマベスト 理解しやすい 物理基礎, 文英堂, 2022						
参考書								
評価の基準と方法		各講義の出席状況、講義後の課題提出、定期試験にて評価を行う。 配点比率は「出席【2】：課題【3】：定期試験【5】」とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		テキスト、方眼ノート、電卓（千円以下でよい）を用意すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11	授業コード	F01020
科目名称	生物と生命			単位数	2.0 単位
英文名称	Biology and Life			授業区分	講義
科目責任者	鞠子 典子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鞠子 典子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たち人間は生物の一員とされていますが，“あなた”という人間は，生物的，社会的にどのような存在なのでしょう？私たちは自然の恵みを受けて生活していますが，私たちの発達した脳は高度な科学技術を発達させ，私たちが恩恵を受けているはずの環境を破壊するに至っています。現代に生きる私たちには，将来世代に対してこの環境を残す責任があるのでしょうか？この授業では環境，生命，生物としてのヒト，社会的存在としての人間に関する様々なテーマを設定し，最新の話題を盛り込みながら講義していきます。さらに，生物としての女性，社会的存在としての女性という視点でも講義をしていきます。授業の進め方としては，パワポによる講義だけでなく，教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら，講義内容を具体的に理解できるように工夫していきます。				
到達目標	ヒトとは何か，人間とは何かを理解し，人間の活動によって生じた環境問題の理解と解決に資する科学リテラシーを身に着け，持続可能なライフスタイルを大胆に発する能力を身につけます。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－ 複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鞠子 典子	【第 1 回】 授業：生物学を学ぶ意味（ガイダンス） 予習：「人間とは何か」について考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
2	鞠子 典子	【第 2 回】 授業：私たち生物は星のかけらでできているの？ 予習：「生命の起源」に関する話題をインターネットで検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
3	鞠子 典子	【第 3 回】 授業：あなたは「環境」について説明できますか？ 予習：今回のキーワードとなる「主体環境系の概念」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
4	鞠子 典子	【第 4 回】 授業：あなたとあなたのペットの似ているところと似ていないところ 予習：今回のキーワードとなる「生物の共通性と多様性」についてを調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
5	鞠子 典子	【第 5 回】 授業：桜の開花予想はなぜ当たる？ ～日本の四季と自然～ 予習：気象庁のホームページを利用してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
6	鞠子 典子	【第 6 回】 授業：自然の恵みのお値段は？ 予習：今回のキーワードとなる「生態系サービス」についてを調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
7	鞠子 典子	【第 7 回】 授業：映画から水俣病について考えてみよう 予習：「水俣病」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			
8	鞠子 典子	【第 8 回】 授業：マスコミが取り上げる気候変動における真実とフェイク 予習：「気候変動」に関する話題を検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する定			
9	鞠子 典子	【第 9 回】 授業：AI と SDGs 予習：環境問題に関する AI のポジティブ効果とネガティブ効果を考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する			

10	鞠子 典子	【第 10 回】 授業：ヒトはどこから来たのか 予習：私たち「ホモ・サピエンス」について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
11	鞠子 典子	【第 11 回】 授業：ヒトはどこへ向かうのか 予習：私たち「ホモ・サピエンス」の将来について考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
12	鞠子 典子	【第 12 回】 授業：未来世代に対して現代世代は責任を持つべきか 予習：今回のキーワードとなる「世代間倫理」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
13	鞠子 典子	【第 13 回】 授業：生物学的性差とジェンダー性差 予習：女と男はどう違うのか？生物学的視点と社会的視点と分けて考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
14	鞠子 典子	【第 14 回】 授業：あなたの一番関心のある「生物と生命」に関する疑問にお答えします！ 予習：「生物と生命」に関する話題にアンテナを張ろう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する						
15	鞠子 典子	【第 15 回】 授業：生物と生命 総括と試験範囲の説明 予習：「生物と生命」で学んだことを復習し、生物や生命に関する科学リテラシーの必要性について自分の意見をまとめる 復習：試験に向けた勉強をする						
授業開始前学習		常日頃から、授業と関連する話題に強い関心をもってニュースや新聞記事と接すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		ワンポイントで復習できる課題の講評及び解答は講義内で行います。						
テキスト・教材		教科書は指定せず、資料を配布します。						
参考書		「好きになる生物学」 吉田邦久著 （講談社サイエンティフィク） 「面白くてよくわかる！エコロジー」 吉田久義著 （アスペクト） この他講義の中で適宜書籍を紹介します。						
評価の基準と方法		試験 7 0 %，平常点（授業に臨む姿勢・提出物） 3 0 %						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		授業の理解度などを勘案し、授業テーマの順序や内容を多少変更することがあります。 講義で分からないことがある場合は、そのままにせず、いつでも質問してください。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F01060		
科目名称	色彩と科学			単位数	2.0 単位		
英文名称	Chromatics and Science			授業区分	講義		
科目責任者	稲葉 隆			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	稲葉 隆			開講時期	1 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	色彩と人の関わりを、伝達・文化・創造・生活・産業・社会という多面的な視点でとらえ、学ぶ。そのために、知覚・認知心理学をベースとした色彩に関する知識を得るための講義と、実践的な表現技術として身につけるための演習とを毎回繰り返す。						
到達目標	色彩に関する基礎的な知識を学び、配色表現の技術を身につける。それらを生活、創作、実務の場において実践的に活用できるようにする。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	稲葉 隆	【第 1 回】 予習：日常生活においてカラー・デザインがどのような役割を果たしているのかを考える。色が見える条件の 1 つとして、光の性質ついて調べておく。 授業：色が見えるしくみ 1（光と色） テキスト p142（混色）、p52（光と色） 復習：自分自身の色彩感覚を客観的に把握する。					
2	稲葉 隆	【第 2 回】 予習：色が認知できる条件を考える。 授業：色が見えるしくみ 2（目と色）。 テキスト p86（目の働き）【実習】 復習：光の性質、物の表面の性質、さらに視覚系と脳による認知という一連の流れを理解する。					
3	稲葉 隆	【第 3 回】 予習：色の名前にはどのようなものがあるかを調べる。 授業：色彩の伝え方（色名） テキスト p21（色名）、p9 などの「主なパレット」【実習】 復習：色名によるコミュニケーションの長所短所を理解する。					
4	稲葉 隆	【第 4 回】 予習：色を整理し記録するための客観的な方法を考える。 授業：色彩の分類と表記（表色系） テキスト p21（色相とトーン）、p97（清色と濁色①）、p136-138（色彩の見方）【実習】 復習：マンセル表色系（色相・明度・彩度）の成り立ちを理解する。					
5	稲葉 隆	【第 5 回】 予習：色に関するイリュージョンの事例を調べる。 授業：色による視覚的・生理的效果 テキスト p5（進出色と後退色）、p84（グレア錯視）【実習】 復習：色による視覚的效果（対比、同化、恒常性）を整理して理解する。					
6	稲葉 隆	【第 6 回】 予習：色によって気持ちが左右されることがあるかを考える。 授業：色彩の心理的效果（色彩感情） テキスト p116（清色と濁色②）、p134-135（配色を印象によって整理する）【実習】 復習：色が喚起する情緒的な印象を色の 3 属性との関連で考察する。					
7	稲葉 隆	【第 7 回】 予習：自然の中に見られる美しく、心地よい色の秩序について調べる。 授業：色彩構成の基礎（配色調和） テキスト p28（ナチュラルハーモニー）、p29（色相對比）、p128（色相同士の関係）、p142（配色調和の原理）【実習】 復習：色彩が調和する基本条件を整理する。					
8	稲葉 隆	【第 8 回】 予習：複数の色相、あるいは複数のトーンで構成された配色の事例を探す。 授業：配色表現の基本技法①色相とトーン テキスト p35（配色の色数）、p140（カラーパレットを作る）【実習】 復習：配色のための色の選択方法の原則を理解し、実際に配色を作成する。					

9	稲葉 隆	【第 9 回】 予習 : 色相あるいはトーンが徐々に変化するように並べられた配色の事例を探す。 授業 : 配色表現の基本技法②セパレーションとグラデーション テキスト p10 (2つのグラデーション)、p20 (グラデーション×セパレーション)、141 (色を配列・構成する) 【実習】 復習 : 選択した色の配置方法の原則を理解し、実際に配色を作成する。						
10	稲葉 隆	【第 10 回】 予習 : ポスターやパッケージの色使いからどのような感性的な印象が感じられるかを考える。 授業 : 配色表現の基本技法③イメージ表現 総合演習課題として配色作成を中心とした演習をおこなう。 テキスト p24 (季節を配色で表現する)、p40 (感情と配色)、p134-135 (配色を印象によって整理する) 【実習】 復習 : 配色によるイメージ表現の重要性を認識し、テーマ別に配色を作成する。						
11	稲葉 隆	【第 11 回】 予習 : 自分と他者 (家族や友人) の色の好みの共通点と相違点を考える。 授業 : 色彩嗜好 テキスト p133 (イラスト作品に学ぶ配色構成の考え方) 【実習】 復習 : グローバルにみた日本人の色彩嗜好の特徴を整理し考察する。						
12	稲葉 隆	【第 12 回】 予習 : ファッションにおける魅力的なカラー表現の事例を探す。 授業 : カラー・コーディネート(ファッション) テキスト p129 (色と形の調和によるエレガントさ)、p132 (人物と背景の対比と同化) 【実習】 復習 : カラー・コーディネートの基本的な考え方を理解し、実際に試みる。						
13	稲葉 隆	【第 13 回】 予習 : 身近な製品で用いられているカラー・バリエーションの事例を調べる。 授業 : カラー・バリエーション (プロダクト) テキスト p51 (カラーバリエーションの狙い)、p78 (清潔感溢れる質感の表現) 【実習】 復習 : 目的に適した製品の色ぞろえの方法を理解した上で、色と質感・素材感の関係について整理する。						
14	稲葉 隆	【第 14 回】 予習 : 自宅や店舗の室内空間が、どのような色の製品によって構成されているかを調べる。 授業 : カラー・プランニング (インテリア・建築・景観) テキスト p14 (面積比率を考慮した配色計画) 【実習】 復習 : 暮らしを豊かにするインテリア空間のスタイルを整理し考察する。						
15	稲葉 隆	【第 15 回】 予習 : 日本らしい色彩について調べる。 授業 : 文化としてのカラー・デザイン テキスト p45 (色で情報を伝える)、p86 (目の働き) 【実習】 復習 : カラー・ユニバーサル・デザインの事例を探し、その効果が有効か否かを考える。						
授業開始前学習		生活の中で、普段は何気なく目にしている「色」をできるだけ意識して見ること。						
授業内課題のフィードバックの方法		色彩教材『配色用色紙ロング (195mm)』を使った 演習課題などについて随時講評する。						
テキスト・教材		『人気絵師の作品から学ぶ配色で生み出す物語』 (玄光社) 『配色用色紙ロング (195mm)』 (日本カラーデザイン研究所)						
参考書		『配色手帳 増補・新版』 (玄光社) 『人気絵師の作品から学ぶ配色のヒミツ』 (玄光社)						
評価の基準と方法		各回の講義への積極的な参加と演習課題 65%、総合演習課題 (第 10 回を予定) 35%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		1) 色彩教材『配色用色紙ロング (195mm)』は教科書販売期間に必ず入手しておくこと。基本的に個人向け販売されていない教材であり、これがないと演習課題が作成できないので注意する。 2) 以下のものを毎回授業で使用するので準備すること。①色彩教材『配色用色紙ロング (195mm)』、②はさみ、③スティックタイプの固形のり、④筆記具 (多色のボールペン、色鉛筆、マーカーなど)、⑥教科書『人気絵師の作品から学ぶ配色で生み出す物語』						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容		プロダクト、建築、ブランドなど様々な分野の色彩計画業務をおこなっている。それらの実務経験を生かした講義と実践的な演習をおこなう。						

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21	授業コード	F01771
科目名称	スポーツⅠ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Physical Education I	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1・2 年
科目責任者	丸山 麻子	研究室	-		
担当教員	丸山 麻子				
オフィスアワー	-				
授業概要	生涯にわたり健康的な生活を送る上で、自分自身の身体に関する知識・関心を持つことは重要である。そして、心身の健康を維持・増進するためには、運動を取り入れることが望ましい。しかし、誤った方法での運動は効果がないばかりか、心身を害することもあるため、正しい運動の実施方法を理解し、修得することが必要である。 本授業では様々な種類のスポーツを行うことにより、生涯を通して続けられるようなスポーツ・運動を見つけ、上達する方法について探究する。				
到達目標	本授業では様々なスポーツについて調べたうえで体験し、健やかな心身を形成するための運動に関する知識を得るとともに、様々な人と関わりながら互いに協力し合う力を身につけることを目的とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	丸山 麻子	【第 1 回】 予習 : 体育実技にふさわしい服装の準備 授業 : オリエンテーション、スポーツを行う上での注意点 復習 : 伝達事項ポイントの復習			
2	丸山 麻子	【第 2 回】 予習 : ニュースポーツ (ピロポロなど) のルールを調べる 授業 : ニュースポーツ (ピロポロなど) 復習 : 伝達事項ポイントの復習			
3	丸山 麻子	【第 3 回】 予習 : ドッジボールのルールを調べる 授業 : ドッジボール (球技系スポーツ 1) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
4	丸山 麻子	【第 4 回】 予習 : 卓球 (シングルス) のルールを調べる 授業 : 卓球 (シングルス) (ラケット系スポーツ 1) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
5	丸山 麻子	【第 5 回】 予習 : 卓球 (ダブルス) のルールを調べる 授業 : 卓球 (ダブルス) (ラケット系スポーツ 2) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
6	丸山 麻子	【第 6 回】 予習 : 卓球 (団体戦) のルールを調べる 授業 : 卓球 (団体戦) (ラケット系スポーツ 3) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
7	丸山 麻子	【第 7 回】 予習 : バドミントン (シングルス) のルールを調べる 授業 : バドミントン (シングルス) (ラケット系スポーツ 4) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
8	丸山 麻子	【第 8 回】 予習 : バドミントン (ダブルス) のルールを調べる 授業 : バドミントン (ダブルス) (ラケット系スポーツ 5) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
9	丸山 麻子	【第 9 回】 予習 : テーボールのルールを調べる 授業 : テーボール (球技系スポーツ 2) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			
10	丸山 麻子	【第 10 回】 予習 : バスケットボールのルールを調べる 授業 : バスケットボール (球技系スポーツ 3) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習			

11	丸山 麻子	【第 11 回】 予習 : 戦略を考える 授業 : バスケットボール (球技系スポーツ 4) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
12	丸山 麻子	【第 12 回】 予習 : レクリエーションスポーツ (バドボン等) のルールを調べる 授業 : レクリエーションスポーツ (バドボン等) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
13	丸山 麻子	【第 13 回】 予習 : ソフトバレーボールのルールを調べる 授業 : ソフトバレーボール (球技系スポーツ 5) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
14	丸山 麻子	【第 14 回】 予習 : シットティングバレーボールのルールを調べる 授業 : シットティングバレーボール (球技系スポーツ 5) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
15	丸山 麻子	【第 15 回】 予習 : ルールを調べる 授業 : バレーボール (球技系スポーツ 7) (実習) 復習 : プレー・ポイントの復習						
授業開始前学習		日ごろから体を動かす習慣を作り、自らの体をよく知ること。また、受講前に行うスポーツを見るなどして事前にルール等の知識を得てから受講すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎授業において回収するレポートに対しては、理解度の確認および適宜個別にコメントし、授業内にて全体の講評等を行う。						
テキスト・教材		なし						
参考書								
評価の基準と方法		小テスト・レポート課題 (60%)、授業参加態度 (20%)、最終レポート (20%) を総合して評価を行う。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	なし							
その他	受講の際には、ジャージ等運動着、靴下、運動靴 (外履き不可) にて臨むこと。運動を行うために適していないと判断される服装の場合には、受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のための飲み物を持参すること。 また授業内容については、参加人数で適宜変更して行うこともある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21 (J)	授業コード	F01772
科目名称	スポーツ I			単位数	1.0 単位
英文名称	Physical Education I			授業区分	演習
科目責任者	塩嶋 理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	塩嶋 理恵			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動（体操・バドミントン・バレーボール）を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。 スポーツ I の実技種目は、インドア（体育館）で体操・バドミントン・バレーボールなどを行う。				
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
					複数教員の場合の授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	塩嶋 理恵	【第 1 回】 予習：体育実技にふさわしい服装の準備 授業：ガイダンス（授業説明・注意事項） 復習：高等学校で使用した体育館専用シューズの確認			
2	塩嶋 理恵	【第 2 回】 予習：体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業：ゆがみ修正体操（実習） 復習：ゆがみ修正体操 復習			
3	塩嶋 理恵	【第 3 回】 予習：服装とシューズの準備 授業：バドミントン（基本練習・サーブ）（実習） 復習：バドミントンのサーブの復習			
4	塩嶋 理恵	【第 4 回】 予習：バドミントンのルール確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習：バドミントンのルールの復習			
5	塩嶋 理恵	【第 5 回】 予習：バドミントンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・マナー）（実習） 復習：バドミントンのゲームとマナーの復習			
6	塩嶋 理恵	【第 6 回】 予習：バドミントンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：バドミントンのゲームとフォーメーションの復習			
7	塩嶋 理恵	【第 7 回】 予習：バドミントンのシングルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：バドミントンのゲームとフォーメーションの復習			
8	塩嶋 理恵	【第 8 回】 予習：バドミントンのダブルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：バドミントンのゲームとフォーメーションの復習			
9	塩嶋 理恵	【第 9 回】 予習：バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの予習 授業：バレーボール（基本練習、オーバー・アンダーハンドパス）（実習） 復習：バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの復習			
10	塩嶋 理恵	【第 10 回】 予習：バレーボールのアンダーサーブ・オーバーサーブの予習 授業：バレーボール（基本練習・サーブ）（実習） 復習：バレーボールのアンダー・オーバーサーブの復習			

11	塩嶋 理恵	【第 11 回】 予習 : バレーボールのサーブとレシーブの予習 授業 : バレーボール (基本練習・サーブとレシーブ) (実習) 復習 : バレーボールのサーブとレシーブの復習						
12	塩嶋 理恵	【第 12 回】 予習 : バレーボールのゲーム・ルールの予習 授業 : バレーボール (ゲーム・ルール説明) (実習) 復習 : バレーボールのゲーム・ルールの復習						
13	塩嶋 理恵	【第 13 回】 予習 : バレーボールのルールとマナーの予習 授業 : バレーボール (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : バレーボールのルールとマナーの復習						
14	塩嶋 理恵	【第 14 回】 予習 : バレーボールのルールとマナーの予習 授業 : バレーボール (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : バレーボールのルールとマナーの復習						
15	塩嶋 理恵	【第 15 回】 予習 : バスケットボールのドリブルの予習 授業 : バスケットボール (基本練習・ドリブル) (実習) 復習 : バスケットボールのドリブルの復習						
授業開始前学習		体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 8 回目、14 回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。 個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		特にありません						
参考書								
評価の基準と方法		実技態度 70%、技術・試合評価 30%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	スポーツⅡ							
その他	人数調整等により卓球などの他のスポーツを並行して実施することもある。 体操 では各自バスタオルを準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。							

科目分類（2025 年 ～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年 入学者）	100-131-21	授業コード	F01781		
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂⅡ			単位数	1.0 単位		
英文名称	Physical Education Ⅱ			授業区分	演習		
科目責任者	三辻 浩子			必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	三辻 浩子			開講時期	1・2 年		
オフィスアワー	-			研究室	-		
授業概要	自分の身体とは一生つきあって行かねばなりません。そして健康を維持する事が Happy につながります。ストレスの多い日々の中で、音楽を使った運動で心も身体もリフレッシュしましょう。J-pop や K-pop も含め楽しい曲に合わせて動きます。初心者でも問題なく動ける STEP の組み合わせなので安心して参加してください。また、トレーニングの中にはヨガやストレッチ、レジスタンス（筋トレ）の要素も織り交ぜ、バランスよく楽しく運動を進めて行きましょう。毎回、スポーツクラブの 1 レッスン（60 分）が受けられるのと同様のイメージをしてください。最後は横になってヒーリング音楽で安らぎましょう。						
到達目標	・体力向上やシェイプアップできる運動を学ぶ ・身体に良い食事のアドバイス ・基本的な STEP を習得し楽しく動く事を学ぶ ・正しい姿勢を習得することを学ぶ						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	三辻 浩子	【第 1 回】 授業：エアロビクスとは 実技 1（フレックスクッション導入）（実習） ＊健康を考える 予習：エアロビクスについて調べておく 復習：本日の STEP を合致させておく					
2	三辻 浩子	【第 2 回】 授業：ウォームアップについて 実技 2（実習） ＊自己管理法 予習：ウォームアップについて調べておく 復習：本日の STEP を覚える					
3	三辻 浩子	【第 3 回】 授業：メインエクササイズについて 実技 3（実習） ＊H.R（脈拍の変化について） 予習：本日の STEP を合致させておく 復習：本日の S T E P を覚える					
4	三辻 浩子	【第 4 回】 授業：筋肉強化エクササイズついて 実技 4（ダンベル導入）（実習） ＊筋肉をつけるための食事について 予習：本日の STEP を合致させておく 復習：本日の S T E P を覚える					
5	三辻 浩子	【第 5 回】 授業：クールダウンについて 実技 5（実習） ＊食事についてアドバイス 予習：本日の STEP を合致させておく 復習：本日の STEP を覚える					
6	三辻 浩子	【第 6 回】 授業：（1）STEP のコンビネーションについて 実技 6（実習） ＊Step の組み合わせ方について 予習：今までの STEP 名を合致させておく 復習：本日の STEP コンビネーションを復習					
7	三辻 浩子	【第 7 回】 授業：（2）アームス導入 実技 7（実習） ＊Step の組み合わせと腕の動きについて 予習：今までの STEP 名を合致させておく 復習：本日の STEP コンビネーションを復習					
8	三辻 浩子	【第 8 回】 授業：（3）フォーメーション・方向の導入 実技 8（実習） ＊Step の組み合わせと重心の移動について（運動量を上げる方法） 予習：今までの STEP 名を合致させておく					

		復習：フォーメーションの種類を復習						
9	三辻 浩子	【第9回】 授業：(4) キューイングの導入 実技9（実習） * Step の組み合わせと声出しについて 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（STEP のみ） 復習：32 カウントの創作したものを復習						
10	三辻 浩子	【第10回】 授業：(1) 自分で組み合わせてみる 実技10（実習） * Lesson の途中に 32 カウント創作の発表 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（アーム入れ） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
11	三辻 浩子	【第11回】 授業：(2) 自分で組み合わせてみる 実技11（実習） 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（方向入れ） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
12	三辻 浩子	【第12回】 授業：(3) 自分で組み合わせてみる 実技12（実習） 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（シンメトリー） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
13	三辻 浩子	【第13回】 授業：(4) 自分で組み合わせてみる 実技13（実習） 予習：自分で創作してみる 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
14	三辻 浩子	【第14回】 授業：(5) 自分で組み合わせてみる 実技14（実習） 予習：今までのまとめ 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習						
15	三辻 浩子	【第15回】 授業：まとめ 実技15（実習） 予習：提出物の見直し（ステップシート） 復習：今後の自分なりの健康管理を考える						
授業開始前学習		『エアロビクス』が生まれた背景を調べておく。ケネス・H・クーパー、ジャッキー・ソーレンセン、ジェーン・フォンダの 3 人物を調べておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		少しずつ学び覚えた Step を組み合わせ創作を行う。その Step Sheet（用紙あり）を提出する。それに対してコメント（フィードバック）を行う。						
テキスト・教材		プリント配布						
参考書								
評価の基準と方法		実技＋授業態度（片付け・協力度・楽しく動いているか）・・・(80%) 提出物（ステップシート）・・・(20%)						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目								
その他		シューズ・ソックス・ウェア（動ける用意）・筆記用具・タオル・飲料（水分補給）を持参のこと						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類 (2025 年 ～入学者)	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132 (J)	科目分類 (～2024 年 入学者)	100-131-21 (J)	授業コード	F01782
科目名称	スポーツⅡ	単位数	1.0 単位	授業区分	演習
英文名称	Physical Education II	必修・選択	履修ガイド参照	開講時期	1・2 年
科目責任者	塩嶋 理恵	研究室	-		
担当教員	塩嶋 理恵				
オフィスアワー	-				
授業概要	自分の身体とは一生つきあっていかねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。本授業では、ソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。 スポーツⅡの実技種目は、インドア（体育館）でソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。				
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-
				複数教員の場合の授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	塩嶋 理恵	【第 1 回】 予習：体育実技にふさわしい服装の準備 授業：ガイダンス（授業説明・注意事項） 復習：高等学校で使用した体育館専用シューズの確認			
2	塩嶋 理恵	【第 2 回】 予習：体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業：リラックスヨガ（実習） 復習：リラックスヨガの復習			
3	塩嶋 理恵	【第 3 回】 予習：服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（基本練習・サーブ）（実習） 復習：ソフトバレーボールサーブの復習			
4	塩嶋 理恵	【第 4 回】 予習：ソフトバレーボールのルール確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習：ソフトバレーボールのルールの復習			
5	塩嶋 理恵	【第 5 回】 予習：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・マナー）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとマナーの復習			
6	塩嶋 理恵	【第 6 回】 予習：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習			
7	塩嶋 理恵	【第 7 回】 予習：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのフォーメーションの復習			
8	塩嶋 理恵	【第 8 回】 予習：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習			
9	塩嶋 理恵	【第 9 回】 予習：卓球のフォア・バックの予習 授業：卓球（基本練習、フォア・バック）（実習） 復習：卓球のフォア・バックの復習			
10	塩嶋 理恵	【第 10 回】 予習：卓球のサーブの予習 授業：卓球（基本練習・サーブ）（実習） 復習：卓球のサーブの復習			

11	塩嶋 理恵	【第 11 回】 予習 : 卓球のサーブとレシーブの予習 授業 : 卓球 (基本練習・サーブとレシーブ) (実習) 復習 : 卓球のサーブとレシーブの復習						
12	塩嶋 理恵	【第 12 回】 予習 : 卓球のゲーム・ルールの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルール説明) (実習) 復習 : 卓球のゲーム・ルールの復習						
13	塩嶋 理恵	【第 13 回】 予習 : 卓球のルールとマナーの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : 卓球のルールとマナーの復習						
14	塩嶋 理恵	【第 14 回】 予習 : 卓球のルールとマナーの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルールとマナー説明) (実習) 復習 : 卓球のルールとマナーの復習						
15	塩嶋 理恵	【第 15 回】 予習 : 卓球のゲームとルールの予習 授業 : 卓球 (ゲーム・ルールの説明) (実習) 復習 : 卓球のゲームとルールの復習						
授業開始前学習		体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 8 回目、14 回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。 個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		特にありません						
参考書								
評価の基準と方法		実技態度 70%、技術・試合評価 30%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				
関連科目	スポーツ I							
その他	人数に応じて、バドミントンや軽スポーツなどの他のスポーツを並行して実施することもあります。 リラックスヨガでは各自バスタオルを準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。							

平面と立体表現の基礎

科目分類 (2025 年 ～入学者)	SD-M-111	科目分類 (～2024 年 入学者)	140-311-11	授業コード		FG0031
科目名称	平面と立体表現の基礎			単位数		2.0 単位
英文名称	Plane and 3-Dimensional Expression Basics			授業区分		講義
科目責任者	堀邊 阿伊子			必修・選択		履修ガイド参照
担当教員	鈴木(利)・高橋(怜)			開講時期		1 年
オフィスアワー	-			研究室		-
授業概要	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。					
到達目標	三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態 共同
授業 回数	担当者			授業の内容		
1	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明 復習 : 道具の使い方練習		
2	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 2 回】 予習 : 立方体の作成 授業 : スチレンボードによる立方体の製作の指導 復習 : 提出課題の自習		
3	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 3 回】 予習 : 事例検索 授業 : 課題 I (大小複数の立方体による連続する建築空間の構成) 復習 : 提出課題の自習		
4	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 4 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題 I エスキース 復習 : 提出課題の自習		
5	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 5 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題 I エスキース 復習 : 提出課題の自習		
6	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 6 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題 I 講評及び課題 II 説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成) (プレゼンテーション) 復習 : 課題内容の確認		
7	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 7 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題 II エスキース 復習 : 提出課題の自習		
8	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 8 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題 II エスキース 復習 : 提出課題の自習		
9	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 9 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題 II エスキース 復習 : 提出課題の自習		
10	鈴木 利彦 高橋 怜奈			【第 10 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題 II 講評及び課題 III 説明 (上記 2 課題の平面表現) (プレゼンテーション) 復習 : 課題内容の確認		

11	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 11 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲエスキース 復習 : 提出課題の自習						
12	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 12 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲエスキース 復習 : 提出課題の自習						
13	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 13 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲエスキース 復習 : 提出課題の自習						
14	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 14 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲエスキース 復習 : 提出課題の自習						
15	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習 : 授業プロセスの振り返り						
授業開始前学習			出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事						
授業内課題のフィードバックの方法			各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。						
テキスト・教材			特になし						
参考書			適宜紹介する						
評価の基準と方法			課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100 点満点に於ける）は、課題評価 40 点・エスキース 20 点・授業に対する取り組み 40 点とする。						
ディプロマポリシー			「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション	社会性	専門力		判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎			△	
関連科目			建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門						
その他			模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）						
予習・復習の所要時間			講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容									

平面と立体表現の基礎

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-M-111		科目分類（～2024 年 入学者）		140-311-11		授業コード		FG0032					
科目名称		平面と立体表現の基礎						単位数		2.0 単位					
英文名称		Plane and 3-Dimensional Expression Basics						授業区分		講義					
科目責任者		堀邊 阿伊子						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		手塚・堀邊						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。													
到達目標		三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態		共同	
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明 復習：道具の使い方練習												
2	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 2 回】 予習：立方体の作成 授業：スチレンボードによる立方体の製作の指導 復習：提出課題の自習												
3	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 3 回】 予習：事例検索 授業：課題Ⅰ（大小複数の立方体による連続する建築空間の構成） 復習：提出課題の自習												
4	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 4 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅰ エスキース 復習：提出課題の自習												
5	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 5 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅰ エスキース 復習：提出課題の自習												
6	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 6 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅰ 講評及び課題Ⅱ 説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成)（プレゼンテーション） 復習：課題内容の確認												
7	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 7 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅱ エスキース 復習：提出課題の自習												
8	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 8 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅱ エスキース 復習：提出課題の自習												
9	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 9 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅱ エスキース 復習：提出課題の自習												
10	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 10 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅱ 講評及び課題Ⅲ 説明（上記 2 課題の平面表現）（プレゼンテーション） 復習：課題内容の確認												
11	堀邊 阿伊子 手塚 貴史		【第 11 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲ エスキース												

		復習 : 提出課題の自習						
12	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 12 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲエスキース 復習 : 提出課題の自習						
13	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 13 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲエスキース 復習 : 提出課題の自習						
14	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 14 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲエスキース 復習 : 提出課題の自習						
15	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習 : 授業プロセスの振り返り						
授業開始前学習		出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事						
授業内課題のフィードバックの方法		各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。						
テキスト・教材		特になし						
参考書		適宜紹介する						
評価の基準と方法		課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100 点満点に於ける）は、課題評価 40 点・エスキース 20 点・授業に対する取り組み 40 点とする。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		△	
関連科目	建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門							
その他	模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

製図の基礎

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-M-111		科目分類（～2024 年 入学者）		140-311-11		授業コード		FG0041					
科目名称		製図の基礎						単位数		2.0 単位					
英文名称		Drafting Basics						授業区分		講義					
科目責任者		李 志炯						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		李・立川						開講時期		1 年					
オフィスアワー		-						研究室		-					
授業概要		図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶ。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の 1 つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。また、授業では個人演習やディスカッションを通して学びを深める。													
到達目標		設計やデザイン課題で必要となる図面表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間を正しく理解し、また図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身に付けること。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態		共同	
授業 回数	担当者			授業の内容											
1	李 志炯 立川 静香			【第 1 回】 予習：テキスト p.04-05、p.15 の精読 授業：ガイダンス 復習：製図の基本、製図用具の基本の復習											
2	李 志炯 立川 静香			【第 2 回】 予習：テキスト p.06-13 の精読 授業：製図の用具、線の練習 p.06-13（個人演習・ディスカッション） 復習：製図の用具、線の練習の復習											
3	李 志炯 立川 静香			【第 3 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 通り芯・柱 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 通り芯・柱 までの製図仕上											
4	李 志炯 立川 静香			【第 4 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 柱・壁 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 柱・壁までの製図仕上											
5	李 志炯 立川 静香			【第 5 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 建具・家具 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 建具・家具までの製図仕上											
6	李 志炯 立川 静香			【第 6 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 家具・設備機器 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 家具・設備機器までの製図仕上											
7	李 志炯 立川 静香			【第 7 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 寸法・仕上げ p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 寸法・仕上げまでの製図仕上											
8	李 志炯 立川 静香			【第 8 回】 予習：テキスト p.24-27 の精読 授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 断面図の仕上げ											
9	李 志炯 立川 静香			【第 9 回】 予習：テキスト p.24-27 の精読 授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 断面図の完成											
10	李 志炯 立川 静香			【第 10 回】 予習：テキスト p.28-31 の精読 授業：木造 立面図 p.28-31（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 立面図の完成											
11	李 志炯 立川 静香			【第 11 回】 予習：テキスト p.68-73 の精読 授業：RC 造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション）											

		復習 : RC 造 平面図						
12	李 志炯 立川 静香	【第 12 回】 予習 : テキスト p.68-73 の精読 授業 : RC 造 平面図 p.68-73 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 平面図						
13	李 志炯 立川 静香	【第 13 回】 予習 : テキスト p.68-73 の精読 授業 : RC 造 平面図 p.68-73 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 平面図の完成						
14	李 志炯 立川 静香	【第 14 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 断面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 断面図の完成						
15	李 志炯 立川 静香	【第 15 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 立面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 立面図の完成						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別エスキスを実施する。						
テキスト・教材		「新しい建築の製図」 学芸出版社						
参考書								
評価の基準と方法		授業態度と課題の総合点で評価する。 授業態度 20% 課題合計点 80%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目								
その他		シャープペンシル・定規等の製図用具一式を毎回持参すること。 原則、製図用紙は課題ごとに配布する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）	SD-M-111	科目分類（～2024 年 入学者）		140-311-11	授業コード	FG0042	
科目名称	製図の基礎				単位数	2.0 単位	
英文名称	Drafting Basics				授業区分	講義	
科目責任者	李 志炯				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	松元・小鹿				開講時期	1 年	
オフィスアワー	-				研究室	-	
授業概要	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶ。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の 1 つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。また、授業では個人演習やディスカッションを通して学びを深める。						
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる図面表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間を正しく理解し、また図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身に付けること。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	松元 良枝 小鹿 智代	【第 1 回】 予習：テキスト p.04-05、p.15 の精読 授業：ガイダンス 復習：製図の基本、製図用具の基本の復習					
2	松元 良枝 小鹿 智代	【第 2 回】 予習：テキスト p.06-13 の精読 授業：製図の用具、線の練習 p.06-13（個人演習・ディスカッション） 復習：製図の用具、線の練習の復習					
3	松元 良枝 小鹿 智代	【第 3 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 通り芯・柱 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 通り芯・柱 までの製図仕上					
4	松元 良枝 小鹿 智代	【第 4 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 柱・壁 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 柱・壁までの製図仕上					
5	松元 良枝 小鹿 智代	【第 5 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 建具・家具 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 建具・家具までの製図仕上					
6	松元 良枝 小鹿 智代	【第 6 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 家具・設備機器 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 家具・設備機器までの製図仕上					
7	松元 良枝 小鹿 智代	【第 7 回】 予習：テキスト p.18-23 の精読 授業：木造 平面図 寸法・仕上げ p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 寸法・仕上げまでの製図仕上					
8	松元 良枝 小鹿 智代	【第 8 回】 予習：テキスト p.24-27 の精読 授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 断面図の仕上げ					
9	松元 良枝 小鹿 智代	【第 9 回】 予習：テキスト p.24-27 の精読 授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 断面図の完成					
10	松元 良枝 小鹿 智代	【第 10 回】 予習：テキスト p.28-31 の精読 授業：木造 立面図 p.28-31（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 立面図の完成					
11	松元 良枝 小鹿 智代	【第 11 回】 予習：テキスト p.68-73 の精読 授業：RC 造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション）					

		復習 : RC 造 平面図						
12	松元 良枝 小鹿 智代	【第 12 回】 予習 : テキスト p.68-73 の精読 授業 : RC 造 平面図 p.68-73 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 平面図						
13	松元 良枝 小鹿 智代	【第 13 回】 予習 : テキスト p.68-73 の精読 授業 : RC 造 平面図 p.68-73 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 平面図の完成						
14	松元 良枝 小鹿 智代	【第 14 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 断面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 断面図の完成						
15	松元 良枝 小鹿 智代	【第 15 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 立面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 立面図の完成						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別エスキスを実施する。						
テキスト・教材		「新しい建築の製図」 学芸出版社						
参考書								
評価の基準と方法		授業態度と課題の総合点で評価する。 授業態度 20% 課題合計点 80%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目								
その他		シャープペンシル・定規等の製図用具一式を毎回持参すること。 原則、製図用紙は課題ごとに配布する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

図学と透視画の基礎

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-M-111 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）		140-311-11 （J）	授業コード	FG0051	
科目名称			図学と透視画の基礎			単位数	2.0 単位	
英文名称			Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics			授業区分	講義	
科目責任者			堀邊 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員			李・小鹿			開講時期	1 年	
オフィスアワー			-			研究室	-	
授業概要			空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法（パース図法）による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。					
到達目標			設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。					
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者		授業の内容					
1	李 志炯 小鹿 智代		【第 1 回】 予習：「パース」「透視画」という言葉を調べておく 授業：ガイダンス p002-009 復習：必要製図用具を確認し、用意する					
2	李 志炯 小鹿 智代		【第 2 回】 予習：製図用具の確認と持参 授業：基礎平面図形(1)（演習課題） 復習：3 次元を表す 2 次元図面名を覚える					
3	李 志炯 小鹿 智代		【第 3 回】 予習：先回に書いた図面を確認、持参 授業：基礎平面図形(2)（演習課題） 復習：基礎平面図形配布資料と作成した図を確認					
4	李 志炯 小鹿 智代		【第 4 回】 予習：正投影図(1) 事前配布資料を予習 授業：正投影図(1)（演習課題） p024-025, p052-053 復習：正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認					
5	李 志炯 小鹿 智代		【第 5 回】 予習：正投影図(2) 事前配布資料を予習 授業：正投影図(2)（演習課題） p024-025, p052-053 復習：正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認					
6	李 志炯 小鹿 智代		【第 6 回】 予習：内観パース(1) 事前配布資料を予習 授業：内観パース(1) 住宅（グリッド法 a）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(1)配布資料と作成した図を確認					
7	李 志炯 小鹿 智代		【第 7 回】 予習：内観パース(1)配布資料と作成した図の状況を確認 授業：内観パース(2) 住宅（グリッド法 a）着色（演習課題） p052-069 復習：内観パース(2)配布資料と作成した図を確認					
8	李 志炯 小鹿 智代		【第 8 回】 予習：内観パース（3）用の事前配布資料を確認、予習 授業：内観パース(3) 住宅（グリッド法 b）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(3)配布資料と作成した図を確認					
9	李 志炯 小鹿 智代		【第 9 回】 予習：内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着色用具準備 授業：内観パース(4) 住宅（グリッド法 b）着色（演習課題） p052-069 復習：内観パース(4)配布資料と作成した図を確認					
10	李 志炯 小鹿 智代		【第 10 回】 予習：内観パース（5）用の事前配布資料を確認、予習 授業：内観パース(5) 住宅（足線法）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(5)配布資料と作成した図を確認					
11	李 志炯 小鹿 智代		【第 11 回】 予習：内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認 授業：内観パース(6) 住宅（足線法）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(6)配布資料と作成した図を確認					

12	李 志炯 小鹿 智代	【第 12 回】 予習：事前配布資料を確認、予習 授業：外観パース(1) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習：外観パース(1)配布資料と作成した図を確認						
13	李 志炯 小鹿 智代	【第 13 回】 予習：外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業：外観パース(2) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習：外観パース(2)配布資料と作成した図を確認						
14	李 志炯 小鹿 智代	【第 14 回】 予習：外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業：外観パース(3) 商業施設（D 点法）着彩（演習課題） 復習：外観パース(3)配布資料と作成した図を確認						
15	李 志炯 小鹿 智代	【第 15 回】 予習：ここまでの各自の提出物状況を確認 授業：講評 復習：作成してきた図をすべて確認						
授業開始前学習		製図の基礎 の学習内容を確認しておくとう理解しやすい						
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の実施後に講評を行う。						
テキスト・教材		村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』（市ヶ谷出版社） その他、適宜必要資料を配布						
参考書								
評価の基準と方法		積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目		製図の基礎						
その他		製図用具一式、着色画材等を持参すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する担当教員が指導する。						

図学と透視画の基礎

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-M-111 （ J ）	科目分類（～2024 年 入学者）		140-311-11 （ J ）		授業コード	FG0052	
科目名称			図学と透視画の基礎				単位数	2.0 単位	
英文名称			Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics				授業区分	講義	
科目責任者			堀邊 阿伊子				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員			堀邊・立川				開講時期	1 年	
オフィスアワー			-				研究室	-	
授業概要			空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法(パース図法)による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。						
到達目標			設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。						
アクティブ・ラーニング 型授業			有	全授業回数	15 回	メディア科目	-	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者		授業の内容						
1	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 1 回】 予習：「パース」「透視画」という言葉を調べておく 授業：ガイダンス p002-009 復習：必要製図用具を確認し、用意する						
2	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 2 回】 予習：製図用具の確認と持参 授業：基礎平面図形(1)（演習課題） 復習：3 次元を表す 2 次元図面名を覚える						
3	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 3 回】 予習：先回に書いた図面を確認、持参 授業：基礎平面図形(2)（演習課題） 復習：基礎平面図形配布資料と作成した図を確認						
4	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 4 回】 予習：正投影図(1) 事前配布資料を予習 授業：正投影図(1)（演習課題） p024-025, p052-053 復習：正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認						
5	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 5 回】 予習：正投影図(2) 事前配布資料を予習 授業：正投影図(2)（演習課題） p024-025, p052-053 復習：正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認						
6	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 6 回】 予習：内観パース(1) 事前配布資料を予習 授業：内観パース(1) 住宅（グリッド法 a）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(1)配布資料と作成した図を確認						
7	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 7 回】 予習：内観パース(1)配布資料と作成した図の状況を確認 授業：内観パース(2) 住宅（グリッド法 a）着彩（演習課題） p052-069 復習：内観パース(2)配布資料と作成した図を確認						
8	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 8 回】 予習：内観パース（3）用の事前配布資料を確認、予習 授業：内観パース(3) 住宅（グリッド法 b）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(3)配布資料と作成した図を確認						
9	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 9 回】 予習：内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着色用具準備 授業：内観パース(4) 住宅（グリッド法 b）着彩（演習課題） p052-069 復習：内観パース(4)配布資料と作成した図を確認						
10	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 10 回】 予習：内観パース（5）用の事前配布資料を確認、予習 授業：内観パース(5) 住宅（足線法）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(5)配布資料と作成した図を確認						
11	堀邊 阿伊子 立川 静香		【第 11 回】 予習：内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認 授業：内観パース(6) 住宅（足線法）（演習課題） p052-069 復習：内観パース(6)配布資料と作成した図を確認						

12	堀邊 阿伊子 立川 静香	【第 12 回】 予習 : 事前配布資料を確認、予習 授業 : 外観パース(1) 商業施設 (D 点法) (演習課題) 復習 : 外観パース(1)配布資料と作成した図を確認						
13	堀邊 阿伊子 立川 静香	【第 13 回】 予習 : 外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業 : 外観パース(2) 商業施設 (D 点法) (演習課題) 復習 : 外観パース(2)配布資料と作成した図を確認						
14	堀邊 阿伊子 立川 静香	【第 14 回】 予習 : 外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業 : 外観パース(3) 商業施設 (D 点法) 着彩 (演習課題) 復習 : 外観パース(3)配布資料と作成した図を確認						
15	堀邊 阿伊子 立川 静香	【第 15 回】 予習 : ここまでの各自の提出物状況を確認 授業 : 講評 復習 : 作成してきた図をすべて確認						
授業開始前学習		製図の基礎 の学習内容を確認しておく和理解しやすい						
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の実施後に講評を行う。						
テキスト・教材		村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』(市ヶ谷出版社) その他、適宜必要資料を配布						
参考書								
評価の基準と方法		積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目		製図の基礎						
その他		製図用具一式、着色画材等を持参すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容		本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する担当教員が指導する。						

科目分類（2025 年 ～入学者）	SD-M-122 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）	140-331-11 （J）	授業コード	FG0060		
科目名称	建築・インテリアデザイン入門				単位数	2.0 単位	
英文名称	Introduction to Architecture and Interior Design				授業区分	講義	
科目責任者	佐藤 勉				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	佐藤・茂木・山崎				開講時期	1 年	
オフィスアワー	-				研究室	-	
授業概要	建築・インテリア計画の基礎的なプロセスと考え方について学ぶ。日本の近代・現代における住宅作品を題材に、住宅の計画手法を習得する。また、身近な空間のスケール感を身につけ、インテリアの計画手法についても習得する。						
到達目標	建築やインテリアデザインの基本的な考え方を習得すること。図面の読み方、寸法計画、環境計画、内装計画などの空間デザインプロセスの基礎を理解し、建築・インテリアデザインを多面的な視点から捉えられること。						
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容					
1	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 1 回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 復習：授業計画の確認					
2	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 2 回】 予習：住宅の建築計画 事前学習 授業：住宅の建築計画とは？ 復習：住宅の建築計画 資料確認					
3	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 3 回】 予習：寸法計画(1) 事前学習 授業：寸法計画(1)（演習課題） 復習：寸法計画(1) 資料確認					
4	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 4 回】 予習：敷地の読み方と分析 事前学習 授業：敷地の読み方と分析（演習課題） 復習：敷地の読み方と分析 資料確認					
5	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 5 回】 予習：住宅の機能を考える 事前学習 授業：住宅の機能を考える（演習課題） 復習：住宅の機能を考える 資料確認					
6	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 6 回】 予習：住宅の動線計画を考える 事前学習 授業：住宅の動線計画を考える（演習課題） 復習：住宅の動線計画を考える 資料確認					
7	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 7 回】 予習：実際の住宅を分析・考察する 課題準備 授業：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(1)（演習課題） 復習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業					
8	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 8 回】 予習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業 授業：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(2)（演習課題） 復習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業、まとめ					
9	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 9 回】 予習：住宅のインテリア計画 事前学習 授業：住宅のインテリア計画とは？ 復習：住宅のインテリア計画 資料確認					
10	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 10 回】 予習：寸法計画(2) 事前学習 授業：寸法計画(2)（演習課題） 復習：寸法計画(2) 資料確認					
11	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 11 回】 予習：図面の読み方 事前学習 授業：図面の読み方（演習課題） 復習：図面の読み方 資料確認					

12	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 12 回】 予習：室内環境の考え方 事前学習 授業：室内環境の考え方 (演習課題) 復習：室内環境の考え方 資料確認							
13	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 13 回】 予習：内装計画の考え方 事前学習 授業：内装計画の考え方 (演習課題) 復習：内装計画の考え方 資料確認							
14	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 14 回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題準備 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(1) (演習課題) 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業							
15	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 15 回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(2) (プレゼンテーション) 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題まとめ							
授業開始前学習		前期「製図の基礎」科目の内容を見直してしておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出後の授業で講評を行う。							
テキスト・教材		特になし							
参考書									
評価の基準と方法		課題と授業態度等を総合して評価する。 配点 (100 点満点) は、課題①30 点、課題②30 点、授業態度等 40 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○		◎		△	
関連科目									
その他		必要な道具等は授業中に適宜説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員全員が建築・インテリアデザイン分野の実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が建築・インテリアデザインの実務に役立つ講義と実習を行う。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-M-121 （ J ）		科目分類（～2024 年 入学者）		140-330-11 （ J ）		授業コード		FG0070					
科目名称		プロダクトデザイン入門						単位数		2.0 単位					
英文名称		Introduction to Product Design						授業区分		講義					
科目責任者		李 志炯						必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		李 志炯						開講時期		1 年					
オフィスアワー		前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50						研究室		1-207					
授業概要		この授業ではプロダクトデザインの背景、社会との関連性、デザインプロセス、ユーザ調査のための手法とデータの分析、コンセプト作成のための手法などプロダクトをデザインする際に必要な基礎を学びます。													
到達目標		・デザインプロセスを理解し、基礎を身に付けることを目標とします。 ・プロダクト、建築、インテリア等さまざまなデザイン分野の事例を通してデザイン発想法を学びます。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の 授業形態			
授業 回数	担当者			授業の内容											
1	李 志炯			【第 1 回】 予習：シラバスを読む。シラバスに記載されている参考書の第 1 章を読む。 授業：プロダクトデザインとは。 復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインについて調べる。											
2	李 志炯			【第 2 回】 予習：プロダクトデザインの範囲について調査する。 授業：テキスタイルデザイン・陶芸デザイン・家具デザインとは。 復習：テキスタイルデザイン・陶芸デザイン・家具デザインの種類と手法について調べる。											
3	李 志炯			【第 3 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 2、3 章を読む。 授業：プロダクトデザインと社会、プロダクトデザインとビジネス 復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインと社会の関係について調べる。											
4	李 志炯			【第 4 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 4 章を読む。 授業：デザインプロセスについて。ユーザ調査のための手法。 復習：書籍、インターネット等でデザインプロセスについて調べる。											
5	李 志炯			【第 5 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 5 章を読む。 授業：ユーザ調査の事例を紹介。統計学を用いた調査データの分析方法について。 復習：書籍、インターネット等で統計学について調べる。											
6	李 志炯			【第 6 回】 予習： デザイン分野におけるユーザ調査の意義について調べる。 授業： インテリアデザインにおけるユーザ調査と分析データの活用について。 復習： 各デザイン分野におけるユーザ調査と分析データの活用について調べる。											
7	李 志炯			【第 7 回】 予習：ユーザ調査の分析データの活用性について調べる。 授業：ユーザ調査と分析データの活用について。関連の課題を実施（課題①）。 復習：書籍、インターネット等でユーザ調査の分析データの活用性について調べる。											
8	李 志炯			【第 8 回】 予習：ユーザ調査の分析データの活用性について調べる。 授業：課題①のデータを用いたユーザ調査と分析データの活用について。 復習：課題①のデータの分析方法について調べる。											
9	李 志炯			【第 9 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 6、7 章を読む。 授業：コンセプト作成のための手法。視覚化のための手法。 復習：書籍、インターネット等でコンセプトの意義と手法について調べる。											
10	李 志炯			【第 10 回】 予習：コンセプト作成について調べる。 授業：コンセプト作成と視覚化について。関連の課題を実施（課題②）。 復習：第 10 回目の資料をもう一度確認する。											
11	李 志炯			【第 11 回】 予習：デザイン分野における発想力の重要性について調べる。 授業：コンセプトと発想について。 復習：第 11 回目の資料をもう一度確認する。											

12	李 志炯	【第 12 回】 予習 : 書籍、インターネット等で舞台デザインについて調べる。 授業 : 舞台デザインと発想について。関連の課題を実施 (課題③)。 復習 : 第 12 回目の資料をもう一度確認する。						
13	李 志炯	【第 13 回】 予習 : デザイン発想法について調べる。 授業 : 課題②のデータを用いたデザイン発想法について。 復習 : 課題②のデータをもう一度確認する。						
14	李 志炯	【第 14 回】 予習 : 書籍、インターネット等で文化と住まいについて調べる。 授業 : 文化と発想について。関連の課題を実施 (課題④)。 復習 : 第 14 回目の資料をもう一度確認する。						
15	李 志炯	【第 15 回】 予習 : 身近にあるくらしの環境とデザインについて調べる。 授業 : くらしの環境とデザインについて。 復習 : 第 1 ～ 14 回目の資料をもう一度確認する。						
授業開始前学習		プロダクトデザインに関する書籍を読むこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		この授業では課題を 4 回行います。各課題の回答案を授業で共有し、自分と他者の考えの差異を確認します。また、その差異を理解し、それを基に多様な発想ができるように授業中に討論します。						
テキスト・教材		配付資料						
参考書		プロダクトデザインの基礎・スマートな生活を実現する 71 の知識 (株式会社ワークスコーポレーション)						
評価の基準と方法		授業への取り組み 30%、課題、レポートなど提出物 70% で評価。 出席が 3 分 2 以下、または提出物が不足している場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎		△	
関連科目	「建築・インテリアデザイン入門」 "リビングデザイン"はくらしの場である空間のデザインとくらしの道具であるもののデザインを同時に学ぶことで身につきます。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	この授業では、プロダクトデザインの実務経験がある教員が担当し実際の制作に関する知識を生かした現実的な指導が受けられます。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-M-112	科目分類（～2024 年 入学者）		140-311-21	授業コード	FG0151	
科目名称		CAD I				単位数	1.0 単位	
英文名称		CAD I				授業区分	演習	
科目責任者		鈴木 利彦				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		山崎・秋山				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CAD ソフトは VectorWorks（エーアンドエー株式会社）を使用する。						
到達目標		VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても独力でモデリングができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容						
1	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく。テキスト購入。 授業：ガイダンス 復習：教場、機材、ログイン方法再確認。						
2	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 2 回】 予習：教科書 p.010-021 下読み 授業：作業環境と基本操作 p.010-021 復習：教科書 p.010-021 の例題自習						
3	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 3 回】 予習：教科書 p.022-026 下読み 授業：作図操作に慣れる p.022-026 復習：教科書 p.022-026 の例題。p.026 画面表示の検討						
4	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 4 回】 予習：教科書 p.027-036 下読み 授業：基本図形(1) p.027-036 復習：教科書 p.027-036 の例題。p.021 の属性パレット確認。						
5	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 5 回】 予習：教科書 p.037-042 下読み 授業：基本図形(2) p.037-042 復習：教科書 p.037-042 の例題。						
6	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 6 回】 予習：教科書 p.043-044 下読み 授業：名刺と表札を作る p.043-044 復習：名刺課題の提出						
7	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 7 回】 予習：取り込みたい画像（写真等）の準備 授業：スキャナを使って画像を取り込む 復習：スキャナ課題の提出						
8	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 8 回】 予習：一般図（前期「製図の基礎」）の種類を復習しておく。 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(1) p.045-068 復習：開口部の表現は前期「製図の基礎」より復習しておく。						
9	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 9 回】 予習：教科書 p.069-087 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(2) p.069-087 復習：教科書 p.087 までの作業完了						
10	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 10 回】 予習：教科書 p.088-099 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(3) p.088-099 復習：教科書 p.099 までの作業完了						
11	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 11 回】 予習：教科書 p.100-101 下読み 授業：住宅の断面図を描く(1) p.100-101						

		復習 : 教科書 p.101 までの作業完了						
12	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 12 回】 予習 : 教科書 p.102-107 下読み 授業 : 住宅の断面図を描く(2) p.102-107 復習 : 教科書 p.107 までの作業完了						
13	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 13 回】 予習 : 教科書 p.108-112 下読み 授業 : 住宅の立面図を描く p.108-112 復習 : 教科書 p.112 までの作業完了						
14	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 14 回】 予習 : 教科書 p.113-115 下読み 授業 : ビューポート、シートレイヤ p.113-115 復習 : 教科書 p.115 までの作業完了						
15	山崎 陽菜 秋山 照夫	【第 15 回】 予習 : 提出済み課題の確認。 授業 : 到達度チェック 復習 : 到達度チェック問題でできなかった部分の確認						
授業開始前学習		「製図の基礎」で学んだ手描きの製図方法について復習しておく。 テキストを購入しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。 学習用教材については、示された手順に従って各自が繰り返し練習・復習ができる。 各自の提出内容について、評価の基準を明示して採点し返却を行う。						
テキスト・教材		最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション (学芸出版社)						
参考書		「はじめての設計製図」<建築のテキスト> 編集委員会 (学芸出版社)						
評価の基準と方法		授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目	CAD II							
その他	・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・再履修者は CADI-a、CADI-b、CADI-c、CADI-d のどれを履修してもよいが、初回授業で履修したいコマを申しでること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年 ～入学者）		SD-M-112	科目分類（～2024 年 入学者）		140-311-21	授業コード	FG0152	
科目名称		CAD I				単位数	1.0 単位	
英文名称		CAD I				授業区分	演習	
科目責任者		鈴木 利彦				必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		鈴木(利)・高橋(怜)				開講時期	1 年	
オフィスアワー		-				研究室	-	
授業概要		建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CAD ソフトは VectorWorks（イーアンドエー株式会社）を使用する。						
到達目標		VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても独力でモデリングができる。						
アクティブ・ラーニング 型授業		無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同
授業 回数	担当者		授業の内容					
1	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく。テキスト購入。 授業：ガイダンス 復習：教場、機材、ログイン方法再確認。					
2	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 2 回】 予習：教科書 p.010-021 下読み 授業：作業環境と基本操作 p.010-021 復習：教科書 p.010-021 の例題自習					
3	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 3 回】 予習：教科書 p.022-026 下読み 授業：作図操作に慣れる p.022-026 復習：教科書 p.022-026 の例題。p.026 画面表示の検討					
4	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 4 回】 予習：教科書 p.027-036 下読み 授業：基本図形(1) p.027-036 復習：教科書 p.027-036 の例題。p.021 の属性パレット確認。					
5	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 5 回】 予習：教科書 p.037-042 下読み 授業：基本図形(2) p.037-042 復習：教科書 p.037-042 の例題。					
6	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 6 回】 予習：教科書 p.043-044 下読み 授業：名刺と表札を作る p.043-044 復習：名刺課題の提出					
7	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 7 回】 予習：取り込みたい画像（写真等）の準備 授業：スキャナを使って画像を取り込む 復習：スキャナ課題の提出					
8	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 8 回】 予習：一般図（前期「製図の基礎」）の種類を復習しておく。 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(1) p.045-068 復習：開口部の表現は前期「製図の基礎」より復習しておく。					
9	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 9 回】 予習：教科書 p.069-087 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(2) p.069-087 復習：教科書 p.087 までの作業完了					
10	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 10 回】 予習：教科書 p.088-099 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(3) p.088-099 復習：教科書 p.099 までの作業完了					
11	鈴木 利彦 高橋 怜奈		【第 11 回】 予習：教科書 p.100-101 下読み 授業：住宅の断面図を描く(1) p.100-101					

		復習 : 教科書 p.101 までの作業完了						
12	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 12 回】 予習 : 教科書 p.102-107 下読み 授業 : 住宅の断面図を描く(2) p.102-107 復習 : 教科書 p.107 までの作業完了						
13	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 13 回】 予習 : 教科書 p.108-112 下読み 授業 : 住宅の立面図を描く p.108-112 復習 : 教科書 p.112 までの作業完了						
14	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 14 回】 予習 : 教科書 p.113-115 下読み 授業 : ビューポート、シートレイヤ p.113-115 復習 : 教科書 p.115 までの作業完了						
15	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 15 回】 予習 : 提出済み課題の確認。 授業 : 到達度チェック 復習 : 到達度チェック問題でできなかった部分の確認						
授業開始前学習		「製図の基礎」で学んだ手描きの製図方法について復習しておく。 テキストを購入しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。 学習用教材については、示された手順に従って各自が繰り返し練習・復習ができる。 各自の提出内容について、評価の基準を明示して採点し返却を行う。						
テキスト・教材		最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション (学芸出版社)						
参考書		「はじめての設計製図」<建築のテキスト> 編集委員会 (学芸出版社)						
評価の基準と方法		授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目	CAD II							
その他	・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・再履修者は CADI-a、CADI-b、CADI-c、CADI-d のどれを履修してもよいが、初回授業で履修したいコマを申しでること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

家具・陶芸・テキスタイルデザイン入門

科目分類 (2025 年 ～入学者)		SD-M-122		科目分類 (～2024 年 入学者)		授業コード		FG1400							
科目名称		家具・陶芸・テキスタイルデザイン入門				単位数		2.0 単位							
英文名称		Introduction to Furniture, Ceramics and Textile Design				授業区分		演習							
科目責任者		渡辺 賢				必修・選択		履修ガイド参照							
担当教員		高橋(藻)・田中・渡辺(賢)・渡辺(信)				開講時期		1 年							
オフィスアワー		-				研究室		-							
授業概要		3 種類の自然素材を使い、プロダクトデザインの基礎を学ぶ科目。3 グループに分け、交互に 3 種類の内容を学ぶ。 □家具デザイン (5 回) : 木材を使い、素材の特性や道具の使い方を学び、家具デザインの基本プロセスを体験する。 □陶芸デザイン (5 回) : 土を使い、素材である陶土に触れ、土練・成形・絵付け・釉掛け・焼成の工程を体験する。 □テキスタイルデザイン (5 回) : 繊維を使い、織の基本的な要素である素材・色・織物の構造を学び、織造形の入り口を体験する。													
到達目標		3 種類の自然素材に触れ、素材と造形の関係性を追求する。身近なプロダクトを通して人と空間の関係性を探求する。 □家具デザイン: 素材特性の理解とデザインプロセスである調査・企画立案・アイデア展開・設計・制作・プレゼンテーションを習得する。 □陶芸デザイン: 普段生活の中で使用している陶器の制作・製造過程を理解する。 □テキスタイルデザイン: テキスタイル、糸の基本知識を習得する。また織の 3 原組織の実習を体験することにより、織物の基礎を身につけることを目標とする。													
アクティブ・ラーニング 型授業		有		全授業回数		15 回		メディア科目		－		複数教員の場合の授業形態		共同	
授業 回数	担当者		授業の内容												
1	渡辺 賢		【第 1 回】家具デザイン 予習: シラバスを読む、身近な木製品の調査 授業: オリエンテーション、素材体験 復習: 講義内容を振り返り、素材の理解を深める												
2	渡辺 賢		【第 2 回】家具デザイン 予習: テーマ設定、アイデアスケッチ 授業: 企画立案、アイデア展開 復習: アイデアの決定、ヒューマンスケールの確認												
3	渡辺 賢		【第 3 回】家具デザイン 予習: 制作工程の計画 授業: 構造の確認、設計、スケールモデルの制作 (組立) 復習: 制作工程の見直し												
4	渡辺 賢		【第 4 回】家具デザイン 予習: 制作工程の計画 授業: スケールモデルの制作 (組立、仕上げ) 復習: 制作物の完成												
5	渡辺 賢		【第 5 回】家具デザイン 予習: 作品撮影、プレゼンテーションの準備 授業: 講評会 (プレゼンテーション) 復習: データ提出												
6	渡辺 信史 田中 真琴		【第 6 回】陶芸デザイン 予習: シラバスを読む、身近な焼きものを調査する 授業: オリエンテーション、ワークショップ 復習: インターネット等で焼きものを調べる												
7	渡辺 信史 田中 真琴		【第 7 回】陶芸デザイン 予習: アイデアスケッチ 授業: アイデアチェック・土練りと手びねり、玉づくり 復習: 素材と工程を復習する												
8	渡辺 信史 田中 真琴		【第 8 回】陶芸デザイン 予習: 制作方法の確認 授業: 玉づくりによる成形 復習: 制作物の修正												
9	渡辺 信史 田中 真琴		【第 9 回】陶芸デザイン 予習: 絵付けのアイデアスケッチ 授業: 絵付け 復習: プレゼンテーション研究												

10	渡辺 信史 田中 真琴	【第 10 回】陶芸デザイン 予習：プレゼンテーション制作 授業：講評会（プレゼンテーション） 復習：データ提出						
11	高橋 藻由	【第 11 回】テキスタイルデザイン 予習：シラバスを読む、身近なテキスタイルの調査 授業：講義、授業説明、織り機・道具準備 復習：プリントを読み、講義内容を復習する						
12	高橋 藻由	【第 12 回】テキスタイルデザイン 予習：生活空間にある織物をよく観察する 授業：3 種の織り方のサンプル制作 復習：織り方の復習						
13	高橋 藻由	【第 13 回】テキスタイルデザイン 予習：本制作のデザインを考える 授業：本制作デザイン決定、経糸準備、織作業 復習：決定したデザインの完成イメージをする						
14	高橋 藻由	【第 14 回】テキスタイルデザイン 予習：緯糸に使用する糸を考える 授業：本制作織作業 復習：織制作・授業内でやり残した作業を完成させる						
15	高橋 藻由	【第 15 回】テキスタイルデザイン 予習：プレゼンテーション、講評会の準備 授業：織仕上げ作業、作品画像撮影、講評会（プレゼンテーション） 復習：プレゼン資料とともに作品画像を提出						
授業開始前学習		履修ガイドの該当項目を熟読すること。 身近なプロダクトに触れ、素材や機能、また人や空間との関係性を観察すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		それぞれの最終授業で行うプレゼンテーションや講評会を通して、他者や自分自身の作品に対する問題提起や課題解決の方法を確認し整理する。						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書		資料等を適宜配布、紹介する。						
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 70%、受講態度など 30%						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		△	
関連科目	「建築・インテリアデザイン入門」 「プロダクトデザイン入門」							
その他	・この科目では以下の 3 グループに分け、交互に 3 種類の内容を学ぶ。 A 班：家具→陶芸→テキスタイル、B 班：陶芸→テキスタイル→家具、C 班：テキスタイル→家具→陶芸 ・学外で見学会を行う際は、その見学に必要な交通費や入場料は自己負担とする。 ・授業に臨む際は、筆記用具と B4 サイズ以上のスケッチブックを持参する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員は家具・陶芸・テキスタイルデザインそれぞれの実務経験を有している。 本科目ではその経験を活かし、受講生はプロダクトデザインの導入となる実習を行う。							

科目分類（2025 年 ～入学者）		ZM-9-111 （J）	科目分類（～2024 年 入学者）		110-411-11 （J）		授業コード	B23270	
科目名称		☆博物館概論				単位数	2.0 単位		
英文名称		Introduction to Museology				授業区分	講義		
科目責任者		下川 雅弘				必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員		下川 雅弘				開講時期	1 年		
オフィスアワー		前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30				研究室	10-706		
授業概要		本講義では、博物館学とは何か、博物館の定義・種類・目的・機能についての概要を学習した後に、日本および諸外国の博物館の歴史、博物館を取り巻く現状と課題、学芸員の役割と実態について授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。							
到達目標		1、博物館に関する基礎的な知識を修得する。 2、博物館および学芸員に課せられた役割とは何かについて理解できる。							
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態		
授業 回数	担当者	授業の内容							
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：博物館の定義と目的について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の定義と目的（教科書 2 頁から 5 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の定義と目的について要点を整理する							
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：博物館学とは何かについて教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館学とは何か（教科書 6 頁から 7 頁） 復習：博物館学とは何かについて要点を整理する							
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：博物館の基本的機能と学芸員の役割について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の基本的機能と学芸員の役割（教科書 8 頁から 14 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の基本的機能と学芸員の役割について要点を整理する							
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：博物館の種類について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の種類（教科書 15 頁から 17 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の種類について要点を整理する							
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：博物館を支える仕組みについて教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館を支える仕組み（教科書 18 頁から 20 頁） 復習：博物館を支える仕組みについて要点を整理する							
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：博物館組織と博物館を支える人々について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館組織と博物館を支える人々（教科書 21 頁から 22 頁） 復習：博物館組織と博物館を支える人々について要点を整理する							
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：博物館の起源と欧米の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の起源と欧米の博物館の歴史（教科書 23 頁から 25 頁） 復習：博物館の起源と欧米の博物館の歴史について要点を整理する							
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：日本の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業：日本の博物館の歴史（教科書 26 頁から 30 頁） 復習：日本の博物館の歴史について要点を整理する							
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：文化財保護制度の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業：文化財保護制度の歴史（教科書 31 頁から 32 頁） 復習：文化財保護制度の歴史について要点を整理する							
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：文化財保護の体系について教科書の空欄を穴埋めする 授業：文化財保護の体系（教科書 33 頁から 39 頁） 復習：文化財保護の体系について要点を整理する							
11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：文化財保護と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：文化財保護と博物館（教科書 40 頁から 43 頁）（課題解決型学習） 復習：文化財保護と博物館について要点を整理する							

12	下川 雅弘	【第 12 回】 予習：学校教育と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：学校教育と博物館（教科書 44 頁から 45 頁）（課題解決型学習） 復習：学校教育と博物館について要点を整理する						
13	下川 雅弘	【第 13 回】 予習：生涯学習と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：生涯学習と博物館（教科書 46 頁から 48 頁）（課題解決型学習） 復習：生涯学習と博物館について要点を整理する						
14	下川 雅弘	【第 14 回】 予習：博物館の現状と行政改革について教科書の空欄を穴埋めする 授業：博物館の現状と行政改革（教科書 49 頁から 51 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館の現状と行政改革について要点を整理する						
15	下川 雅弘	【第 15 回】 予習：期待される博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業：期待される博物館（教科書 52 頁から 54 頁） 復習：期待される博物館について要点を整理する						
授業開始前学習		普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出課題に対しては、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。						
テキスト・教材		全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版） 駒沢女子大学教科書シリーズ『博物館概論』 駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』						
参考書								
評価の基準と方法		提出課題 70%、授業内テスト 30%により評価する。						
ディプロマポリシー		「カリキュラムマップ」参照						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○	◎	
関連科目	「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館の概要や学芸員の役割などを講義する。							